

PHILIPS

Professional
Display Solutions

T Line

65BDL3552T/75BDL3552T
86BDL3552T



www.philips.co.jp

ユーザーマニュアル(日本語)

安全上の注意

安全のための注意事項とメンテナンス



警告:本書で指定していない制御、調整または手順を使用すると、感電、電氣的障害、機械的災害につながる可能性があります。

ディスプレイを接続し使用しているときは、これらの指示を読んで従ってください。

操作時:

- ・ ディスプレイを直射日光にさらしたりせず、他の熱源から離れた位置に設置してください。
- ・ ディスプレイを油に近づけないでください。プラスチックカバーが損傷する可能性があります。
- ・ 通気口に落下する可能性のある物体を取り除き、ディスプレイの電子機器の適切な冷却を妨げないようにしてください。
- ・ キャビネットの通気口を塞がないでください。
- ・ ディスプレイの位置を定めているとき、電源プラグとコンセントに容易に手が届くことを確認してください。
- ・ 電源コードを取り外すことでディスプレイの電源をオフにする場合、6 秒待ってから電源コードを再び取り付けて通常操作を行ってください。
- ・ Philips が提供する認可された電源コードを使用してください。電源コードが入っていない場合、カスタマサポートにお問い合わせください。
- ・ 操作中、ディスプレイを強い振動や高い衝撃条件にさらさないでください。
- ・ ディスプレイの操作中あるいは運搬中に、モニターを叩いたり落としたりしないでください。
- ・ アイボルトはメンテナンスや設置の際に短期間使用するためのものです。1 時間以上にわたって使用することは推奨されません。長期にわたっての使用は禁止されています。アイボルトを使用する際には、ディスプレイの下に障害物を置かないようにして安全エリアを確保してください。

メンテナンス:

- ・ ディスプレイを損傷の可能性から保護するために、LCD パネルに過剰な圧力をかけないでください。ディスプレイを動かしているとき、フレームをつかんで持ち上げます。LCD パネルに手や指を置いてディスプレイを持ち上げないでください。
- ・ 長時間使用する予定がない場合、ディスプレイのプラグを抜いてください。
- ・ わずかに湿らせた布で洗浄する必要がある場合、ディスプレイのプラグを抜いてください。落ちにくい場合は少量の水をしめらせた布でふき取ってください。ただし、アルコール、アンモニアベースの液体などの有機溶剤を使用してディスプレイを洗浄することは絶対におやめください。
- ・ 感電や装置の永久的な損傷の原因となるため、ディスプレイを埃、雨、水、湿気の多い環境にさらさないでください。
- ・ ディスプレイが濡れたら、できるだけ速やかに乾いた布で拭いてください。
- ・ ディスプレイに異物や水が入ったら、直ちに電源をオフにし、電源コードを抜いてください。それから、異物や水を取り除き、メンテナンスセンターに送ってください。
- ・ 熱、直射日光、極端な低温にさらされる場所でディスプレイを保管したり、使用したりしないでください。
- ・ ディスプレイ最高のパフォーマンスを維持し長く使用するために、次の温度および湿度範囲に入る場所でディスプレイを使用することを強くお勧めします。
 - 温度: 0-40° C 32-104° F
 - 湿度: 20-80% RH
- ・ 輝度の性能を向上させるため、LCD パネルの温度は常に摂氏 25 度に保つ必要があります。

重要:ディスプレイの前を離れるときは、常にスクリーンセーバーをオンにしてください。装置が変化しない静止コンテンツを表示している場合、常に定期的にスクリーンリフレッシュアプリケーションを起動してください。長時間静止画像を表示すると、画面に「残像」または「ゴースト像」として知られる「焼き付き」が表示される原因となります。これは LCD パネル技術ではよく知られた現象です。ほとんどの場合、電源をオフにする「焼き付き」、「残像」、「ゴースト像」は時間とともに徐々に消えます。

警告:「焼き付き」、「残像」、「ゴースト像」症状はひどくなり、消えることも修理することもできなくなります。これは、保証には含まれません。

サービス:

- ・ ケースカバーは専門の修理技術者以外は絶対に開けないでください。
- ・ 修理または統合が必要な場合、最寄りのサービスセンターにお問い合わせください。
- ・ ディスプレイを直射日光にさらさないでください。



本書で設定した指示に従っても本製品が正常に動作しない場合は、修理スタッフまたは最寄りのサービスセンターにお問い合わせください。

安定性上の危険性。

ディスプレイが落下すると、重傷または死亡を引き起こす可能性があります。怪我を防止するため、設置説明書に従って、床 / 壁にディスプレイをしっかりと固定してください。

ディスプレイを接続し使用しているときは、これらの指示を読んで従ってください。



- ・ 長時間使用する予定がない場合、ディスプレイのプラグを抜いてください。
- ・ わずかに湿らせた布で洗浄する必要がある場合、ディスプレイのプラグを抜いてください。電源をオフにしているとき、画面を乾いた布で拭くことができます。ただし、アルコール、溶剤、またはアンモニアベースの液体は絶対に使用しないでください。
- ・ 本書の指示に従っているときにディスプレイが正常に作動しない場合、修理スタッフにお問い合わせください。
- ・ ケースカバーは専門の修理技術者以外は絶対に開けないでください。
- ・ ディスプレイを直射日光にさらしたりせず、他の熱源から離れた位置に設置してください。
- ・ 通気口に落下する可能性のある物体を取り除き、ディスプレイの電子機器の適切な冷却を妨げないようにしてください。
- ・ キャビネットの通気口を塞がないでください。
- ・ ディスプレイは乾燥した状態を保つようにしてください。感電の原因となるため、雨や過度の湿気にさらさないでください。
- ・ 電源ケーブルや DC 電源コードを取り外すことでディスプレイの電源をオフにする場合、6 秒待ってから電源ケーブルや DC 電源コードを取り付けて通常操作を行ってください。
- ・ 感電や装置の永久的な損傷の原因となるため、ディスプレイを雨や過度の湿気にさらさないでください。
- ・ ディスプレイの位置を定めているとき、電源プラグとコンセントに容易に手が届くことを確認してください。
- ・ **重要:** ディスプレイを使用しない場合、スクリーンセーバープログラムを常に有効にしておいてください。コントラストの高い静止画像が長期間画面に表示されていると、画面の前面に「残像」または「ゴースト像」が残ることがあります。これは、LCD 技術に特有の欠点に起因する、よく知られた現象です。ほとんどの場合、電源をオフにすると残像は時間と共に徐々に消えます。残像症状は修理できず、保証に含まれないことにご注意ください。
- ・ 電源コードに 3 ピン取り付けプラグが付属している場合は、接地（アース）された 3 ピンコンセントにコードを接続してください。2 ピンアダプターを取り付けるなどして、電源コードの接地ピンを無効にしないでください。接地ピンは重要な安全機能です。

目次

1. 開梱と設置.....	1	7. 対応するメディア形式.....	48
1.1. 輸送と開梱.....	1	8. 入力モード.....	50
1.2. 梱包箱に含まれているもの.....	4	9. 画素欠陥ポリシー.....	52
1.3. 設置に関する注意.....	4	9.1. 画素とサブ画素.....	52
1.4. 壁に取り付ける.....	5	9.2. 画素欠陥の種類 + ドット定義.....	52
2. 各部の機能.....	7	9.3. 明るいドット欠陥.....	52
2.1. コントロールパネル.....	7	9.4. 暗いドット欠陥.....	53
2.2. 入力 / 出力端子.....	8	9.5. 画素欠陥の近接.....	53
2.3. リモコン.....	11	9.6. 画素欠陥の許容範囲.....	53
2.4. USB カバー.....	15	9.7. MURA.....	53
2.5. 4G モジュール.....	16	10. 清掃とトラブルシューティング.....	54
3. 外部機器を接続する.....	17	10.1. 清掃.....	54
3.1. 外部機器 (DVD/VCR/VCD) の接続.....	17	10.2. トラブルシューティング.....	55
3.2. PC の接続.....	17	11. 技術仕様.....	57
3.3. オーディオ機器の接続.....	18		
3.4. デイジーチェーン構成で複数のディスプレイを 接続する.....	18		
3.5. IR 接続.....	19		
3.6. IR パススルー接続.....	20		
3.7. タッチ操作.....	21		
4. 取り扱い.....	23		
4.1. 接続されたビデオソースから鑑賞する.....	23		
4.2. 画像フォーマットを変更する.....	23		
4.3. 起動画面.....	23		
4.4. Media Player (メディアプレーヤー).....	24		
4.5. Browser (ブラウザー).....	28		
4.6. PDF Player (PDF プレーヤー).....	32		
4.7. CMND & Play.....	34		
4.8. Side Bar (サイドバー).....	35		
5. Setting (設定).....	36		
5.1. Network & internet (ネットワークとインターネ ット).....	36		
5.2. Security (セキュリティ).....	36		
5.3. Signage Display (サインエージ表示).....	36		
5.4. App & notifications (アプリと通知).....	41		
5.5. Display (ディスプレイ).....	41		
5.6. System (システム).....	41		
5.7. Quick Info (クイック情報).....	41		
6. OSD メニュー.....	42		
6.1. OSD メニューをナビゲートする.....	42		
6.2. OSD メニューの概要.....	42		

1. 開梱と設置

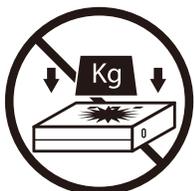
1.1. 輸送と開梱

輸送に関するご注意

- ・ 段ボールは常に垂直に置いてください。
段ボールを他の向きに置かないでください。



- ・ 製品の上に重いものを置かないでください。

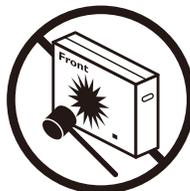


- ・ 段ボールを移動する時はスタッカーを使ってください。

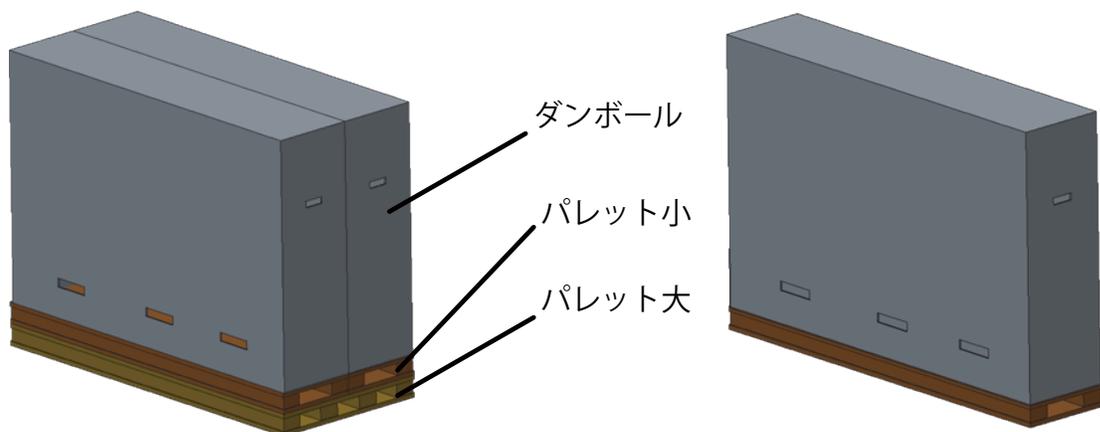
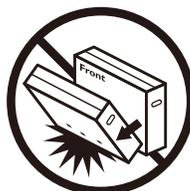


- ・ スタッカーで、小さなパレットを使って1つの段ボールを移動してください。

- ・ 製品に衝撃 / 振動を加えないでください。

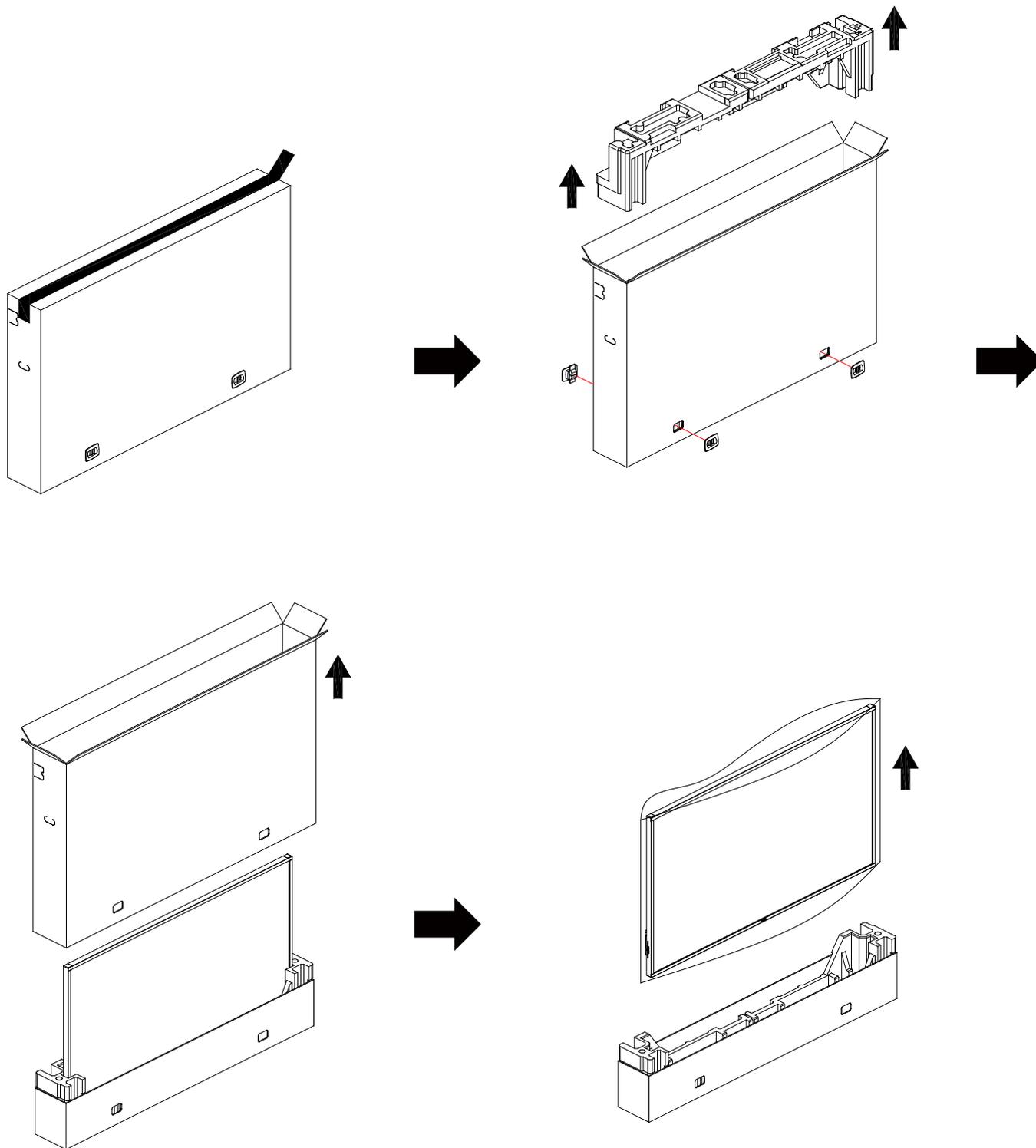


- ・ 製品を落下させないでください。強い衝撃を与えると、内部のコンポーネントを損傷する可能性があります。

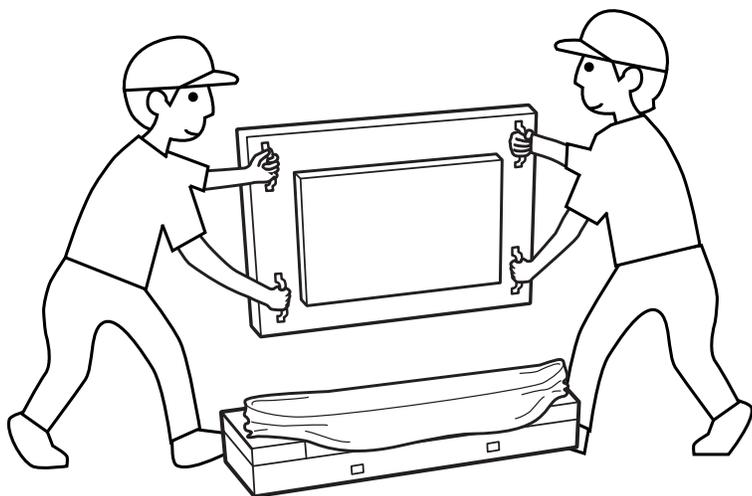


輸送に関するご注意

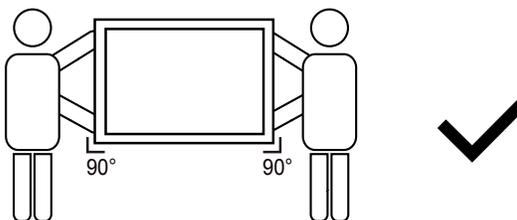
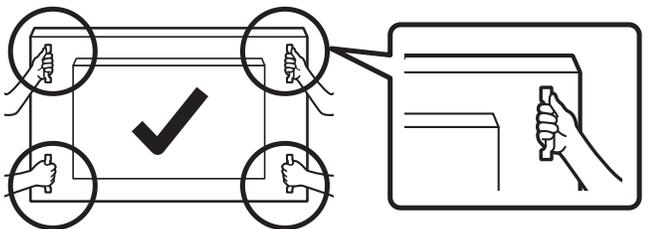
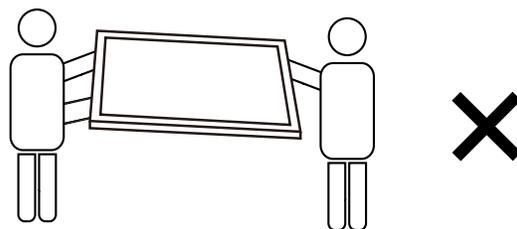
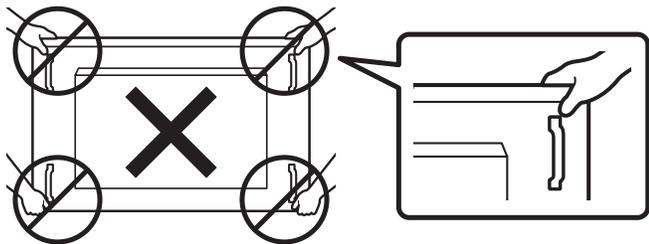
1. 段ボールの周りに付けられたストラップを外します。
2. ナイフで上部のテープを切り段ボールを開きます。
3. クッションを慎重に取り出してください。
4. プラスチック製の段ボールロッカーを外し、段ボール上部を外してください。



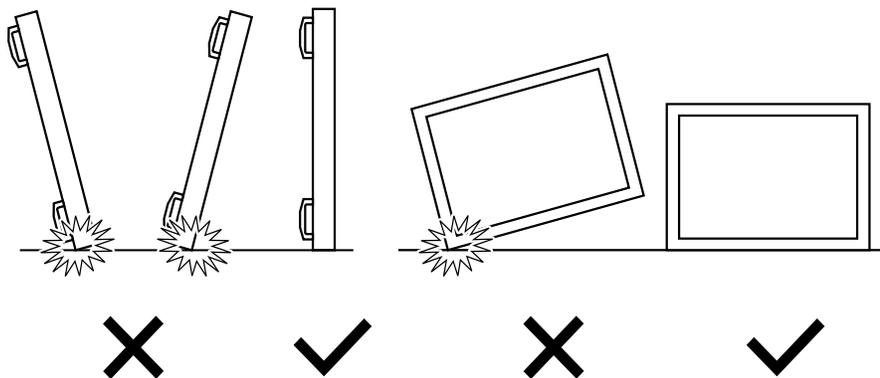
5. 大人2人が両手を使って段ボールからディスプレイを取り出してください。



- ・ 傷がつかないように、ディスプレイの画面には触れないでください。ディスプレイを動かす際にはハンドルを使用してください。
- ・ ディスプレイを移動するときは、ディスプレイを垂直に維持してください。



- ・ ディスプレイを垂直にすることで、ディスプレイの重量が表面に均等に分散します。



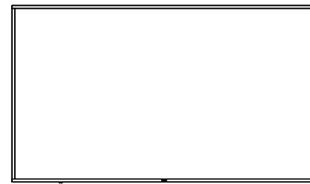
ディスプレイを設置する前に

- ・ 本ディスプレイは、標準アクセサリと共に専用の箱に梱包されています。
- ・ オプションのアクセサリは、別途ご購入が必要です。
- ・ 少なくとも2人の大人がディスプレイを動かすようにしてください。
- ・ 開梱後、内容物に不足がなく、状態に問題がないことをご確認下さい

1.2. 梱包箱に含まれているもの

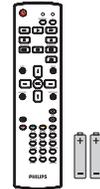
パッケージに次の品目が揃っていることを確認してください：

- ・ LCD ディスプレイ
- ・ クイックスタートガイド
- ・ リモコンとリモコン用単4乾電池
- ・ 電源ケーブル
- ・ RS232 ケーブル
- ・ IR センサーケーブル
- ・ HDMI ケーブル
- ・ USB A-B
- ・ USB C-C
- ・ DVI/D-sub 変換アダプタ
- ・ クリーニングクロス
- ・ Philips ロゴ
- ・ USB カバー
- ・ タッチペン



LCD ディスプレイ

* 付属電源コードは地域によって異なります。



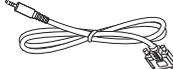
リモコンとリモコン用単4乾電池



クイックスタートガイド



電源ケーブル



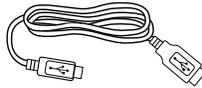
RS232ケーブル



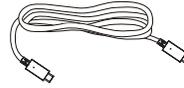
IR センサーケーブル



HDMIケーブル



USB A-B



USB C-C



DVI/D-sub変換アダプタ



クリーニングクロス



Philipsロゴ



USBカバー



タッチペン

* 項目は地域によって異なる場合があります

* ディスプレイデザインとアクセサリは、表示されている画像と異なる場合があります。

メモ：

- ・ 他の地域の場合は、その地域のコンセントの AC 電圧と一致し、その国の安全規定で承認されている適合する電源コードを使用してください。(H05W-F タイプ、2G または 3G、0.75 または 1 mm² を使用します)。
- ・ 製品を開梱した後は、梱包材を適切に保管してください。

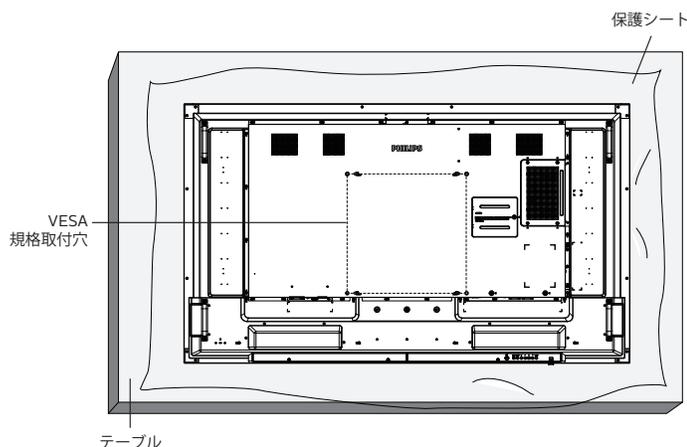
1.3. 設置に関する注意

- ・ 本ディスプレイに付属する電源ケーブルのみを使用してください。延長コードが必要な場合は、代理店にお問い合わせください。
- ・ 本ディスプレイは、倒れる可能性を考慮して、平らな面に設置してください。ディスプレイの背面と壁の間には、適切な換気が保てるようにスペースを確保してください。台所、浴室など、湿気のある場所に本ディスプレイを設置しないでください。こういった場所では、内部部品の寿命が短くなる可能性があります。
- ・ 高度が 3,000 m 以上の場所に本ディスプレイを設置しないでください。こういった場所では、誤動作する可能性があります。

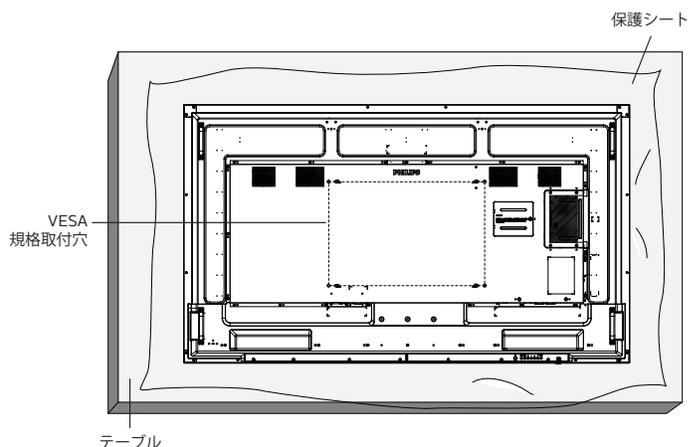
1.4. 壁に取り付ける

壁に本ディスプレイを取り付ける場合は、標準の壁取り付けキット（市販品）が必要です。北米では TUV-GS および / または UL1678 規格に準拠した取り付けインタ - フェイスを使用してください。

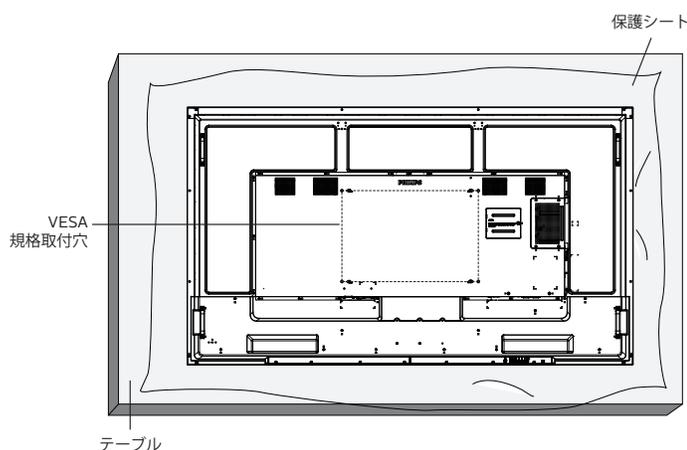
65BDL3552T



75BDL3552T



86BDL3552T



1. ディスプレイよりも大きい平らで水平な面を用意し、その上に厚い保護シートを広げて、画面を傷つけずに操作できるようにしてください。
2. すべてのタイプの取り付け（壁掛け、天上取り付け、テーブルスタンドなど）に対応するアクセサリがあることを確認してください。
3. 取り付けにあたっては取付金具に同梱の説明書をよくお読み下さい。取付手順を誤ると、破損や作業者の怪我につながる恐れがあります。誤った取付方法が原因で生じた破損は、当社の保証の対象外となりますので、ご注意ください。
4. 壁取り付けキットには、M8 取り付けねじ（取り付けブラケットの厚さより 15 mm 以上長いもの）を使用し、しっかりと締め付けてください。

1.4.1. VESA 規格取付穴

65BDL3552T	400(H) x 400(V) mm
75BDL3552T	600(H) x 400(V) mm
86BDL3552T	600(H) x 400(V) mm

注意:

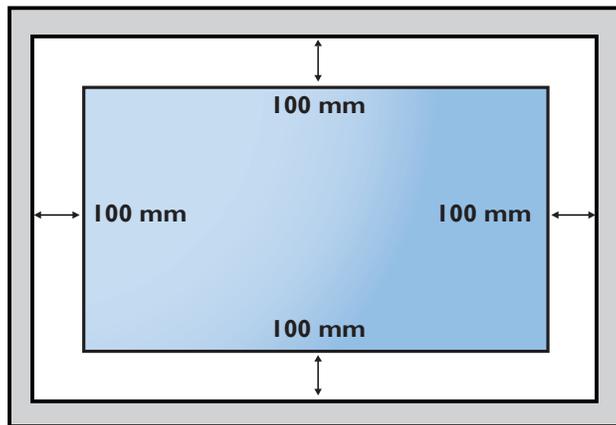
本製品の落下を防止するために:

- 本製品を壁または天井へ設置する場合は、市販の金属製ブラケットを使用して設置することを推奨します。設置に関する詳細な手順については、ブラケットに付属の取扱説明書を参照してください。
- 地震または他の自然災害が発生した場合に本ディスプレイが落下することがないように、取り付け位置については、ブラケットのメーカーにお問い合わせください。
- 本ディスプレイは背が高く重いため、設置は4人の技術者が行うようにしてください。

換気用に必要なスペース

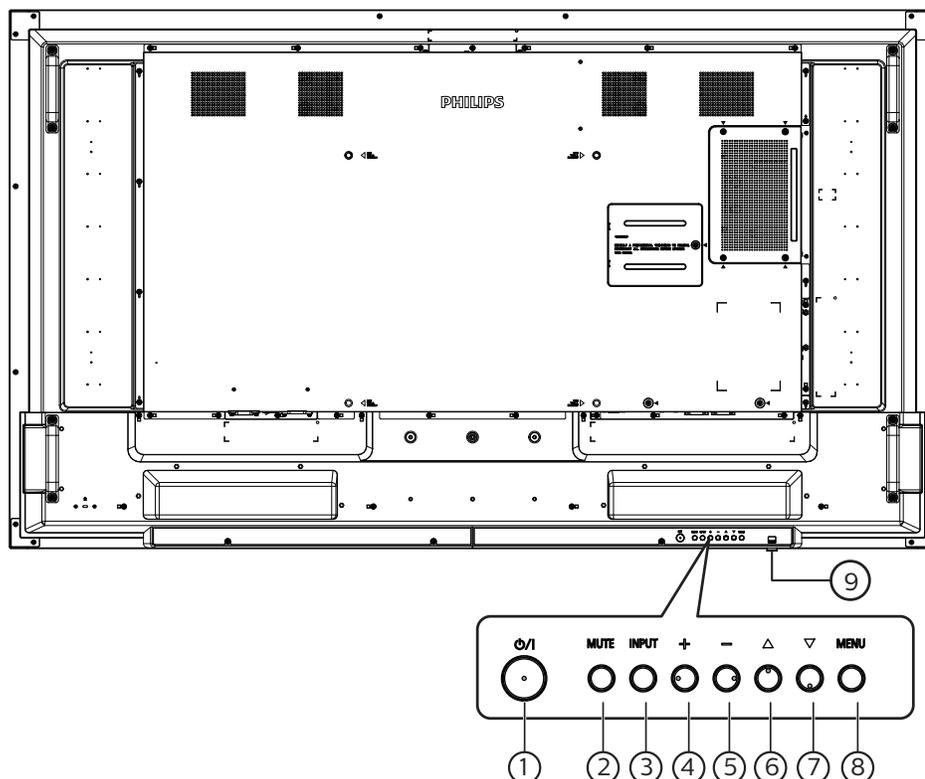
換気のために、上部、背面、左右に100 mmのスペースを空けてください。

注記: ディ스플레이を壁に取り付ける場合は、専門技術者にご相談されることを推奨します。取り付けを専門技術者が行っていない場合、ディスプレイに損傷が発生した場合はお客様の責任となります。



2. 各部の機能

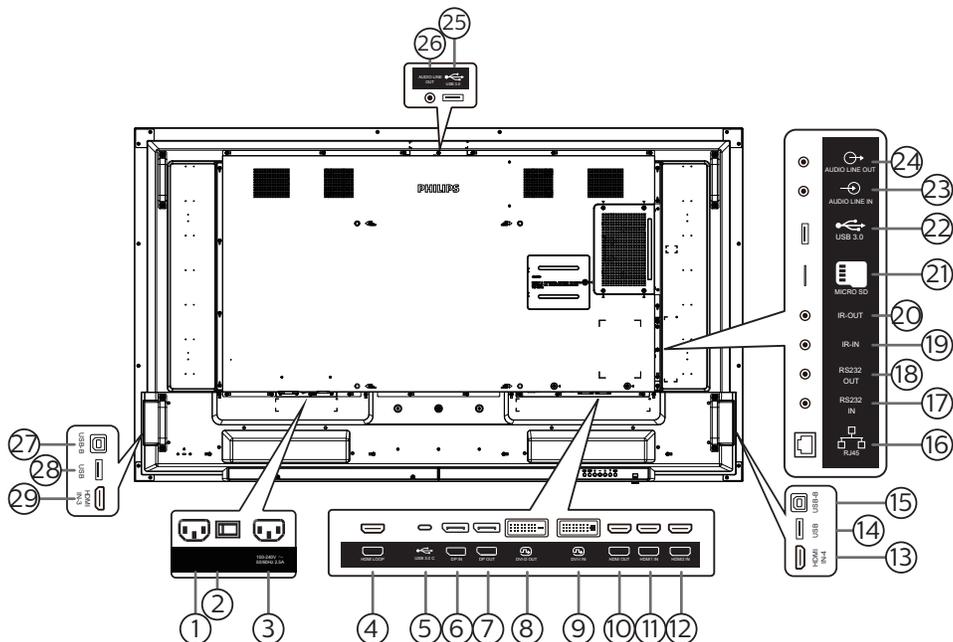
2.1. コントロールパネル



- ① [] ボタン
ディスプレイをオンにしたり、スタンバイモードにします。
- ② [ミュート] ボタン
音声をミュートしたり、音声を復元したりします。
- ③ [入力] ボタン
入力ソースを選択します。
- ④ [+] ボタン
OSD メニューが ON の時には調整を上げ、OSD メニューが OFF のときには、音声出力レベルを上げます。
- ⑤ [-] ボタン
OSD メニューが ON のときには調整を下げ、OSD メニューが OFF のときには音声出力レベルを下げます。
- ⑥ [▲] ボタン
OSD メニューがオンのときには選択した項目のレベルを1つ上げます。
- ⑦ [▼] ボタン
OSD メニューがオンのときには選択した項目のレベルを1つ下げます。
- ⑧ [メニュー] ボタン
OSD メニューがオンのときには前のメニューに戻ります。また、このボタンは、OSD メニューがオフのときに OSD メニューを有効にするためにも使用します。
- ⑨ リモコンセンサーと電源状態インジケータ
 - リモコンからの指令信号を受信します。
 - 本ディスプレイの動作状態を表示します：
 - 本ディスプレイの電源がオンのときは緑色に点灯
 - 本ディスプレイがスタンバイモードのときは赤色に点灯
 - { スケジュール } が有効の場合は、緑色と赤色に点滅
 - 赤色点滅の場合は故障の検出を示す
 - 本製品の主電源がオフの場合消灯する*** リモコンの性能を向上させるため、IR センサーケーブルを使用してください(3.5の説明を参照してください)。**

2.2. 入力 / 出力端子

65BDL3552T



① AC 入力

壁コンセントからの AC 電源入力。

② 主電源スイッチ

主電源のオン / オフを切り替える。

③ AC 出力

メディアプレーヤーの AC 入力ジャックに AC 電力を供給します。

④ HDMI ループ

HDMI により次のモニターに画面を出力します。

⑤ USB 3.0 C

ディスプレイおよびタッチ機能に対応します。

⑥ DisplayPort 入力 / ⑦ DisplayPort 出力

DisplayPort ビデオ入力 / 出力。

⑧ DVI-D 出力 / ⑨ DVI-I 入力

DVI ビデオ出力 / 入力。

⑩ HDMI 出力

HDMI ケーブルを経由して、シンクデバイスに接続します。

⑪ HDMI1 入力 / ⑫ HDMI2 入力 / ⑬ HDMI4 入力

HDMI ケーブルを経由して、ソースデバイスに接続します。

⑭ USB

外部 PC に接続し、タッチ機能をサポートします。

⑮ USB-B

コネクタを PC に接続します。

⑯ RJ-45

LAN 制御機能は、オプションの OPS モジュールを取り付けるために、コントロールセンターからリモートコントロール信号を送信するために使用されます。

⑰ RS232 入力 / ⑱ RS232 出力

Android RS232 ネットワーク入力 / 出力は、システムインテグレータのカスタマイズされたプロトコル専用です。

⑲ IR 入力 / ⑳ IR 出力

ループスルー機能向けの IR 信号入力 / 出力。

メモ:

- このディスプレイのリモコンセンサーは、ジャック [IR 入力] が接続されると、動作を停止します。
- 本ディスプレイを使ってお持ちの AV デバイスをリモート操作する場合は、20 ページに記載されている「IR パススルー接続」を参照してください。

㉑ MICRO SD

micro SD カードを挿入します。

㉒ Android USB 3.0 入力

Android USB3.0 入力。

㉓ 音声入力

VGA ソース用の音声入力 (3.5mm ステレオ電話)。

㉔ 音声出力

外部 AV デバイスへの音声出力。

㉕ USB 3.0

USB 3.0 ストレージデバイスを接続します。

㉖ 音声出力

外部 AV デバイスへの音声出力。

㉗ USB-B

外部 PC に接続し、タッチ機能をサポートします。

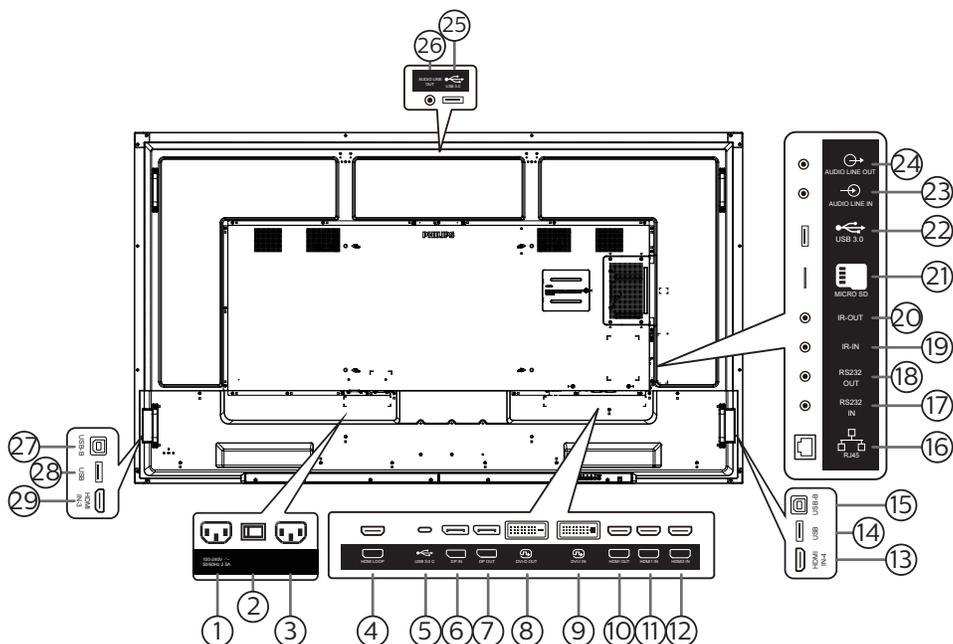
㉘ USB

USB ストレージデバイスを接続します。

㉙ HDMI3 入力

HDMI ケーブルを経由して、ソースデバイスに接続します。

75BDL3552T/86BDL3552T



① AC 出力

メディアプレーヤーの AC 入力ジャックに AC 電力を供給します。

② 主電源スイッチ

主電源のオン / オフを切り替える。

③ AC 入力

壁コンセントからの AC 電源入力。

④ HDMI ループ

HDMI により次のモニターに画面を出力します。

⑤ USB 3.0 C

ディスプレイおよびタッチ機能に対応します。

⑥ DisplayPort 入力 / ⑦ DisplayPort 出力

DisplayPort ビデオ入力 / 出力。

⑧ DVI-D 出力 / ⑨ DVI-I 入力

DVI ビデオ出力 / 入力。

⑩ HDMI 出力

HDMI ケーブルを経由して、シンクデバイスに接続します。

⑪ HDMI1 入力 / ⑫ HDMI2 入力 / ⑬ HDMI4 入力

HDMI ケーブルを経由して、ソースデバイスに接続します。

⑭ USB

外部 PC に接続し、タッチ機能をサポートします。

⑮ USB-B

コネクタを PC に接続します。

⑯ RJ-45

LAN 制御機能は、オプションの OPS モジュールを取り付けるために、コントロールセンターからリモートコントロール信号を送信するために使用されます。

⑰ RS232 入力 / ⑱ RS232 出力

Android RS232 ネットワーク入力 / 出力は、システムインテグレーターのカスタマイズされたプロトコル専用です。

⑲ IR 入力 / ⑳ IR 出力

ループスルー機能向けの IR 信号入力 / 出力。

メモ:

- このディスプレイのリモコンセンサーは、ジャック [IR 入力] が接続されると、動作を停止します。
- 本ディスプレイを使ってお持ちの AV デバイスをリモート操作する場合は、20 ページに記載されている「IR パススルー接続」を参照してください。

㉑ MICRO SD

micro SD カードを挿入します。

㉒ Android USB 3.0 入力

Android USB3.0 入力。

㉓ 音声入力

VGA ソース用の音声入力 (3.5mm ステレオ電話)。

㉔ 音声出力

外部 AV デバイスへの音声出力。

㉕ USB 3.0

USB 3.0 ストレージデバイスを接続します。

㉖ 音声出力

外部 AV デバイスへの音声出力。

㉗ USB-B

外部 PC に接続し、タッチ機能をサポートします。

㉘ USB

USB ストレージデバイスを接続します。

㉙ HDMI3 入力

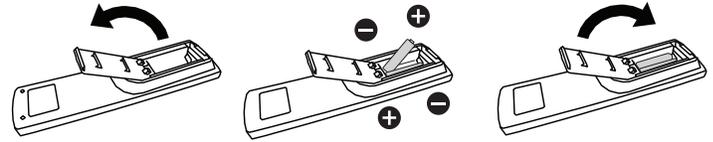
HDMI ケーブルを経由して、ソースデバイスに接続します。

2.2.1. リモコンに乾電池を挿入する

以下に従い、乾電池を入れて下さい。

乾電池を取り付ける、または交換する：

1. カバーを押してスライドさせ、開いてください。
2. 極性 (+) と (-) を正しい位置にして乾電池を挿入してください。
3. カバーを閉じてください。



注意：

乾電池を誤って使用すると、液漏れまたは爆発を引き起こす可能性があります。以下の指示に必ず従ってください：

- ・ 極性 (+) と (-) を正しい位置にして「単 4」乾電池を挿入してください。
- ・ 違う種類の乾電池を一緒にして使用しないでください。
- ・ 使用済みの乾電池と新しい乾電池を一緒にして使用しないでください。混ぜて使用した場合、液漏れが発生したり、乾電池の寿命が短くなった可能性があります。
- ・ 切れた乾電池は乾電池収納部で液漏れする可能性があるため、直ちに取出してください。皮膚が負傷する可能性があるため、乾電池から漏れた酸に触れないでください。
- ・ 電池を火や加熱炉に廃棄したり、機械的に押しつぶしたり切断したりすると、爆発する恐れがあります。電池を非常に高温になる環境に放置すると、爆発や可燃性の液体またはガスの漏れが発生する可能性があります。また、電池を非常に低い空気圧にさらすと、爆発または可燃性の液体またはガスの漏れを引き起こす可能性があります。

注記： 長期間にわたって使用しない場合は、乾電池収納部から乾電池を取り外してください。

2.2.2. リモコンの取り扱い

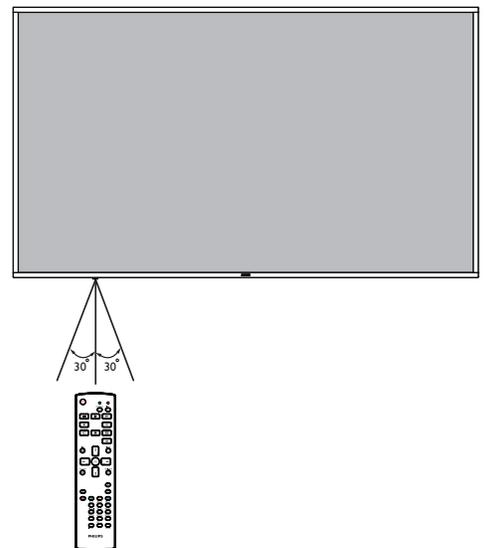
- ・ リモコンを落としたり、衝撃を与えたりしないでください。
- ・ リモコンの内部に液体が入らないようにしてください。リモコンに水が入った場合は、乾いた布で直ちに拭いてください。
- ・ 熱や蒸気を発生するものの近くに、リモコンを置かないでください。
- ・ リモコンの乾電池を交換する以外の理由で、リモコンを分解しようとししないでください。

2.2.3. リモコンの動作範囲

ボタンを押すときに、リモコンの前面上部をディスプレイのリモートセンサーに向けてください。

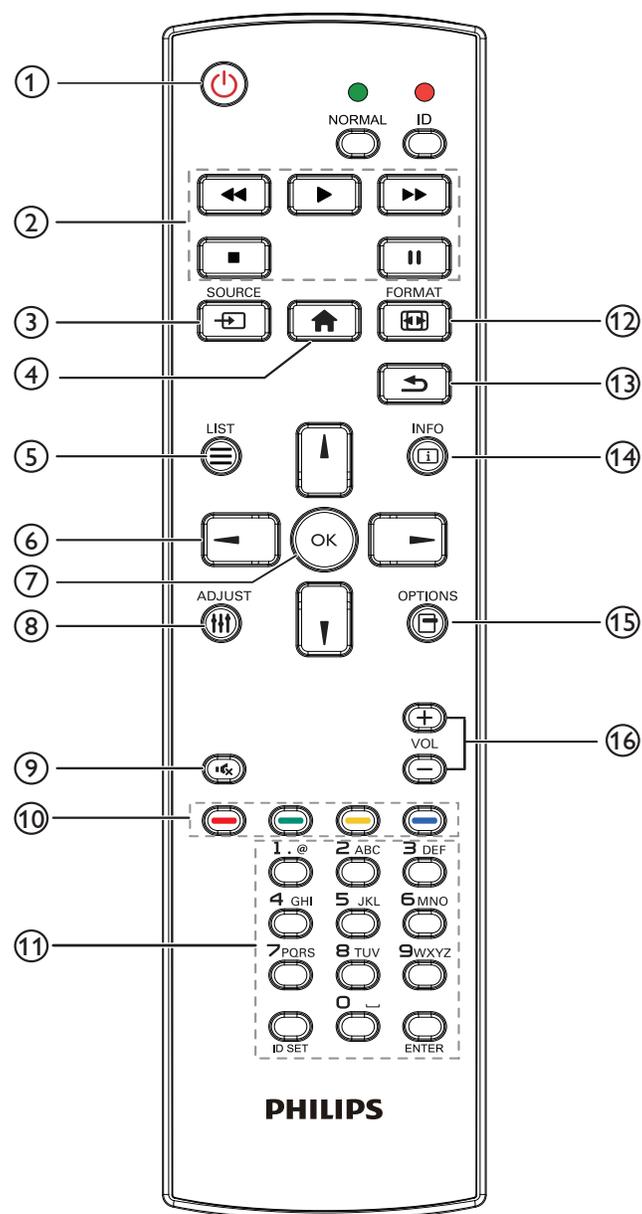
ディスプレイのセンサーから 5 メートル (16 フィート) 以内の距離で、水平方向と垂直方向に 30 度未満の範囲内でリモコンを使用してください。

注記： ディスプレイのリモコンセンサーに直射日光や強い照明が当たっていたり、またはリモコンとディスプレイのリモートセンサーの間に障害物がある場合は、リモコンが適切に作動しないことがあります。



2.3. リモコン

2.3.1. 一般の機能



① [] 電源ボタン

電源をオン / オフに切り替えます。

② [Play] ボタン

メディアファイルの再生を制御します (メディア入力の場合のみ)

フリーズ機能

一時停止: すべての入力コンテンツをフリーズするためのホットキー。

再生: すべての入力コンテンツのフリーズを解除するためのホットキー。

③ [] ソースボタン

ルートメニュー: ビデオソースの OSD に移動します。

④ [] ホームボタン

ルートメニュー: メインメニューの OSD に移動します。

その他: OSD を終了します。

⑤ [] リストボタン

予約済み。

⑥ ナビゲーションボタン



ルートメニュー: スマートピクチャーの OSD に移動します。
メインメニュー: 選択した項目を上に移動して調整します。
IR デイジーチェーンメニュー: 操作するグループ ID 番号を増やします。



ルートメニュー: オーディオソースの OSD に移動します。
メインメニュー: 選択した項目バーを下に移動して調整します。
IR デイジーチェーンメニュー: 操作するグループ ID 番号を減らします。



メインメニュー: メニューの前のレベルに移動します。
ソースメニュー: ソースメニューを終了します。

音量メニュー: 音量を小さくします。



メインメニュー: メニューの次のレベルに移動するか、選択したオプションを設定します。

ソースメニュー: 選択したソースに移動します。

音量メニュー: 音量を大きくします。

⑦ [OK] ボタン

ルートメニュー: Primary (プライマリ) / Secondary (セカンダリ) モードの IR デイジーチェーンの OSD に移動します。

メインメニュー: 入力または選択を確定します。

⑧ [] 調整ボタン

Auto Adjust (自動調整) の OSD に移動します (VGA の場合のみ)

⑨ [] ミュートボタン

音声をミュートしたり、ミュート解除したりします。

⑩ [] [] [] [] 色ボタン

タスクやオプションを選択します。(メディア入力の場合のみ)

[] ウィンドウ選択機能用のホットキー。

⑪ [] 番号 / ID 設定 / 入力 ボタン

ネットワーク設定の際にテキストを入力します。

ここを押して、ID を設定します。詳細については 2.3.2. リモコン ID を参照してください。

⑫ [] 形式ボタン

画像ズームモードを [フル]、[4:3]、[1:1]、[16:9]、[21:9]、[カスタム] から選択します。

⑬ [] 戻るボタン

前のページに戻る、または前の機能を終了します。

⑭ [] 情報ボタン

インフォメーション OSD を表示します。

⑮ [] オプションボタン

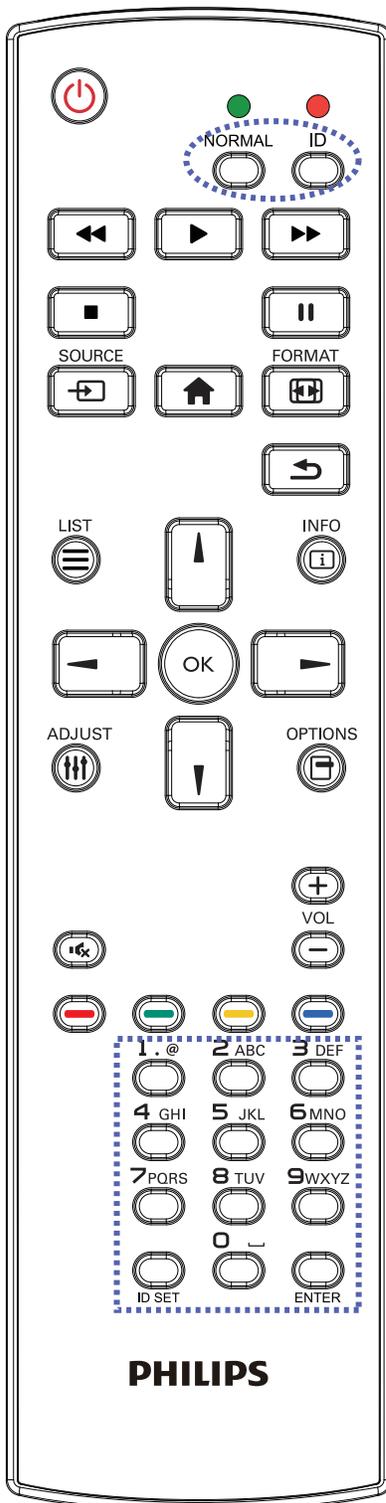
予約済み。

⑯ [] [] 音量ボタン

音量を調節します。

2.3.2. リモコン ID

複数台のディスプレイを使用する場合は、リモコンの ID 番号を設定してください。



[ID] ボタンを押すと、赤い LED が 2 回点滅します。

1. ID モードに移行するためには、[ID SET] ボタンを 1 秒以上押し続けてください。赤い LED が点灯します。

[ID SET] ボタンを再度押すと、ID モードを離れます。赤い LED が消えます。

[0] ~ [9] の数字を押して、コントロールするディスプレイを選択してください。

例：ディスプレイ番号 1 では、[0] と [1]、ディスプレイ番号 11 では、[1] と [1] を押し続けてください。

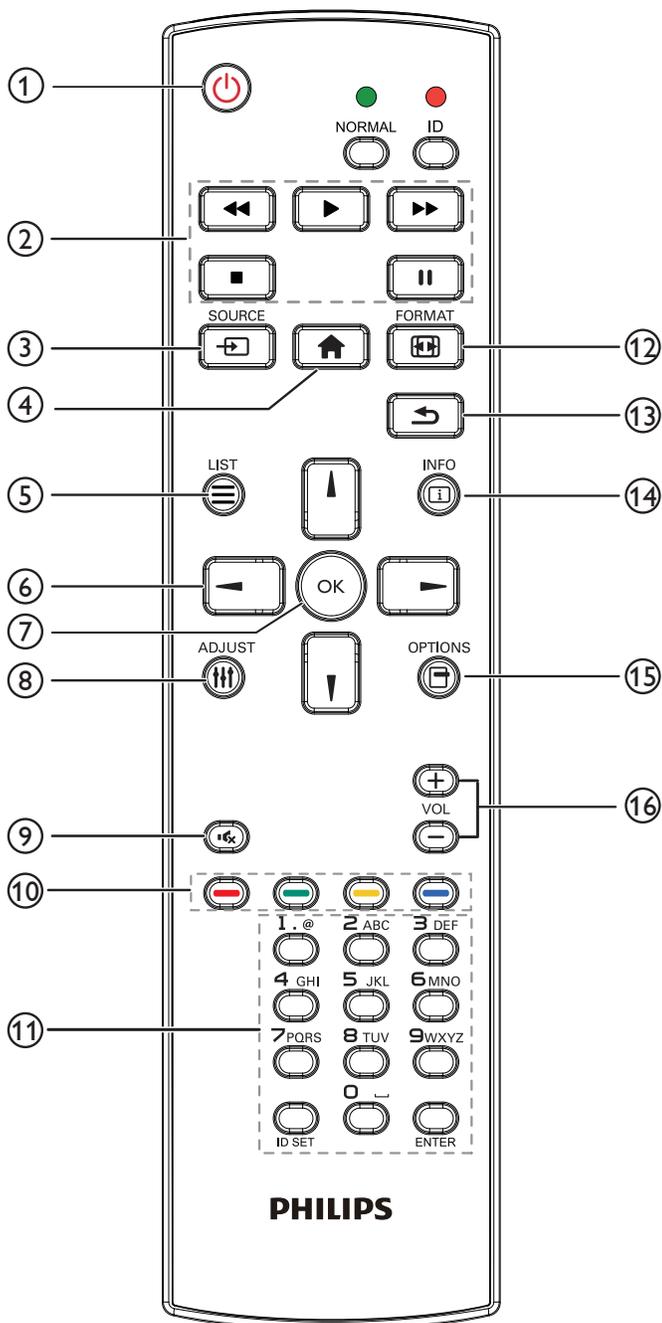
使用できる番号は [01] ~ [255] です。

2. 10 秒以内にボタンを押されない場合、ID モードは終了します。
3. 間違ったボタンを押した場合には、赤い LED が消えて再度点灯するまで 1 秒間待つてから、正しい数字を押し続けてください。
4. [ENTER] ボタンを押して選択を確認します。赤い LED が 2 回点滅して、消えます。

注記：

- [NORMAL] (ノーマル) ボタンを押してください。緑の LED が 2 回点滅して、ディスプレイが正常に作動していることを示します。
- ID 番号を選択する前に各ディスプレイに対する ID 番号を設定することが必要です。

2.3.3. Android ソース上のリモコンボタン



① [🔌] 電源ボタン

ディスプレイをオンにしたり、スタンバイモードにしたりします。ボタンは、スカラーによってのみ制御されます。

② [▶] ボタン

1. メディア（動画 / オーディオ / 画像）ファイルの再生を操作します。

メディアファイルを再生する方法には 4 通りあります。

1) ファイルマネージャー

メディアファイルをファイルマネージャーで検索し、それを選択して、再生します。

2) Media Player (メディアプレーヤー) -> Compose (構成) -> 再生一覧を編集または新規に追加 -> 任意のメディアファイルを選択 -> [▶] ボタンを押して、メディアファイルを直接再生します。

3) Media Player (メディアプレーヤー) -> Play (再生) -> 空でない再生一覧を選択 -> [OK] を押して再生一覧のすべてのメディアファイルを再生します。

4) OSD メニューにより、ソース起動またはスケジュールにメディア再生一覧を設定します。

2. 動画または音楽ファイルの再生中に [■] ボタンを押すと再生を停止することができます。もう一度 [▶] を押すと、そのファイルの最初から再生が開始されます。

3. 動画または音楽ファイルの再生中に [⏸] ボタンを押すと再生を一時停止することができます。

4. すべてのメディアファイルは、指定したストレージ（内部 / USB/SD カード）のルートディレクトリにある「philips」という名のフォルダに置く必要があります。すべてのサブフォルダ（video/photo/music）には、メディアタイプに従って名前が付けられています。変更しないでください。

ビデオ：{root dir of storage}/philips/video/

写真：{root dir of storage}/philips/photo/

音楽：{root dir of storage}/philips/music/

3 つのストレージのルートディレクトリは次の通りであることに注意してください

内部ストレージ：/sdcard

USB ストレージ：/mnt/usb_storage

SD カード：/mnt/external_sd

③ [⇄] ソースボタン

入力ソースを選択します。

ボタンは、スカラーによってのみ制御されます。

④ [🏠] ホームボタン

OSD メニューにアクセスします。

ボタンは、スカラーによってのみ制御されます。

⑤ [☰] リストボタン

1. ウェブページのコンテンツで、上方にある次の選択可能な項目にフォーカスを上に移動します。

2. フォーカスをボタンなどの次の制御またはウィジェットの上に移動します。

⑥ ナビゲーションボタン

1. メニューを移動し、項目を選択します。

2. ウェブページのコンテンツでは、このボタンは画面のスクロールバーを操作するために使います。垂直スクロールバーを上または下に移動するには、[↑] または [↓] を押します。水平スク

ロールバーを左または右に移動するには、[←] または [→] を押します。

⑦ [OK] ボタン

入力または選択を確定します。

⑧ [≡] 調整ボタン

1. ウェブページのコンテンツで、下方にある次の選択可能な項目にフォーカスを上に移動します。

2. フォーカスをボタンなどの次の制御またはウィジェットに下に移動します。

⑨ [🔇] ミュートボタン

音声をミュートしたり、ミュート解除したりします。

ボタンは、スカラーによってのみ制御されます。

⑩ [] [] [] [] 色ボタン

予約済み。

⑪ [番号 / ID 設定 / 入力] ボタン

ID SET  および ENTER  は、Android ソースで予約されています。これらボタンは、スカラーによってのみ制御されます。

⑫ [] 形式ボタン

画像フォーマットを変更します。ボタンは、スカラーによってのみ制御されます。

⑬ [] 戻るボタン

前のページに戻る、または前の機能を終了します。

⑭ [] 情報ボタン

1. 現在の入力信号に関する情報を表示します。スカラーにより表示されます。
2. Media Player (メディアプレーヤー) -> Compose (構成) -> 再生一覧を編集または新規に追加 -> 任意のメディアファイルを選択 ->  を押すと、選択したメディアファイルの情報が表示されます。

⑮ [] オプションボタン

メディアプレーヤーでツールボックスを開きます。
Media Player (メディアプレーヤー) -> Compose (構成) -> 再生一覧を編集または新規に追加 ->  を押して、ツールボックスを開きます。画面の左側からツールボックスがスライド表示されます。

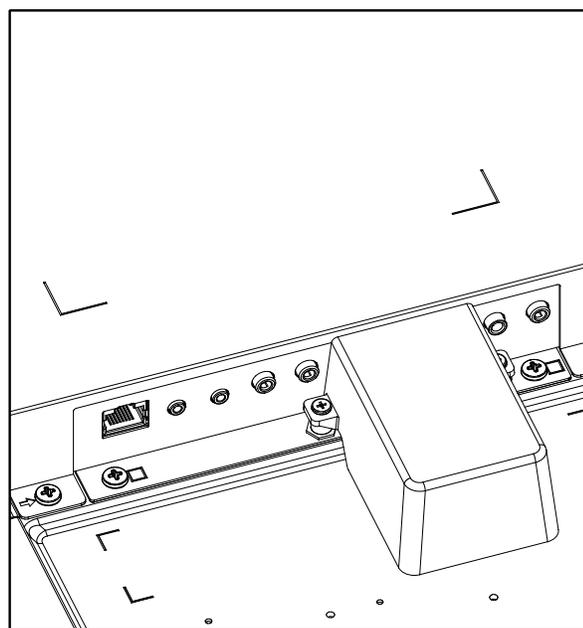
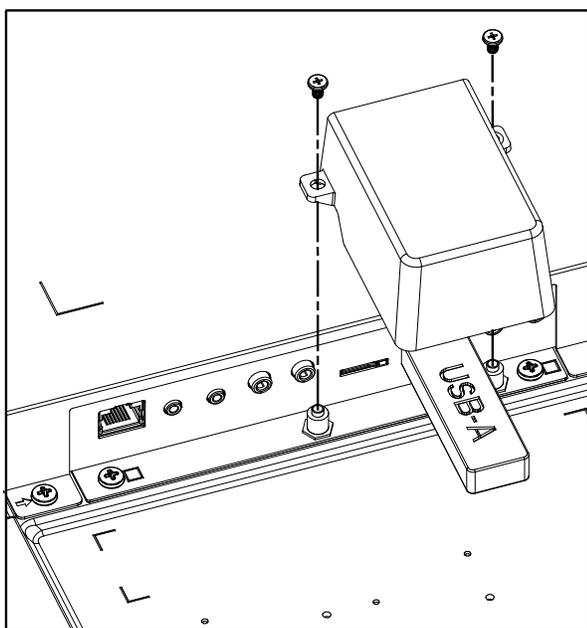
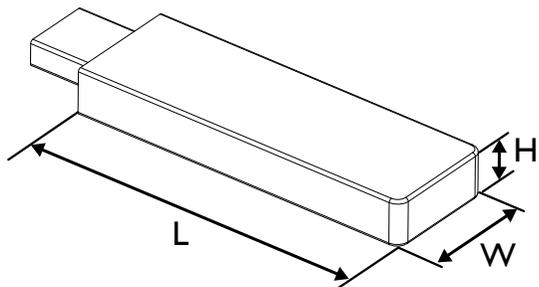
⑯ [] [] 音量ボタン

音量を調節します。ボタンは、スカラーによってのみ制御されません。

2.4. USB カバー

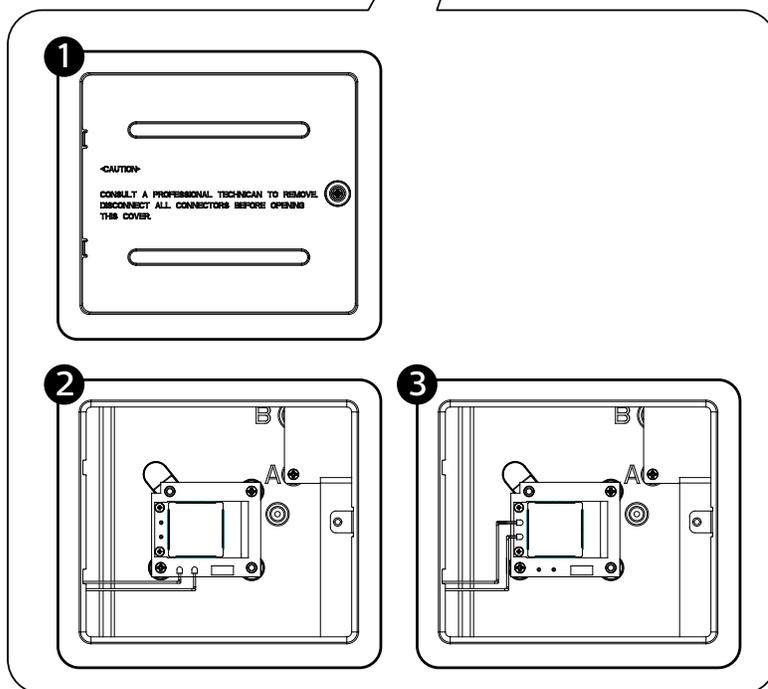
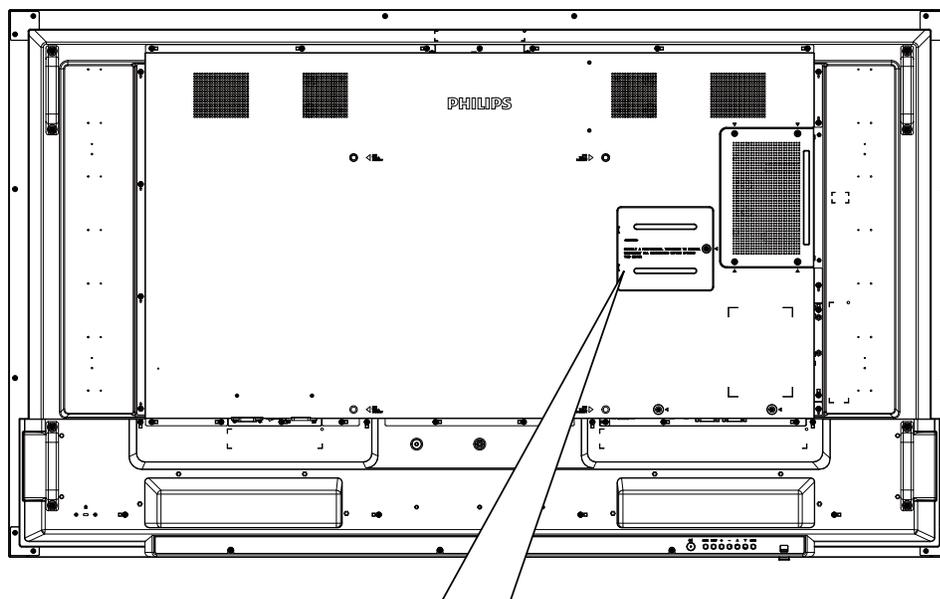
- USB デバイスを差し込み、micro SD カードを挿入します。
- 付属のネジを使用して USB カバーを固定します。

フィットする USB スティックの最大サイズ:20(幅)x10(高さ)x80(奥行き) mm



2.5. 4G モジュール

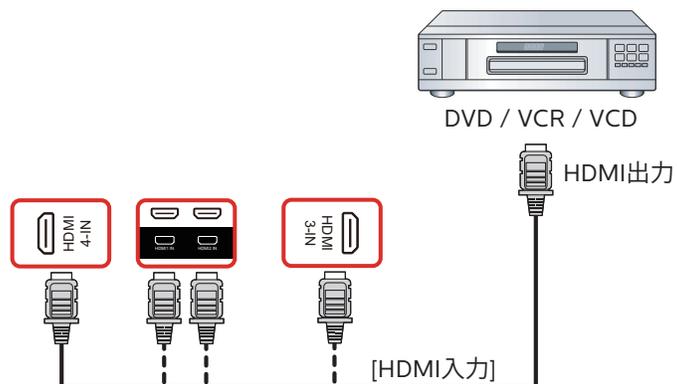
1. 4G モジュールの取り付けについては、専門の技術者にご相談ください。
2. ディスプレイの電源をオフにします。
3. 4G モジュールを取り付け、必要に応じて付属の M2 ネジを使用して固定します。
4. アンテナを 4G モジュールに接続します。
5. サービスカバーをディスプレイに固定します。



3. 外部機器を接続する

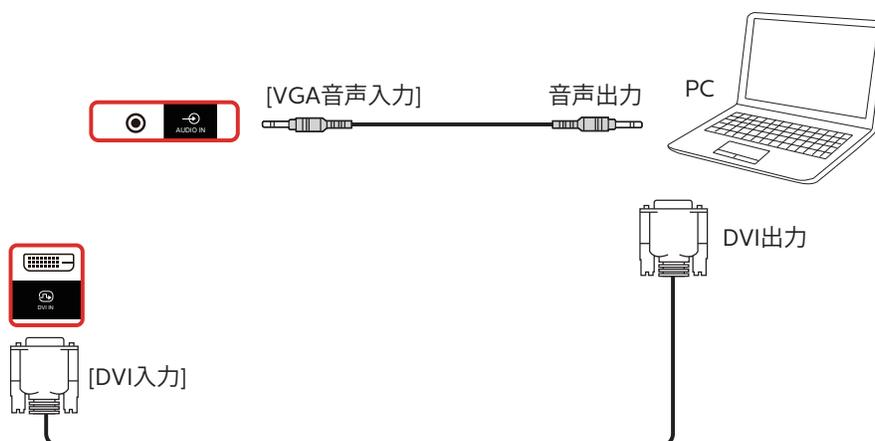
3.1. 外部機器 (DVD/VCR/VCD) の接続

3.1.1. HDMI ビデオ入力の使用

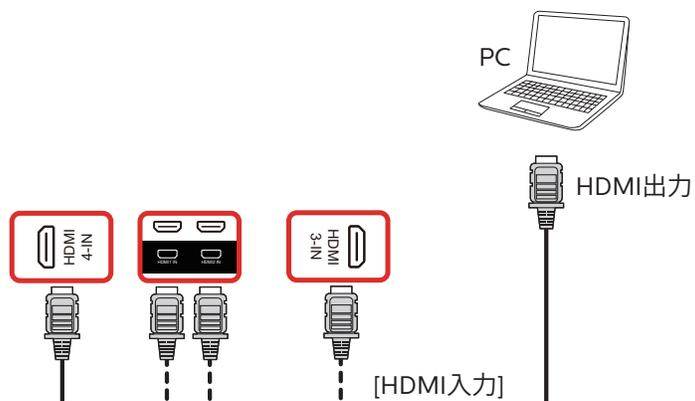


3.2. PC の接続

3.2.1. DVI 入力の使用



3.2.2. HDMI 入力の使用

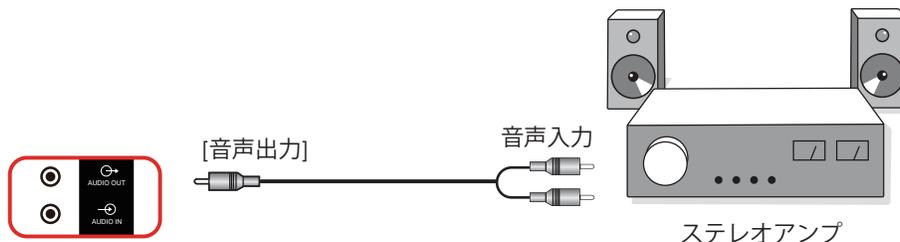


3.2.3. DisplayPort 入力の使用



3.3. オーディオ機器の接続

3.3.1. 外部オーディオ装置の接続

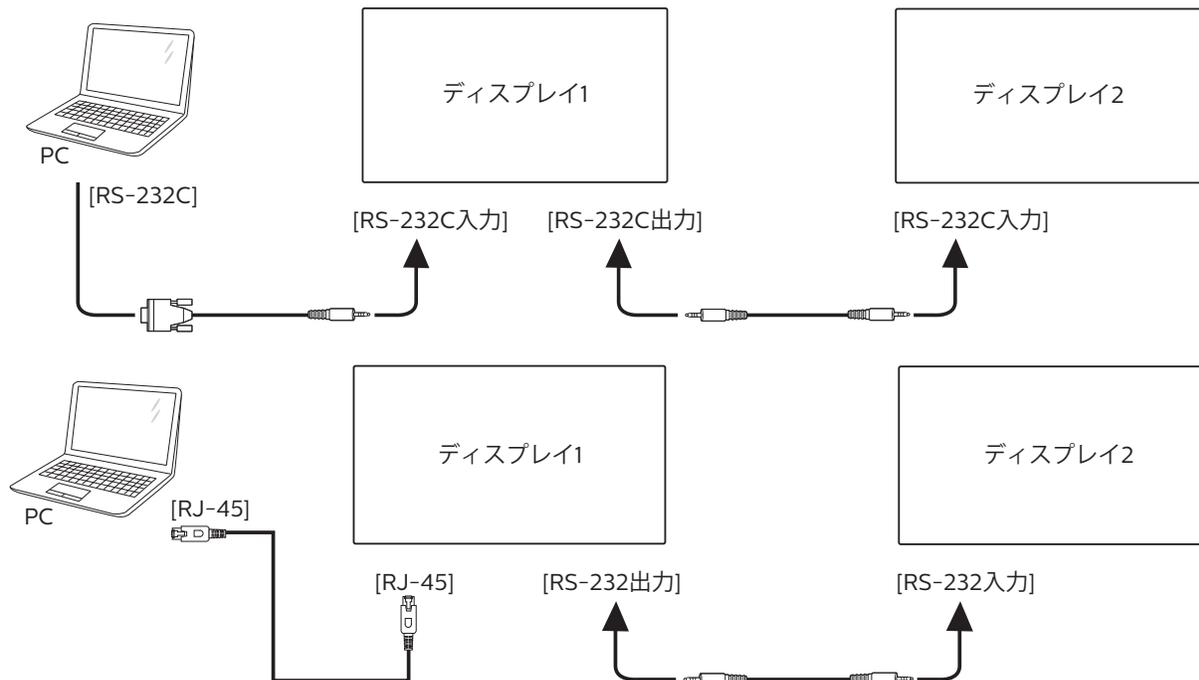


3.4. デイジーチェーン構成で複数のディスプレイを接続する

複数のディスプレイを相互接続し、メニューボードなどの用途向けに、デイジーチェーン構成にすることができます。

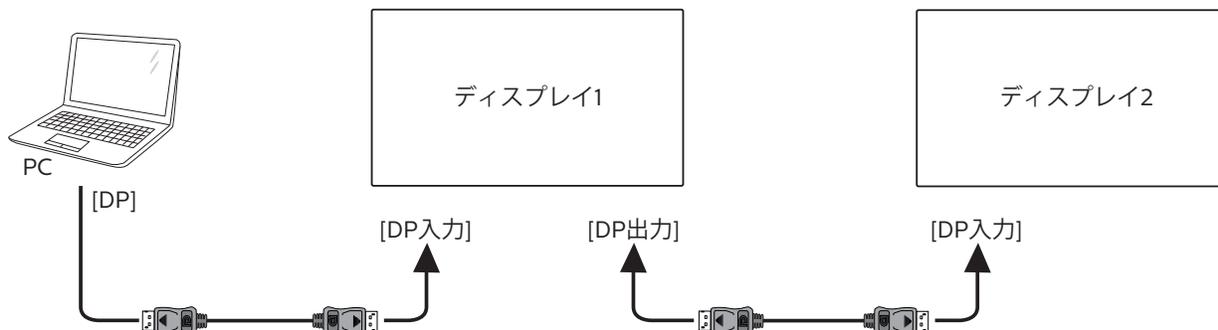
3.4.1. ディスプレイコントロール接続

ディスプレイ1の [RS232 出力] コネクタをディスプレイ2の [RS232 入力] コネクタに接続します。

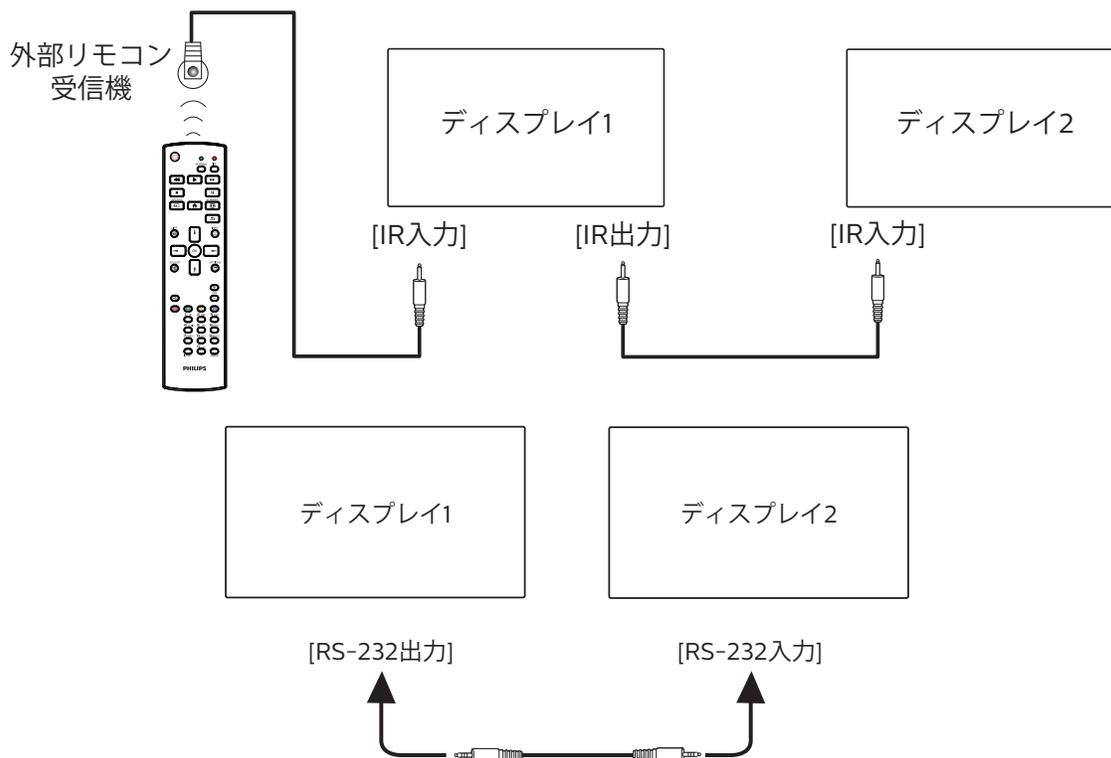


3.4.2. デジタルビデオ接続

ディスプレイ1の [DP 出力] コネクタをディスプレイ2の [DP 入力] コネクタに接続します。



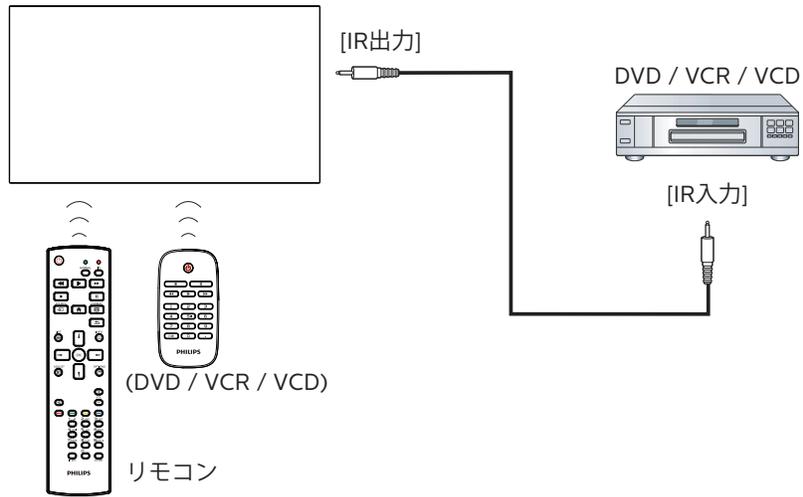
3.5. IR 接続



注記:

1. このディスプレイのリモコンセンサーは、ジャック [IR 入力] が接続されると、動作を停止します。
2. IR ループスルー接続は、最大 9 台のディスプレイをサポートすることができます。
3. RS232 を通してデージーチェーン接続した IR では、最大 9 台のディスプレイに対応できます。

3.6. IR パススルー接続



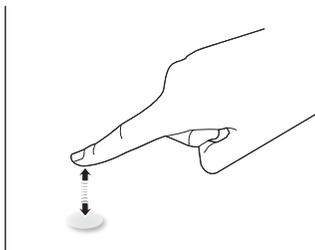
3.7. タッチ操作

このディスプレイはタッチ画面を備えており、シングルタッチまたはマルチタッチ操作による Windows タッチ機能をサポートします。ディスプレイ上の映像やテキストを指で優しくタッチすると、システムが反応します。

このセクションは、ディスプレイのタッチ操作について説明します。タッチ操作の実行方法の詳細については、Windows の操作手順を参照してください。

シングルタップ

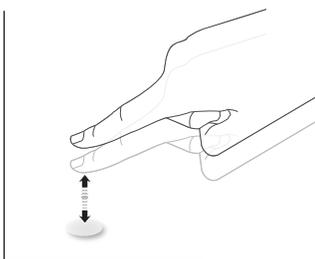
1本の指先で画面上のターゲットに1回すばやくタッチしてから、離します。



タッチスクリーンから 2.5mm 以内をタップすると、タッチスクリーンは指先からの軽いタッチに反応します。

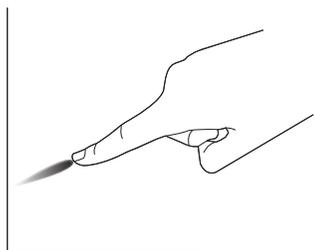
ダブルタップ

1本の指先で画面上のターゲットに2回すばやくタッチしてから、離します。



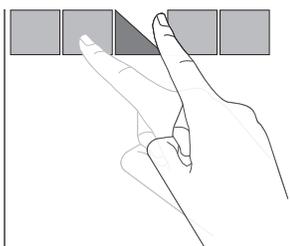
パン

1本の指先で画面上のターゲットにタッチし、タッチしたままで、指先を前後左右に動かしてから、離します。



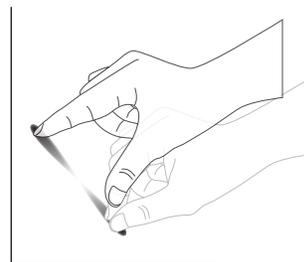
フリック

1本で指先で画面上のターゲットにタッチし、すばやく指先を動かします。



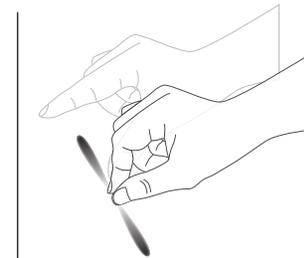
ズームイン

2本の指先を合わせた状態で画面上のターゲットにタッチし、指先を離して画面イメージをズームイン（拡大）します。



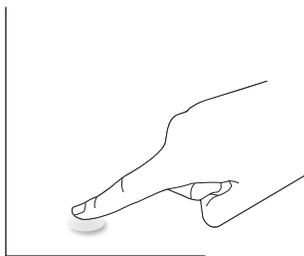
ズームアウト

2本の指先を離れた状態で画面上のターゲットにタッチし、指先を近づけて画面イメージをズームアウト（縮小）します。



タッチ & ホールド

1本で指先で画面上のターゲットしばらく押し続けると、項目のコンテキストメニューまたはオプションページが表示されます。



禁止事項

- 画面上を鋭利なもので引っかいたりしないでください。タッチ操作は指先のみで行ってください。
- 画面を強い光、スポットライト、または広範囲の光にさらさないでください。
- 直射日光が当たるとタッチコントロール性能に影響を与える恐れがあるため、窓やガラス扉に近い場所に本製品を設置しないでください。
- 画面の干渉を防ぐため、以下に示すように2台のタッチスクリーンを並べて配置しないでください。

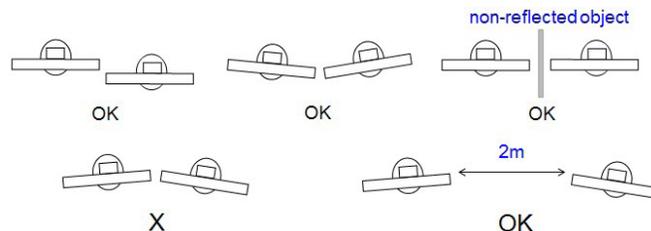


図 タッチスクリーンの干渉

タッチスクリーンを使用する際、Windows OS のホストコンピューターにデバイスドライバーをインストールする必要はありません。Windows 7 および Windows 8 の場合は、標準の Microsoft ウィンドウコントロールパネルキャリブレーションを使用することをお勧めします。

項目	説明		
プラグアンドプレイに対応するオペレーティングシステム	Windows 7、8/8.1、10		
オペレーティングシステムでサポートされている動作モード	OS	シングルタッチ	マルチタッチ
	Windows 7、8/8.1、10	○	○*
	10.15 以前の Mac OSX (10.15 を含みます)	○	○**
	10.10 以降の Mac OSX (10.10 を含みます)	○	○**
	Chrome 38+	○	○***
	Android 4.0、3.6 以降のカーネル (3.6 を含みます)	○	○****
	Linux	○	○*****
* 20 ポイントタッチをサポートします。 ** マルチタッチ用 Mac OSX バージョン 10.6 ~ 10.15 までの場合、「UPDD」をダウンロードしてください。 *** マルチタッチ用 Chrome は最大 16 ポイントをサポートできます。 **** 最大 16 ポイントをサポートします。 ***** カーネル 4.4.0 を搭載した Ubuntu 14.04 以降で 20 ポイントをサポートします。			

1. すべての Windows 7 OS で最新のサービスパックを使用することを強くお勧めします。
2. Windows へのデジタイザー入力とは、タブレット PC のタッチスタイラスではなく、タッチデジタイザーを指します。
3. Microsoft によってデフォルトとして設定されています。
4. Mac OSX モードのサポートに関する最新情報については、Web サイト (www.philips.com/signagesolutions-support) にアクセスしてください。

4. 取り扱い

注記：この章で説明されている操作ボタンは、特に記述のない限りリモコン上にあるボタンを指します。

4.1. 接続されたビデオソースから鑑賞する

1. [] ソースボタンを押します。
2. [] または [] ボタンを押して、デバイスを選択し、次に [OK] ボタンを押します。

4.2. 画像フォーマットを変更する

ビデオソースに合わせて画像フォーマットを変更することができます。それぞれのビデオソースに対して、使用可能な画像フォーマットがあります。

使用可能な画像フォーマットはビデオソースによって異なります：

1. [] 形式ボタンを押して、画像形式を選択します。
 - ・ PCモード：{フル} / {4:3} / {リアル} / {21:9} / {カスタム}。
 - ・ ビデオモード：{フル} / {4:3} / {リアル} / {21:9} / {カスタム}。

4.3. 起動画面

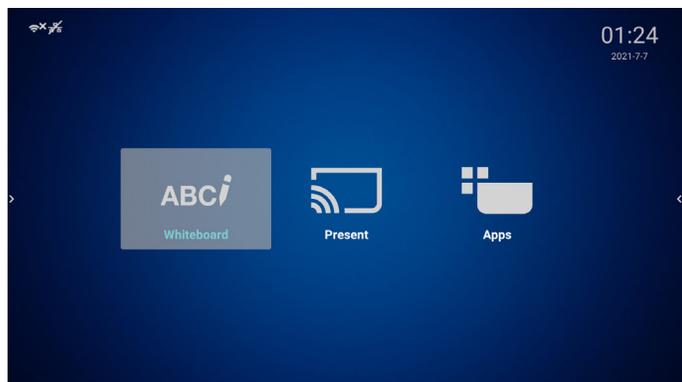
起動画面は次のアプリで構成されています。

「Whiteboard」（ホワイトボード）、「Present」（プレゼント）、「Apps」（アプリ）。

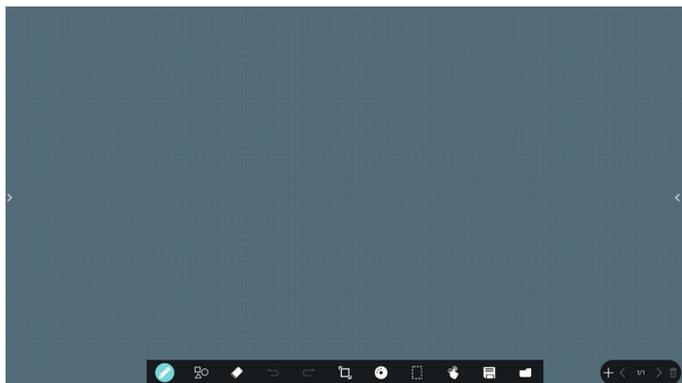
Whiteboard（ホワイトボード）：ホワイトボードページに移動します。

Present（プレゼント）：インタラクティブページに移動します。

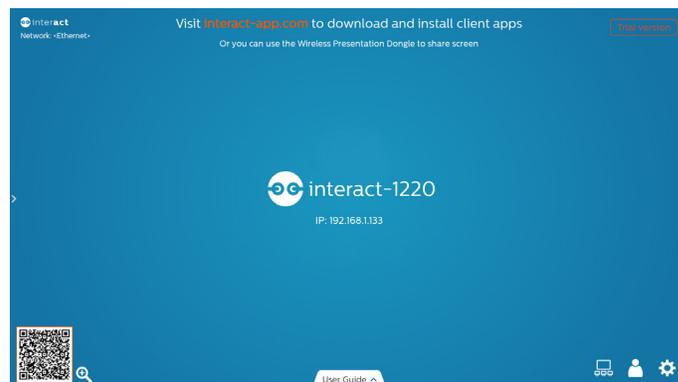
Apps（アプリ）：すべてのアプリを表示します。



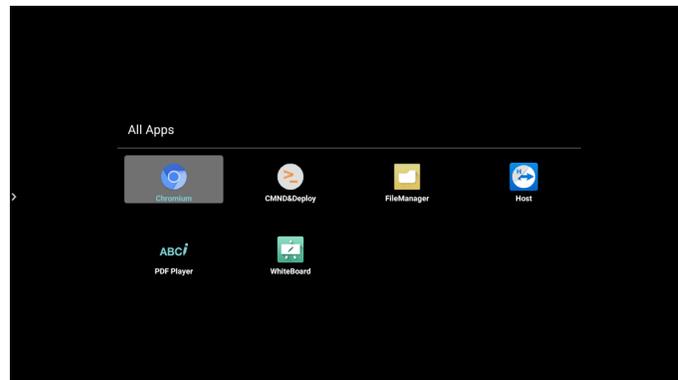
1) ホワイトボードページ：



2) プレゼントページ：



3) アプリページ：



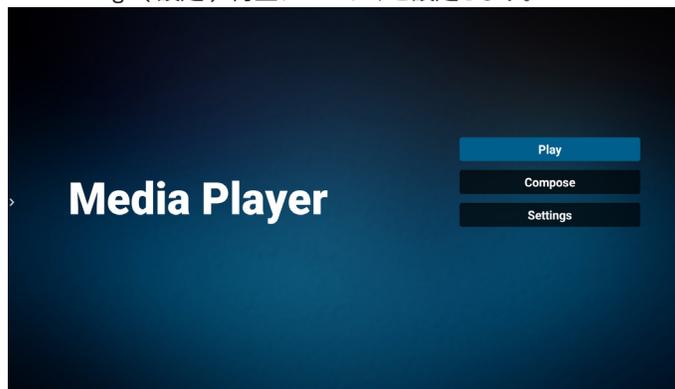
4.4. Media Player (メディアプレーヤー)

4.4.1. OSDメニューでのメディアプレーヤーの操作:

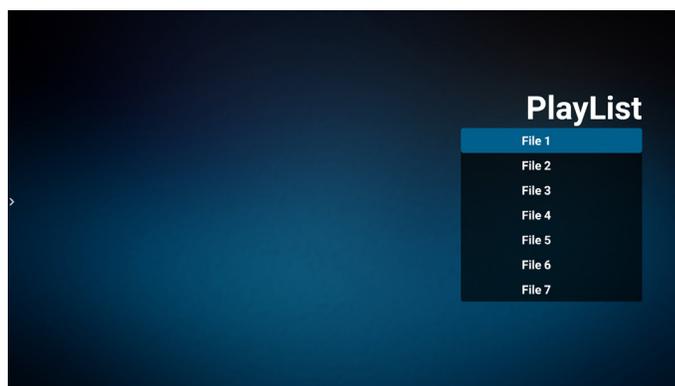
1. ソース起動:
 - 入力:
 - メディアプレーヤーをソースとして選択すると、起動プロセスが完了次第、システムは自動的にメディアプレーヤーに入ります。
 - 再生一覧:
 - 0:メディアプレーヤーのメインページに移動します。
 - 1-7:メディアプレーヤーに移動し、再生一覧のファイル1～ファイル7を自動的に再生します。
2. スケジュール:
 - 今日:
 - 日付 / 時刻設定を表示します。
 - 1-7:
 - 最大7つのスケジュールを設定します。
 - オン / オフ:
 - 開始時間と終了時間を設定します。
 - 入力:
 - メディアプレーヤーをソースとして選択すると、PD は終了時にメディアプレーヤーを自動的に起動します。
 - 月曜日、火曜日、水曜日、木曜日、金曜日、土曜日、日曜日、毎週:
 - ライフサイクルを設定します。
 - 再生一覧:
 - 0:メディアプレーヤーのメインページに移動します。
 - 1-7:メディアプレーヤーに移動し、再生一覧のファイル1～ファイル7を自動的に再生します。
 - すべて消去

4.4.2. Media Player の紹介:

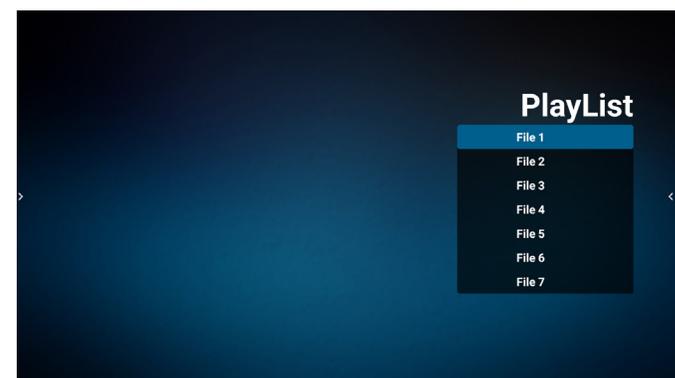
1. メディアプレーヤーアプリのメインページです。このアプリには3つの項目:「Play (再生)」、「Compose (構成)」および「Setting (設定)」が表示されます。
 Play (再生):再生する再生一覧を選択します。
 Compose (構成):再生一覧を編集します。
 Settings (設定):再生プロパティを設定します。



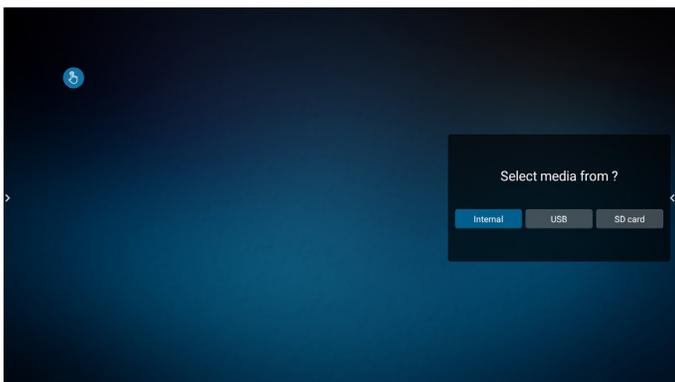
2. メインページで「Play (再生)」を選択し、最初に、ファイル1とファイル7の間から再生する1つの再生一覧を選択する必要があります。鉛筆アイコンは、再生一覧が空ではないことを意味します。



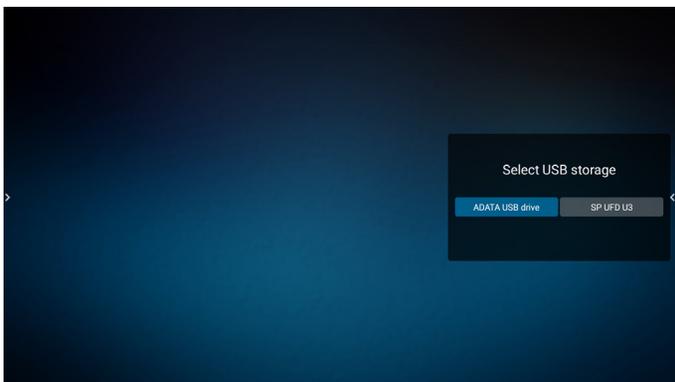
3. メインページで「Compose (構成)」を選択します。最初に、ファイル1～ファイル7の中から編集する再生一覧を選びます。鉛筆アイコンは、再生一覧が空ではないことを意味します。



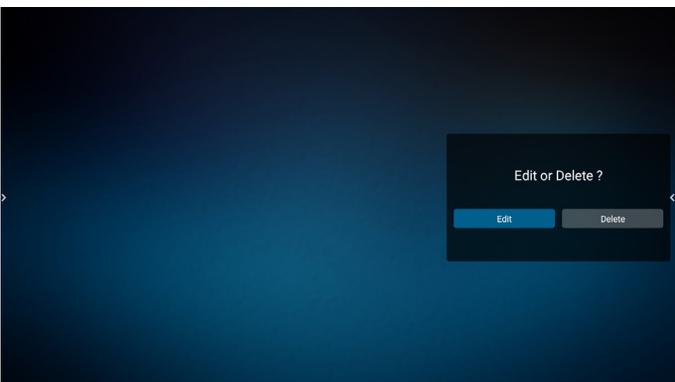
4. 空の再生一覧を選択した場合、アプリはメディアソースを選択するようにガイドします。
 すべてのメディアファイルは、ルートディレクトリの /philips/ に配置する必要があります。
 例えば、
 - /philips/video/ の動画
 - /philips/photo/ の写真
 - /philips/music/ の音楽



5. 「USB」ストレージを選択すると、アプリが USB デバイスの選択をガイドします。



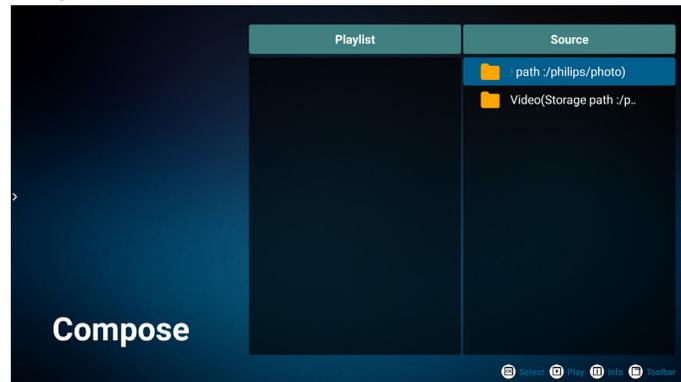
6. 空でない再生一覧を編集または削除するには、ファイルの右側に鉛筆アイコンが表示されている目的の再生一覧を選択します。



7. 再生一覧を編集し始めると、メニューは次のように表示されます。
- Source (ソース) - ストレージ内のファイル。
 - Playlist (再生一覧) - 再生一覧内のファイル。
 - Option (オプション) - サイドバーを起動します。
 - Play (再生) - メディアファイルを再生します。
 - Info (情報) - メディア情報を表示します。
 - Touch file (タッチファイル) - ファイルを選択 / 非選択します。

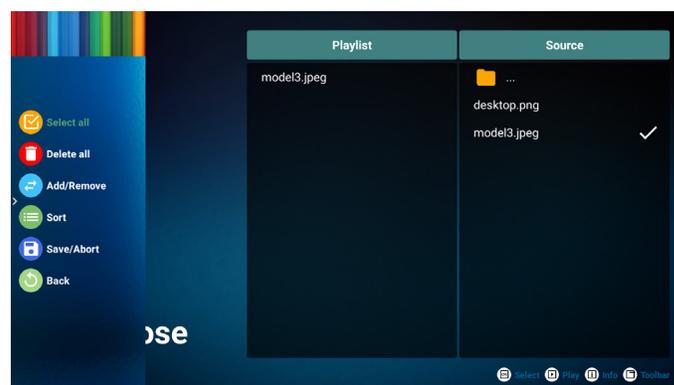
注記: ソース内のディレクトリの1つを長押しすると、フルパスが表示されます。

バー。

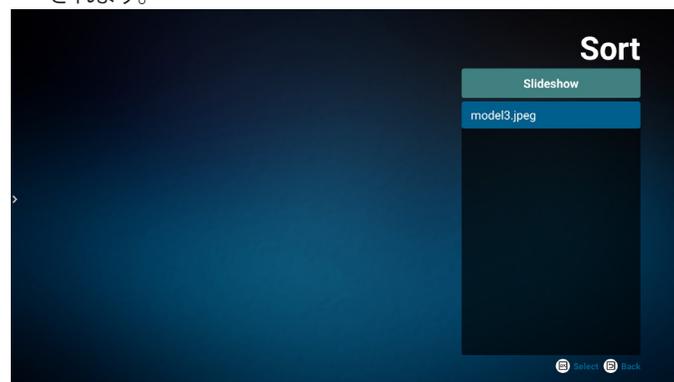


- 7.1 サイドバーで、次の機能を使用できます。

- Select all (すべて選択): すべてのストレージファイルを選択します。
- Delete all (すべて削除): すべての再生一覧ファイルを削除します。
- Add/Remove (追加 / 削除): ソースから再生一覧を更新します。
- Sort (並び替え): 再生一覧を並び替えます。
- Save/abort (保存 / 中断) 再生一覧を保存または中断します。
- Back (戻る): 戻ります。



8. 「Sort (並び替え)」を選択すると、ファイルの順序を個別にカスタマイズできます。
- 注記:** このページを離れると、すべてのデータが自動的に保存されます。



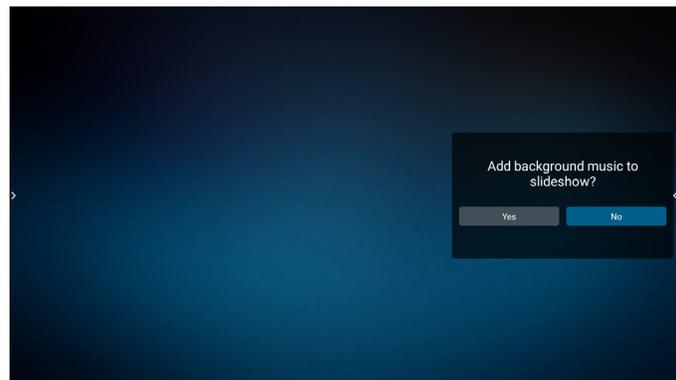
9. 目的のファイルを選択した後、「Info」(情報) キーを押して詳細情報を取得します。



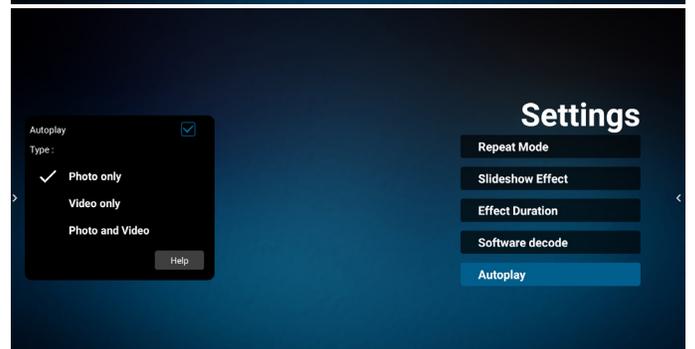
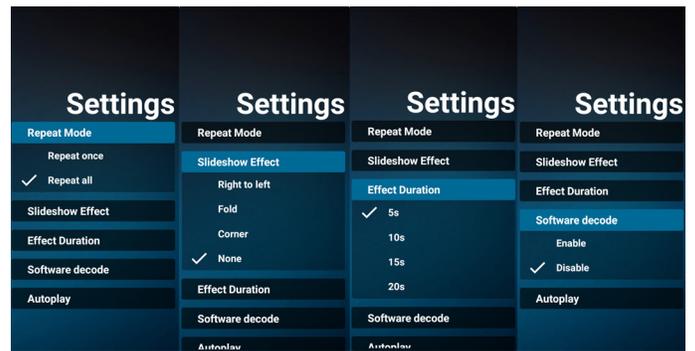
10. 目的のファイルを選択した後、「Play」(再生)キーを押してメディアファイルを直ちに再生します。



11. すべての画像ファイルで再生一覧を作成した場合は、保存する前にスライドショーに BGM を追加するように求められます。



12. メインページで「Settings」(設定)を選択します。
5つのオプション:「Repeat Mode」(繰り返しモード)、「Slideshow Effect」(スライドショー効果)、「Effect Duration」(効果時間)、「Software Decode」(ソフトウェアデコード)、「Autoplay」(自動再生)があります。
Repeat Mode (繰り返しモード): [1回繰り返す]または[すべて繰り返す]を選択します。
Slideshow Effect (スライドショー効果): 写真スライドショーの効果(右から左、角を折る、またはなし)。
Effect Duration (効果時間): 写真効果が継続する長さ(5秒、10秒、15秒または20秒)。
Software Decode (ソフトウェアデコード): 動画再生の間にブラック画面を表示しません(有効、無効)。
Autoplay (自動再生): USBに接続すると、USBルートパスからファイルが自動的に再生されます。(自動再生の有効化と無効化、写真のみ、動画のみ、写真と動画、ヘルプ)。



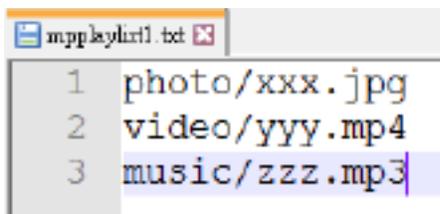
13. メディアプレーヤーによるテキストファイルのインポート

ステップ 1、メディアプレーヤーテキストファイルを作成します。

- ファイル名: mpplaylistX.txt。「X」が再生一覧の番号です(1、2、3、4、5、6、7)。

例: mpplaylist1.txt、mpplaylist2.txt

- 内容:



```
mpplaylist1.txt
1 photo/xxx.jpg
2 video/yyy.mp4
3 music/zzz.mp3
```

注記: 再生一覧に動画ファイルと音楽ファイルが含まれている場合、音楽ファイルを再生すると画面が真っ暗になります。

ステップ 2、「mpplaylistX.txt」を内部ストレージにある「philips」フォルダにコピーします。この際、FTP を利用することができます。

- ファイルパス: /storage/emulated/legacy/philips (for DL, PL)
例: /storage/emulated/legacy/philips/mpplaylist1.txt

ステップ 3、「philips」フォルダ内の「photo」、「video」、「music」フォルダにメディアファイルを準備します(内部ストレージのみ)。

- 例: /storage/emulated/legacy/philips/photo/xxx.jpg
/storage/emulated/legacy/philips/video/yyy.mp4
/storage/emulated/legacy/philips/photo/zzz.mp3

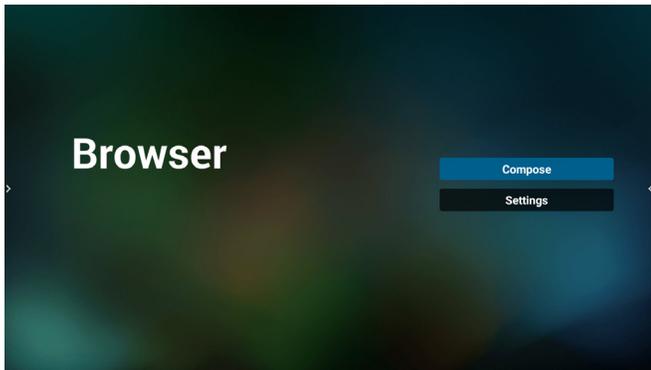
ステップ 4、メディアプレーヤーアプリを開始すると、メディアプレーヤーテキストファイルが自動的にインポートされます。

注記: 再生一覧ファイル(テキスト)をインポートした後に、リモコンを使ってユーザーが再生一覧を変更した場合、この変更は再生一覧テキストファイルには書き込まれません。

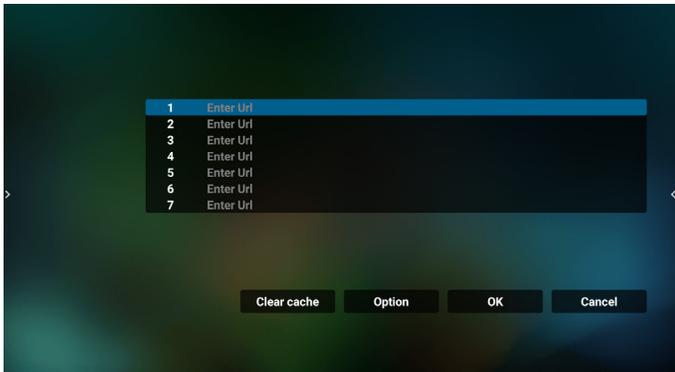
4.5. Browser (ブラウザー)

この機能を使用する前に、システムがネットワークに正常に接続されていることを確認してください。

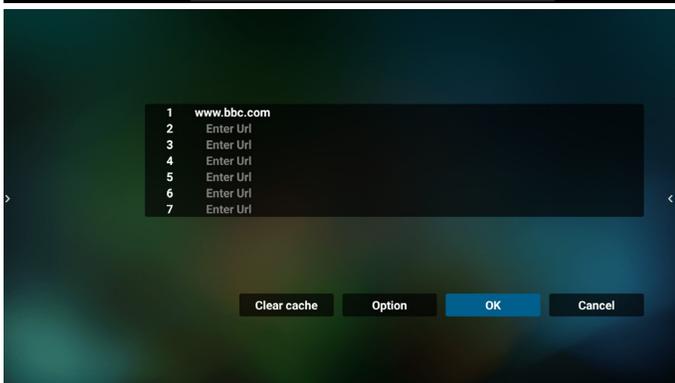
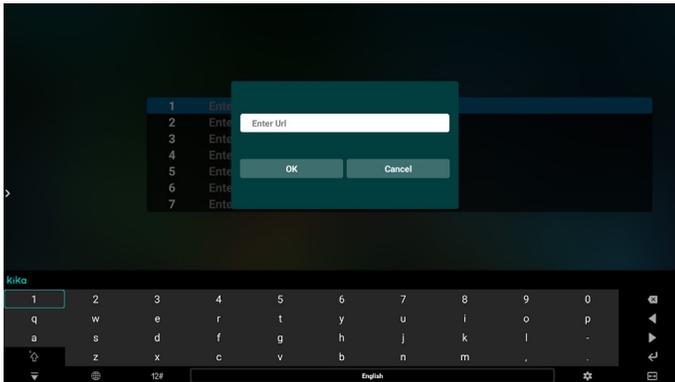
1. 関連する設定ができる「ブラウザー」アプリのメインページ。



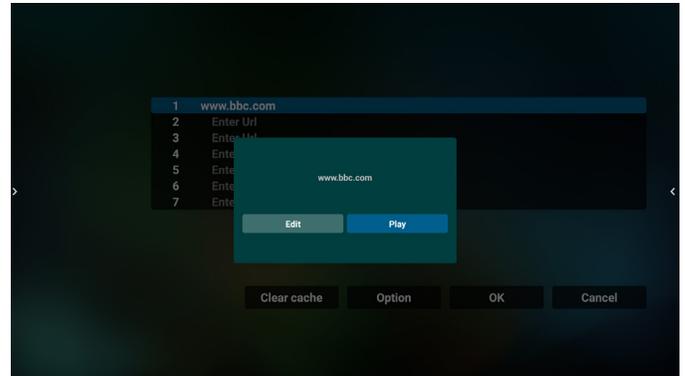
2. 「Compose (構成)」を押して、次のページに入ります。1～7を選択できます。いずれかのキーを押すと、ダイアログが表示されます。



3. オンスクリーンキーボードを使用して URL を入力し、OK ボタンを押すと、データがリストに保存されます。

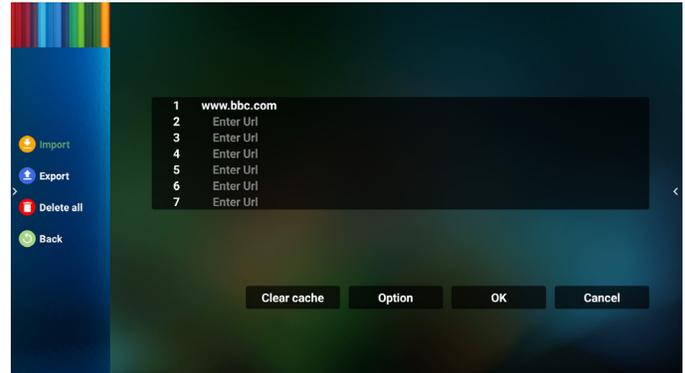


4. Option (オプション) キーを押すと、左側にリストがポップアップ表示されます。
Import (インポート): URL リストのファイルをインポートします
Export (エクスポート): URL リストのファイルをエクスポートします
Delete all (すべて削除): メイン画面からすべての URL レコードを削除します
Back (戻る): サイドメニューバーを閉じます

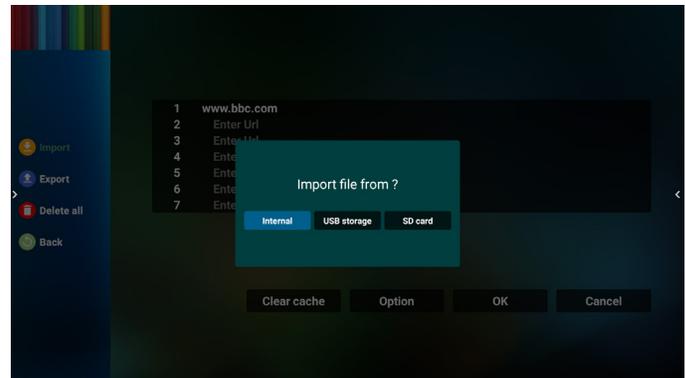


4.1 インポート

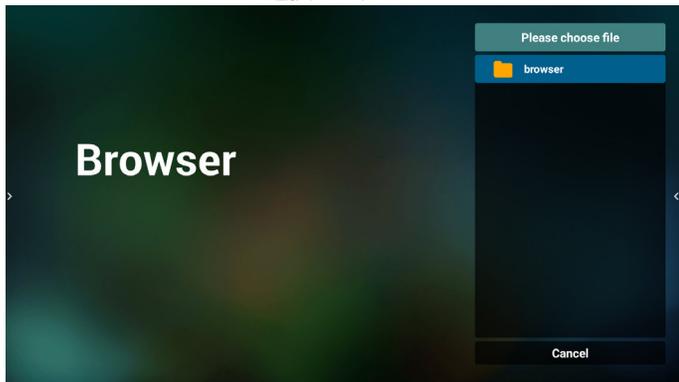
- インポートを選択します。



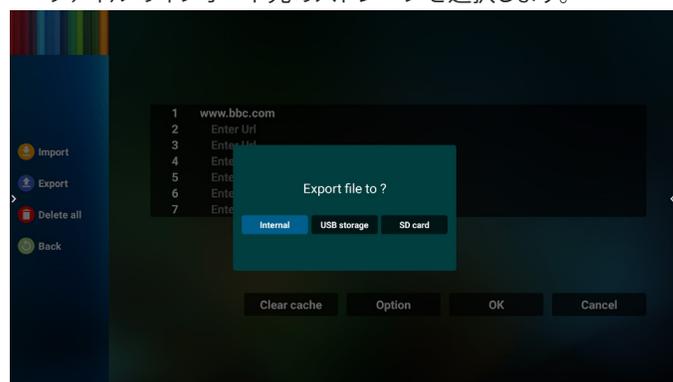
- ファイルのインポート元のストレージを選択します。



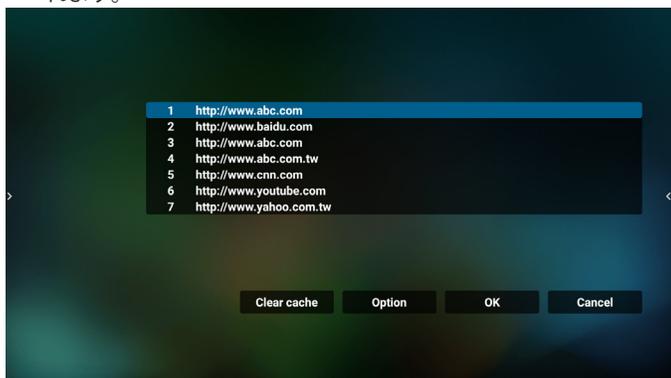
- ブラウザーファイルを選択します



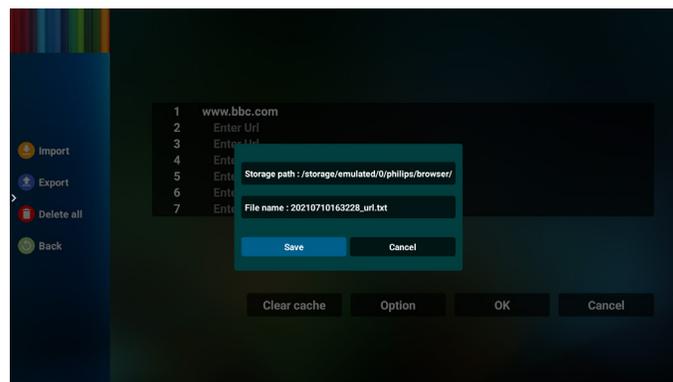
- ファイルのインポート先のストレージを選択します。



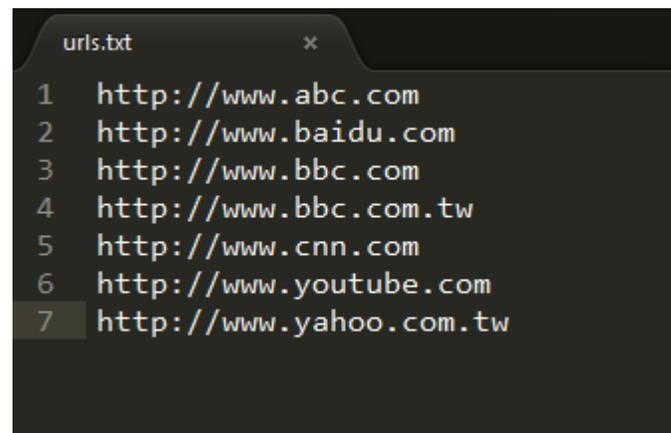
- ブラウザーファイルをインポートすると、URL が画面に表示されます。



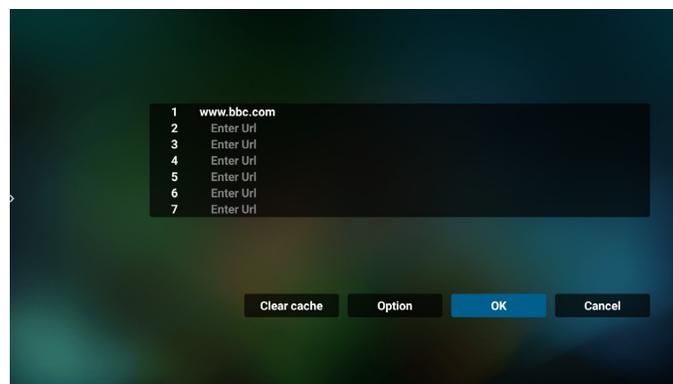
- ダイアログボックスに、保存するファイルのパスとファイル名が表示されます。「Save (保存)」ボタンを押して URL を保存します。



- インポートに利用できるファイル形式は「.txt」です。

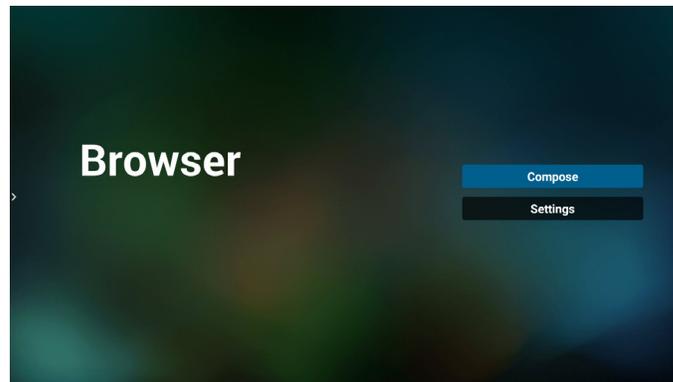
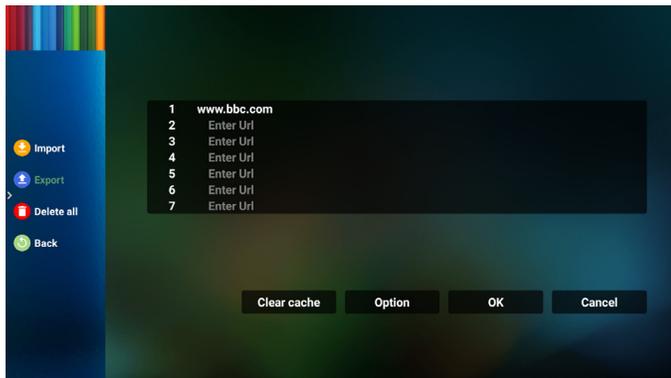


- 5. 「OK」ボタンを押して URL レコードを保存します。

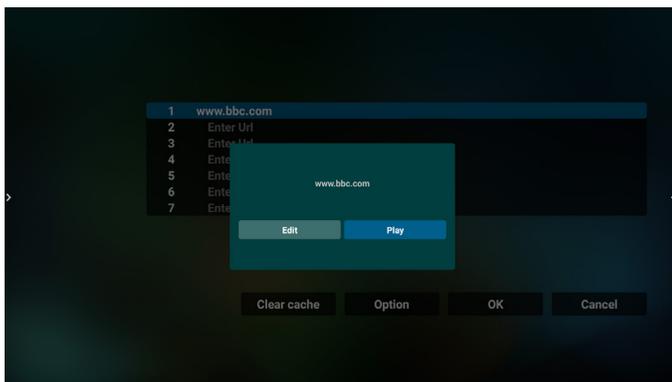
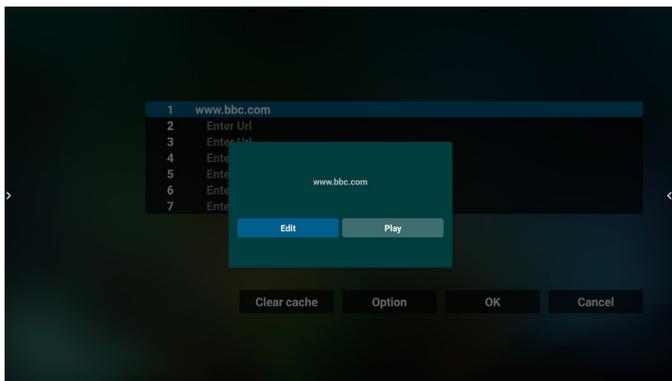


4.2 エクスポート:

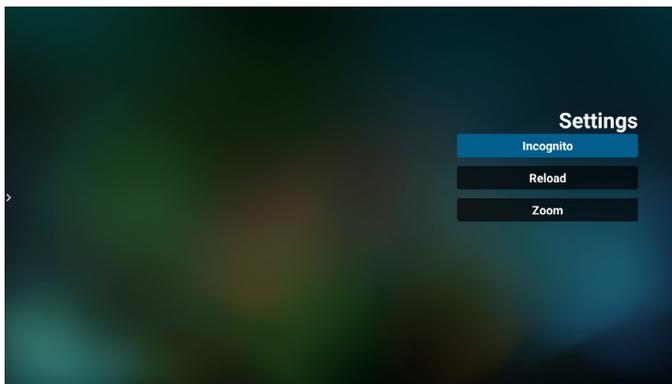
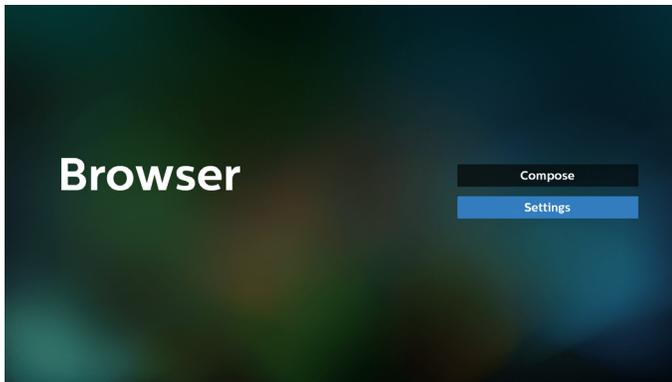
- エクスポートを選択します。



6. URL リストから空でないアイテムを選択すると、URL を編集するか再生するかを尋ねるメッセージが表示されます。「Edit (編集)」を選択すると、ダイアログボックスで URL を編集できます。「Play (再生)」を選択すると、選択した URL の Web ページが表示されます。

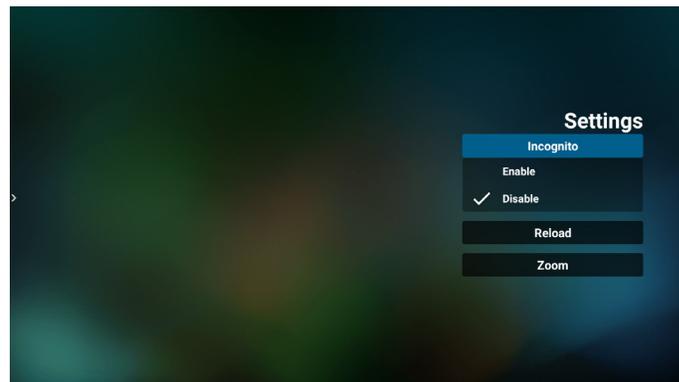


7. 「Settings (設定)」を押し、次のページに入ります。



7.1 Incognito

- Enable (有効): Incognito モードを使用してウェブページを表示します。
- Disable (無効): 非 Incognito モードを使用してウェブページを表示します。



7.2 Reload (リロード)

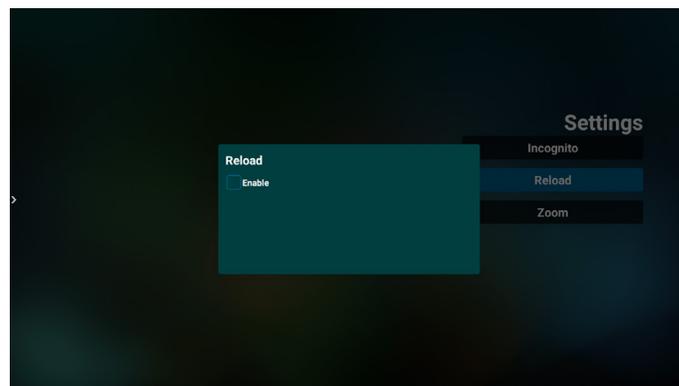
ユーザーがウェブページのリロード時間を設定できるようにします。

- 「Enabled (有効)」チェックボックスにチェックが入っていない場合、デフォルトのリロード時間は 60 秒です。

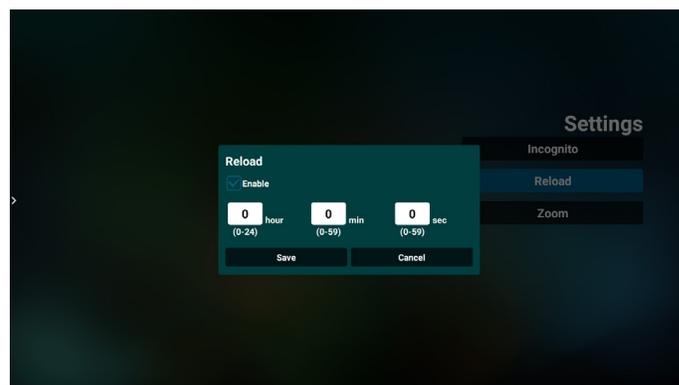
注記:

この場合、ウェブページは、ネットワークの状態が変更されたときにのみリロードされます。

ネットワーク状態が常に接続となっている場合、60 秒後にウェブページはリロードされません。

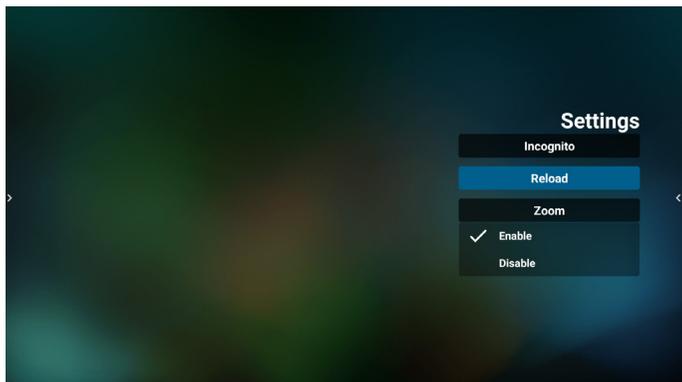


- 「Enabled (有効)」チェックボックスにチェックが入っている場合、リロード時間を設定できます。



7.3 Zoom (ズーム)

- a. Enable (有効):画面上で指を使ってズームインすることができます。
- b. Disable (無効):画面上で指を使ってズームインできません。



8. ブラウザーでの OSD メニューの操作

8-1. ソース起動

- OSD メニュー => Configuration1 (詳細設定 1) => Boot on source (ソース起動) => Input (入力)。入力で「ブラウザー」を選択し、再生一覧で「O」を設定すると、再起動後の入力ソースが「ブラウザー」になります。
- OSD メニュー => Configuration1 (詳細設定 1) => Boot on source (ソース起動) 入力で「ブラウザー」を選択し、再生一覧で「O」を設定すると、再起動後の入力ソースが「ブラウザー」になります。

8-2. スケジュール

OSDメニュー => Advanced option (アドバンスドオプション) => Schedule (スケジュール) => オンタイム 1、オフタイム 2、入力はブラウザー、週の希望日、および再生一覧を設定します。最後に右側のボックスにチェックを入れます。次に、PD が、ブラウザーアプリの URL を使ってウェブページを時刻 1 に表示し、時刻 2 に終了します。

9. FTP を通して URL リストを編集する方法

ステップ 1、メディアプレーヤーのテキストファイルを作成します。

- ファイル名:bookmarklist.txt。
- 内容:



ステップ 2、bookmarklist.txt を内部ストレージにある「philips」フォルダにコピーします。この際、FTP を利用することができます。

- ファイルパス:/storage/emulated/legacy/philips (for DL, PL)

例:/storage/emulated/legacy/philips/bookmarklist.txt

ステップ 3、ブラウザーアプリを起動すると、ブラウザーのテキストファイルが自動的にインポートされます。

注記:再生一覧ファイル(テキスト)がインポートされた後、リモコンで行った変更は再生一覧テキストファイルに記録されません。

10. オフラインブラウジング

URL 1 がアドレスを設定し、OSD スケジュールを使用して URL 1 ウェブページを開く場合、ブラウザーアプリは URL 1 のホームページデータをローカルストレージに自動的に保存します。

OSD スケジュールがブラウザーアプリを開いているときにネットワークが切断されると、ブラウザーアプリはローカルストレージにある URL 1 アドレスのホームページを自動的に開きます。

注記:

- a. ブラウザーアプリは URL 1 アドレスのホームページデータのみを保存でき、他の URL 2 から URL 7 は保存できません。
- b. ローカルストレージ:/sdcard/Download/OfflineBrowsing
- c. 「Clear cache (キャッシュのクリア)」ボタンを押すと、ローカルストレージから URL 1 アドレスのホームページデータをクリアできます。

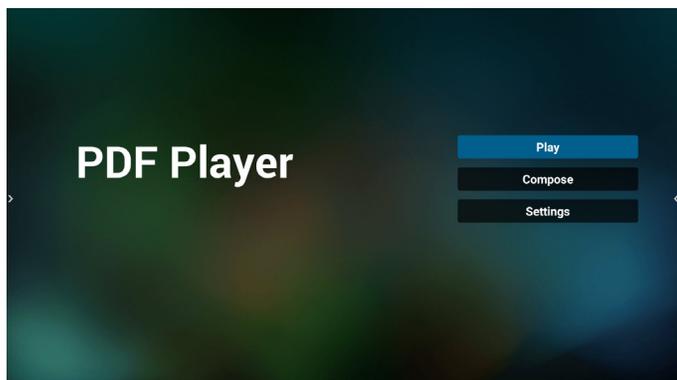
4.6. PDF Player (PDF プレーヤー)

4.6.1. 設定メニューでの PDF プレーヤーの操作:

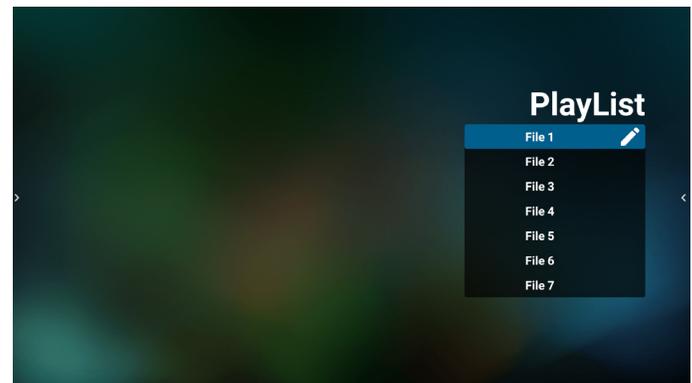
1. ソース起動:
 - 入力:
 - PDF プレーヤーソースを選択すると、起動プロセスが完了次第、プラットフォームは自動的に PDF プレーヤーに移動します。
 - 再生一覧:
 - PDF プレーヤーのメインページに移動します。
 - 再生一覧 1～7: PDF プレーヤーに移動し、再生一覧のファイル 1～ファイル 7 を自動的に再生します。
2. スケジュール:
 - スケジュール一覧:
 - 最大 7 つのスケジュールを設定します。
 - 有効:
 - スケジュールを有効 / 無効にします。
 - 開始時間:
 - 開始時間を設定します。
 - 終了時間:
 - 終了時間を設定します。
 - 再生一覧:
 - 1～7: PDF プレーヤーに移動し、再生一覧のファイル 1～ファイル 7 を自動的に再生します。
 - 曜日:
 - 日曜日、月曜日、火曜日、水曜日、木曜日、金曜日、土曜日を設定します。
 - 毎週:
 - 毎週のスケジュールを設定します。

4.6.2. PDF プレーヤーのご紹介:

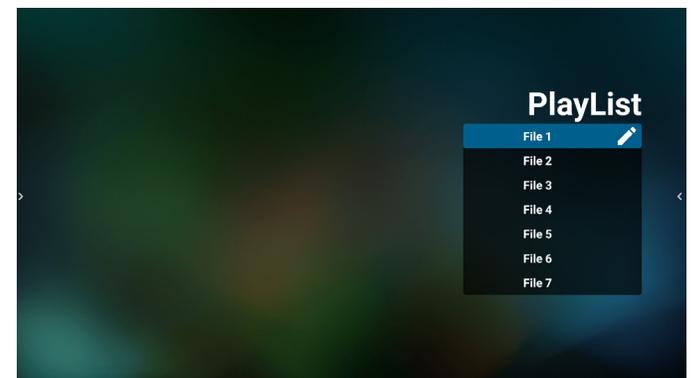
1. PDF プレーヤーのメインページです。このページには 3 つの項目:「Play (再生)」、「Compose (構成)」および「Setting (設定)」が表示されます。
 Play (再生): 再生する再生一覧を選択します。
 Compose (構成): 再生一覧を編集します。
 Settings (設定): PDF プレーヤーのプロパティを設定します。



2. メインページで「Play (再生)」を選択し、最初に、ファイル 1 とファイル 7 の間から再生する 1 つの再生一覧を選択する必要があります。
 鉛筆アイコンは、再生一覧が空ではないことを意味します。

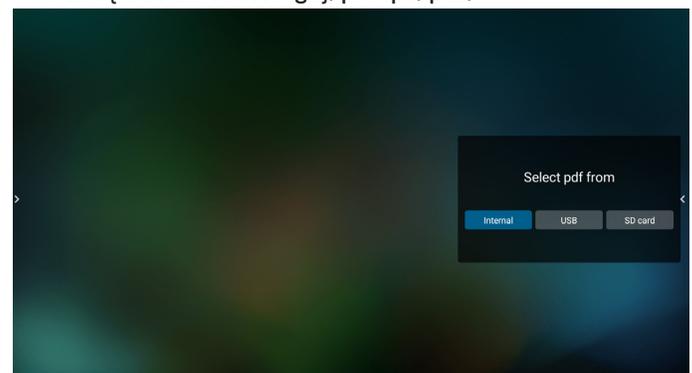


3. メインページで「Compose (構成)」を選択します。最初に、ファイル 1～ファイル 7 のの中から編集する再生一覧を選びます。
 鉛筆アイコンは、再生一覧が空ではないことを意味します。

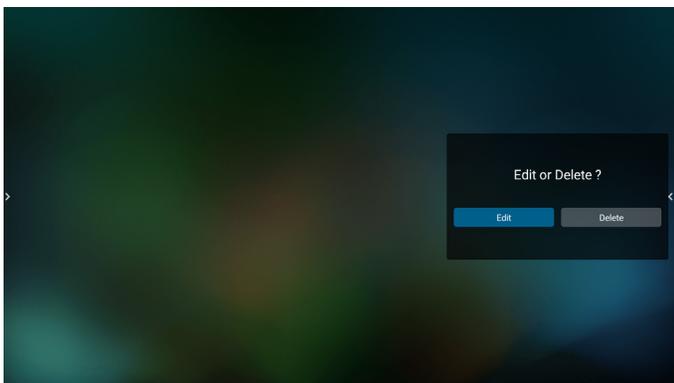


4. 空の再生一覧を選択した場合、アプリはメディアソースを選択するようにガイドします。
 すべてのメディアファイルは、ルートディレクトリの /philips/ に配置する必要があります。
 例えば、

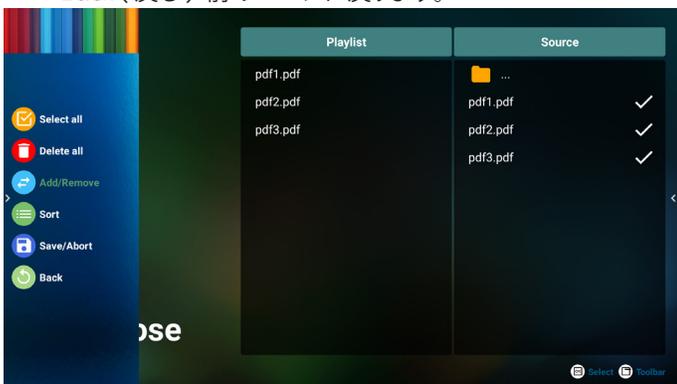
PDF: {root dir of storage}/philips/pdf/



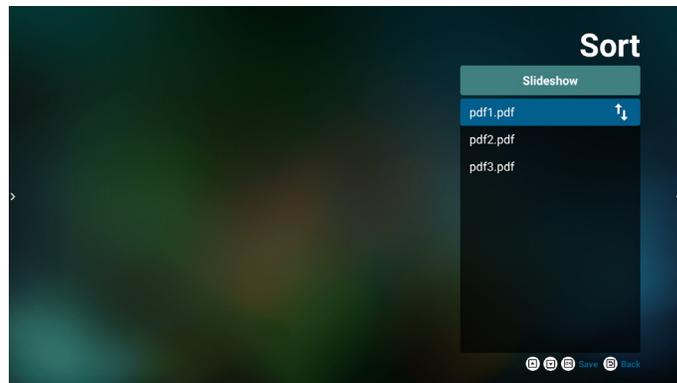
5. 空でない再生一覧を編集または削除するには、選択したファイルの右側に鉛筆アイコンが付いている再生一覧を選択します。



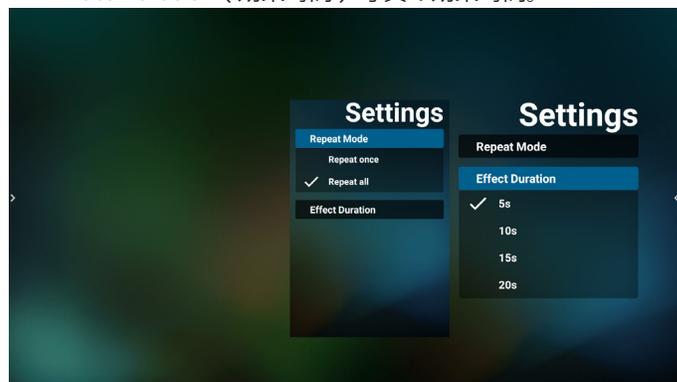
6. 再生一覧の編集を開始すると、以下の画面が表示されます。
- Source (ソース) - ストレージ内のファイル。
 Playlist (再生一覧) - 再生一覧内のファイル。
 以下の機能は、リモコンの対応するキーから操作できます。
- Option (オプション) キー - サイドメニューバーを起動します。
 Play (再生) キー - メディアファイルを再生します。
 Info (情報) キー - メディア情報を表示します。
 OK キー - ファイルを選択 / 選択解除します。
- 6-1. サイドメニューバーから、次の機能を使用できます。
- Select all (すべて選択): すべてのストレージファイルを選択します。
 - Delete all (すべて削除): すべての再生一覧ファイルを削除します。
 - Add/remove (追加 / 削除): ソースから再生一覧を更新します。
 - Sort (並べ替え): 再生一覧を並べ替えます。
 - Save/abort (保存 / 中断) 再生一覧を保存または中断します。
 - Back (戻る): 前のページに戻ります。



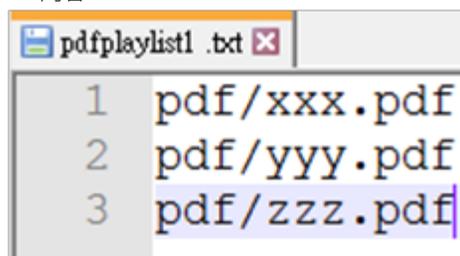
7. 「Sort (並び替え)」を選択すると、ファイルの順序を個別にカスタマイズできます。



8. メインページで「Settings (設定)」を選択します。2つのオプション: 「Repeat Mode (繰り返しモード)」と「Effect Duration (効果時間)」があります。
- Repeat mode (繰り返しモード): 繰り返しモードを設定します。
 Effect Duration (効果時間): 写真の効果時間。



9. FTP を通して PDF リストを編集する方法。
 ステップ 1、PDF プレーヤーテキストファイルを作成します。
- ファイル名: pdfplaylistX.txt。「X」が再生一覧の番号です (1、2、3、4、5、6、7)。
 例: pdfplaylist1.txt, pdfplaylist2.txt
 - 内容:



ステップ 2、pdfplaylistX.txt を内部ストレージにある「philips」フォルダにコピーします。この際、FTP を利用することができません。

- ファイルパス: /storage/emulated/legacy/philips (for DL, PL)
 例: /storage/emulated/legacy/philips/pdfplaylist1.txt

ステップ 3、内部ストレージの「Philips」フォルダの下にある「PDF」フォルダに PDF ファイルを準備します。

- 例: /storage/emulated/legacy/philips/pdf/xxx.pdf
 /storage/emulated/legacy/philips/pdf/yyy.pdf
 /storage/emulated/legacy/philips/pdf/zzz.pdf

ステップ 4、PDF プレーヤーアプリを起動すると、PDF プレーヤーのテキストファイルが自動的にインポートされます。

注記:再生一覧ファイル(テキスト)がインポートされた後、リモコンで行った変更は再生一覧テキストファイルに記録されません。

メディアホットキー:

Play (再生):ファイルを再生します。

Pause (一時停止):再生を一時停止します。

Fast forward (早送り):次のページに移動します。ページがファイルの最後にある場合は、次のファイルに移動します。

Rewind (巻き戻し):最後のページに戻ります。ページがファイルの最初にある場合は、前のファイルに移動します。

Stop (停止):ファイルの最初のページに戻ります。

矢印キー:

Left (左):前のページに戻ります。

Right (右):次のページに移動します。

組み合わせキー:

数字キー + OK キー:特定のページに変更します。

- 数字キーを押して特定のページを選択します。

- 「OK」キーを押します。ページ番号はページの下部に表示されます。選択したページ番号が合計ページ数を超える場合、そのページは変更されず、代わりに現在のページ番号が表示されます。

注記:

2つ以上のUSBディスクを接続して再生一覧を編集する場合、USBストレージパスが変更される可能性があるため、電源のオン/オフ後に再生一覧から再生できるかどうかは保証できません。再生一覧を編集するときは、USBディスクを1つだけ使用することを強くお勧めします。

4.7. CMND & Play

1) Server (サーバー)

CMND & Play サーバーアドレスを設定します。

2) Account (アカウント)

CMND & Play アカウントを設定します。

3) PIN Code (PIN コード)

CMND & Play の PIN コードを設定します。

4) Version (バージョン)

2つのプロトコル(バージョン V2(2.0/2. の場合)および V3(3.0/3.1 の場合)をサポートします。

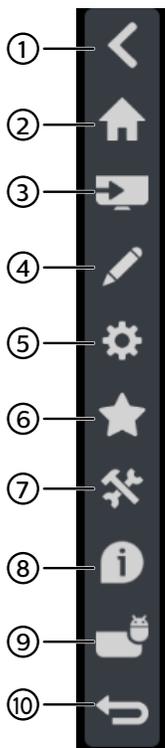
V3 の場合、追加サーバー、アカウント、PIN コードの設定が必要です。

5) Content (コンテンツ)

次の3つのオプションが利用可能です:内部ストレージ、SDカードまたはUSBストレージです。



4.8. Side Bar (サイドバー)



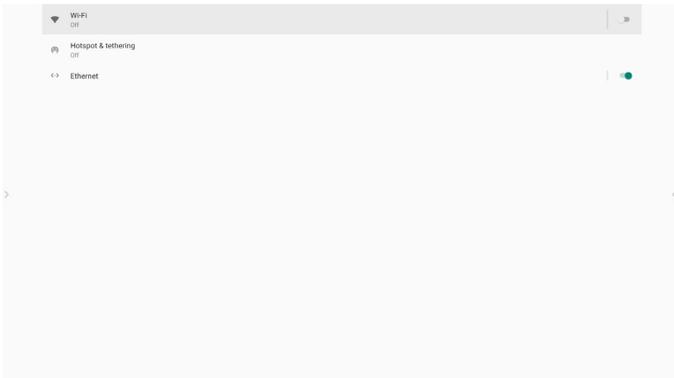
- ① **非表示**
サイドバーを非表示にします。
- ② **ホーム**
ホームを開きます。
- ③ **ソースメニュー**
ソースメニューを開きます。
- ④ **IWB**
IWBを開くと、この項目は IMD ホームの下に表示されません。
- ⑤ **OSD メニュー**
OSD メニューを開きます。
- ⑥ **お気に入り**
お気に入りを開き、頻繁に使用する APK を追加または削除します。
- ⑦ **ツール**
 - (1) フリーズ / フリーズ解除: 非 Android のシングル画面のみをフリーズ / フリーズ解除します。音声信号はオンのままです。
 - (2) タッチロック: タッチ機能をロックします。タッチロックが有効になると、ロック解除するには、パスワードを入力する必要があります。
デフォルトパスワードは 666 です。[設定] -> [サインページディスプレイ] -> [システムツール] -> [タッチロックパスワード] で、新しいパスワードを設定することもできます。
- ⑧ **クイック情報**
時間、ネットワーク、モニター情報に関する情報が表示されます。
- ⑨ **履歴**
履歴アプリを表示します。
- ⑩ **戻る**
前のページに戻る、または前の機能を終了します。

5. Setting (設定)

メイン項目:

- (1) Network & internet (ネットワークとインターネット)
- (2) Security (セキュリティ)
- (3) Signage Display (サイネージ表示)
- (4) App & notifications (アプリと通知)
- (5) Display (ディスプレイ)
- (6) System (システム)

5.1. Network & internet (ネットワークとインターネット)



(1) Wi-Fi

本機には 2 つの Wi-Fi モジュールがあり、1 つは AP 機能用、もう 1 つは STA 機能用です。

ワイヤレスネットワーク設定に移動します。利用可能なネットワークリストで、既存のワイヤレスネットワーク上の AP (アクセスポイント) を選択します。

メモ:

1. Wi-Fi がネットワークに正しく接続されている場合、イーサネットは自動的に無効になります。
2. Wi-Fi モジュールには特定のモデルが必要になります。アドバイスが必要な場合は、販売店またはサービス技術者にご相談ください。

(2) Hotspot & tethering (ホットスポットとテザリング)

オンにすると、携帯電話、タブレット、PC は、ホットスポットに接続することでプラットフォームの Wi-Fi ネットワークを共有することができます。

ホットスポット機能を使用して、相互交流ソフトウェアを介してモバイル、タブレット、PC の画面をプラットフォームにアップロードすることもできます。

(3) Ethernet (イーサネット)

イーサネットネットワーク設定に移動し、必要な設定を行います。イーサネットを有効にすると、次の設定が表示されます。

(1) Connection Type (接続タイプ) (利用可能な接続タイプ: DHCP および静的 IP)。

A. DHCP

DHCP は、インターネットにアクセスするための IP アドレス、ネットマスク、DNS アドレス、ゲートウェイを自動的に提供するため、手動で入力する必要はありません。接続が成功すると、現在のネットワーク構成が表示されます。

B. Static IP (静的 IP)

IP アドレス、ネットマスク、DNS アドレス、ゲートウェイを手動で入力します。

注記:

IP アドレス、ネットマスク、DNS アドレス、ゲートウェイアドレスの入力制限

(1) 形式: 数字の 0 ~ 9、小数点の「.」

(2) MAC アドレス

注記:

Wi-Fi がネットワークに正しく接続されている場合、イーサネットは自動的に無効になります。

5.2. Security (セキュリティ)



(1) Unknown source (不明なソース)

Android で不明なソースからアプリのインストールを許可しません。

(2) Device admin apps (デバイス管理アプリ)

デバイス管理アプリを有効化または無効化します。

5.3. Signage Display (サイネージ表示)

(1) General Setting (一般設定)

- A. Signage Display Name (サイネージディスプレイ名)
- B. Boot Logo (ブートロゴ表示)
- C. Navigation bar (ナビゲーションバー)
- D. Home shortcut (ホームショートカット)

(2) Server Settings (サーバー設定)

- A. FTP
- B. Remote Control (リモコン)
- C. ADB over Network (ADB オーバーネットワーク)

(3) Source Settings (ソース設定)

- A. Android source (Android ソース)
- B. Source label/enable (ソースラベル / 有効化)

(4) Network Application (ネットワークアプリケーション)

- A. Proxy (プロキシ)
- B. SICP Network Port (SICP ネットワークポート)

(5) System Tools (システムツール)

- A. Clear Storage (ストレージの消去)
- B. Auto restart (自動再起動)
- C. Import & Export (インポートおよびエクスポート)
- D. Clone (クローン)
- E. Security (セキュリティ)
- F. Admin Password (管理者パスワード)
- G. Touch Password (タッチパスワード)
- H. Swipe up (スワイプアップ)

(6) Misc. (その他)

- A. TeamViewer Support (TeamViewer のサポート)
- B. Hide the close button of whiteboard (ホワイトボードの閉じるボタンを非表示にする)
- C. Change wallpaper (壁紙の変更)

(7) System updates (システムアップデート)

5.3.1. General Setting (一般設定)

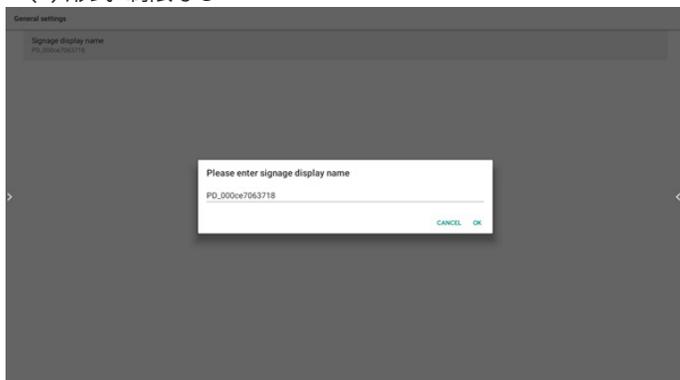
1. Signage Display Name (サイネージディスプレイ名)

PD名を「PD_」+イーサネットMACアドレスに設定します。

注記:

入力制限:

- (1) 長さ: 最大 36 文字
- (2) 形式: 制限なし



2. Boot Logo (ブートロゴ表示)

「OSD Menu (OSD メニュー) -> Configuration (詳細設定) -> Logo (ロゴ)」が「User (ユーザー)」に等しい場合、この項目で、新しいブートアニメーションを変更することができます。

3. Navigation bar (ナビゲーションバー)

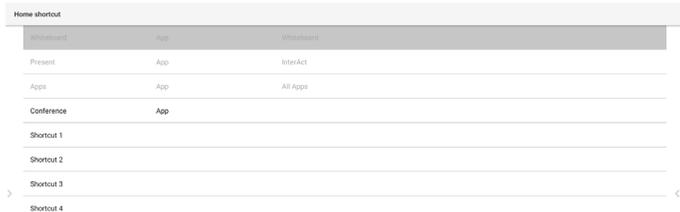
Always on (常にオン): バーは常に表示されます。

Always off (常にオフ): バーは常に非表示になります。

Auto hide (自動非表示): 約 10 ~ 15 秒後にバーは自動的に非表示になります。

4. Home shortcut (ホームショートカット)

APP/Source shortcut (アプリ/ソースショートカット) をホームランチャーに追加します。



5.3.2. Server Settings (サーバー設定)

1. FTP

Settings (設定) -> Signage Display (サイネージ表示) -> Server Settings (サーバー設定) -> FTP



チェックボックスをクリックして、FTP サーバー機能を有効または

無効にします。有効にした後、アカウント、パスワード、ポート番号を設定できます。

- a. Account (アカウント): FTP サーバーにログインするためのユーザー名。名前の長さは 4 ~ 20 文字で、[a ~ z][A ~ Z][0 ~ 9] のみを使用できます。
- b. Password (パスワード): FTP サーバーにログインするためのパスワード。パスワードの長さは 6 ~ 20 文字で、「a ~ z」「A ~ Z」「0 ~ 9」のみを使用できます。設定後、パスワードは「*」として表示されます。
- c. Storage path (ストレージパス): FTP サーバーは、内部ストレージにのみアクセスします。変更できません。
- d. Port (ポート): FTP サーバーのポート番号。利用可能なポート番号は、1025 から 65535 です。デフォルトは 2121 です。次のポート番号は使用できません:
8000/9988/15220/28123/28124 および SICP ネットワークポート (デフォルト 5000)。

最後に、システムを手動で再起動して FTP 設定を適用します。

2. Remote Control (リモコン)

リモコンを有効または無効にします。



サーバーアドレスを入力します。サーバーが登録されていない場合は、PIN コードの入力を求められます。

バインド状態:

- (1) デバイスに適切なネットワーク接続がない場合、「Network is disconnected (ネットワークが切断されました)」というメッセージが表示されます。
- (2) ネットワーク機能を搭載している状態で、リモコンサーバーに接続されていない場合は、「Server is disconnected (サーバーが切断されました)」というメッセージが表示されます。
- (3) リモコンサーバーが未バインド状態をフィードバックする場合、「サーバーはバインドされていません」と表示します。
- (4) デバイスがサーバーに正常にバインドされている場合は、「サーバーがバインドされています」と表示します。
- (5) PIN コードが正しくない場合は、エラー PIN コードを表示します。

3. ADB over Network (ADB オーバーネットワーク)

ポート 5555 のネットワーク接続を介して ADB にアクセスできます。



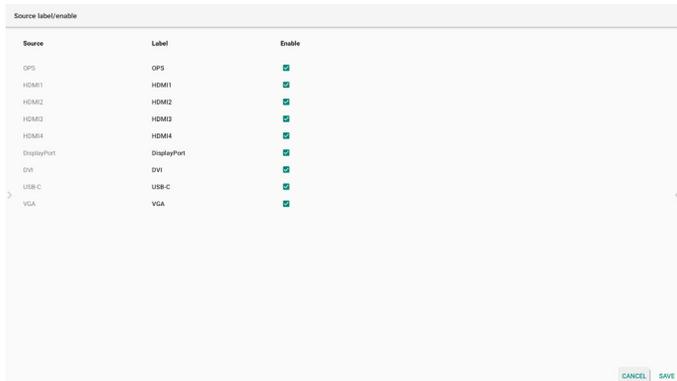
5.3.3. Source Settings (ソース設定)

1. Android source (Android ソース)

- A. Media Player (メディアプレーヤー) (4.4 Media Player (メディアプレーヤー) の説明を参照してください。)
- B. Browser (ブラウザー) (4.5 Browser (ブラウザー) の説明を参照してください。)
- C. CMND & Play (4.7. CMND & Play の説明を参照してください。)
- D. Custom app (カスタムアプリ): 特定のアプリをカスタムソースに追加します。

2. Source label/enable (ソースラベル / 有効化)

非 Android ソースの関数名の編集を有効化 / 無効化します。

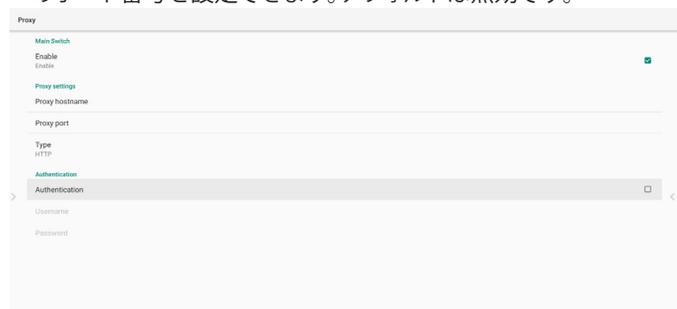


5.3.4. Network Application (ネットワークアプリケーション)

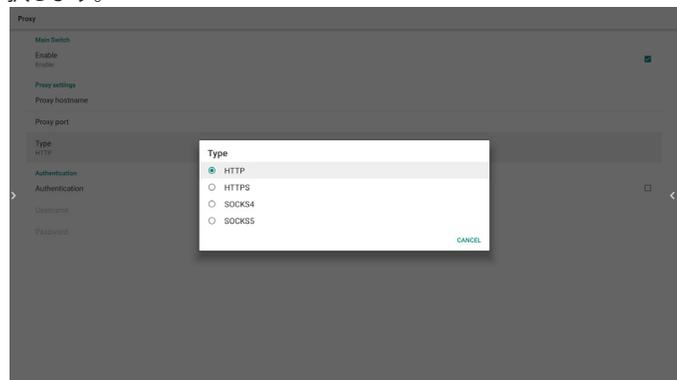
1. Proxy (プロキシ)

Settings (設定) -> Signage Display (サイネージ表示) -> Network Application (ネットワークアプリケーション) -> Proxy (プロキシ)

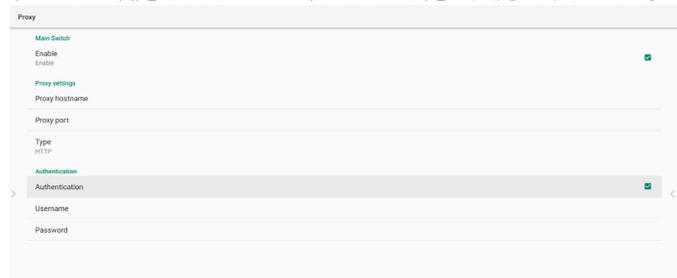
「Enable (有効)」チェックボックスをクリックして、ネットワークプロキシを有効または無効にします。ホスト IP およびプロキシサーバーのポート番号を設定できます。デフォルトは無効です。



システムは次のプロキシタイプ: HTTP, HTTPS, SOCKS4, SOCKS5 をサポートします。プロキシサーバー用にいずれかを選択します。



プロキシサーバーが、ログイン名およびパスワードによる認証を要求する場合は、「Authentication (認証)」を有効にして「Username (ユーザー名)」と「Password (パスワード)」を入力してください。



2. SICP Network Port (SICP ネットワークポート)

Settings (設定) -> Signage Display (サイネージ表示) -> Network Application (ネットワークアプリケーション) -> SICP Network Port (SICP ネットワークポート)

SICP デフォルトポートを設定し、ネットワーク SICP を有効または無効にします。デフォルト SICP は有効で、ポート 5000 を使用します。注記:

ポート番号は、1025 ~ 65535 の範囲です。

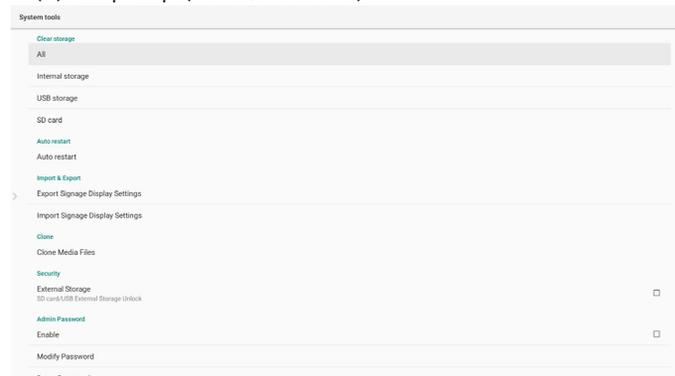
次のポートは既に使用されており、SICP 根ポートに割り当てられません: 8000/9988, 15220, 28123, 28124 および FTP ポート (デフォルト 2121)。



5.3.5. System Tools (システムツール)

システムツールは、5 つの主要な機能で構成されています。

- (1) Clear Storage (ストレージの消去)
- (2) Auto restart (自動再起動)
- (3) Import & Export (インポートおよびエクスポート)
- (4) Clone (クローン)
- (5) Security (セキュリティ)
- (6) Admin Password (管理者パスワード)
- (7) Touch lock password (タッチロックパスワード)
- (8) Swipe up (スワイプアップ)

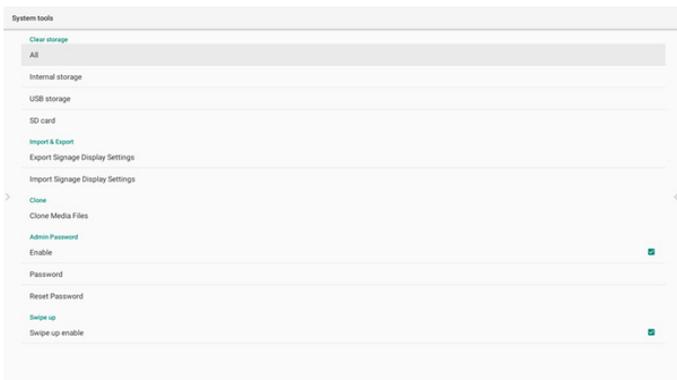


5.3.5.1. Clear Storage (ストレージの消去)

フォルダ「Philips」内のデータを消去するためのものです。次の 4 つのモードに分けられます。

- (1) すべての Philips フォルダを消去します。
- (2) 内部ストレージからのみ「Philips」フォルダを消去します。
- (3) USB ストレージからのみ「Philips」フォルダを消去します。
- (4) SD カードからのみ「Philips」フォルダを消去します。

ダイアログボックスには、システムがクリアしようとしているすべてのフォルダが一覧表示されます。



Export Signage Display Settings (サイネージ表示設定のエクスポート)

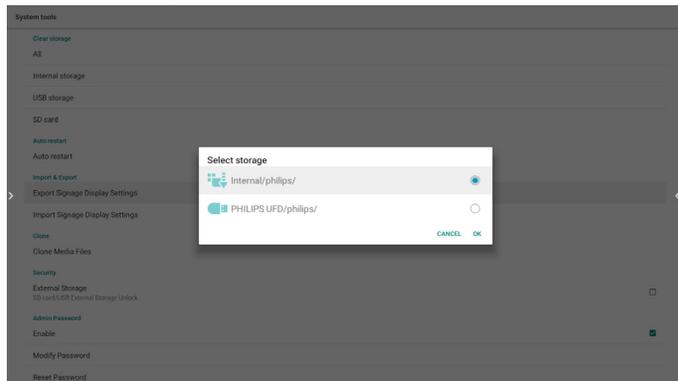
データベースは、USB または SD カードの「Philips」フォルダにエクスポートされます。

- (1) データベースのエクスポート
- (2) サードパーティ APK を Philips/app/ にエクスポート

注記:

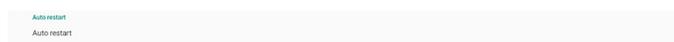
選択したストレージ (USB ストレージまたは SD カード) に「Philips」フォルダが含まれていない場合、システムはそれを自動的に作成します。

利用可能なすべてのストレージ (内部ストレージ /SD カード / USB ストレージ) のリスト:



5.3.5.2. Auto restart (自動再起動)

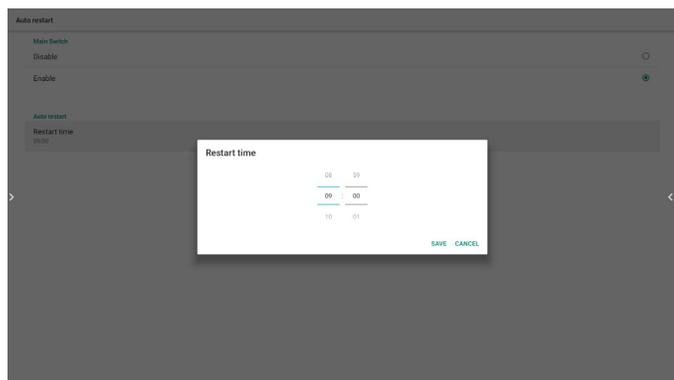
デバイスを毎日特定の時刻に自動再起動するように設定できます。



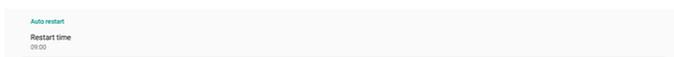
メインスイッチで、自動再起動機能を有効または無効に設定します。



時刻ピッカーで再起動時刻を設定することができます。



「保存」後、システム再起動時刻が以下に表示されます。システムは特定の時刻に再起動します。



5.3.5.3. Import & Export (インポートおよびエクスポート)

この機能を使用すると、設定とサードパーティの APK を他のデバイスにインポート / エクスポートできます。

メモ:

- (1) 保存されるファイル名:
 - A. Settings_global.xml
 - B. Settings_secure.xml
 - C. Settings_system.xml
 - D. Signage_settings.db
 - E. AndroidPDMediaPlayerData.db
 - F. AndroidPDUrllistData.db
 - G. Smartcms.db

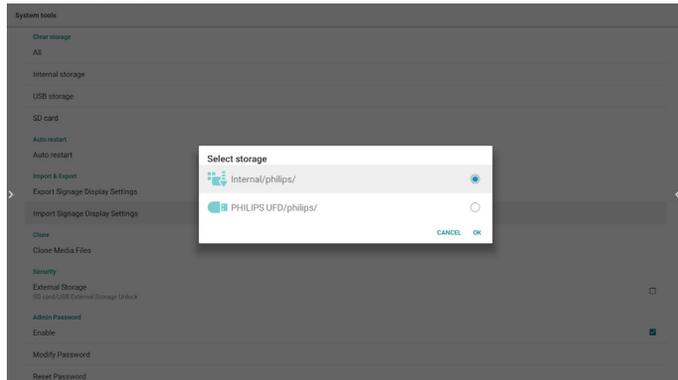
- (2) ファイルは、選択したストレージの philips/sys_backup フォルダにエクスポートされます。

Import Signage Display Settings (サイネージ表示設定のインポート)

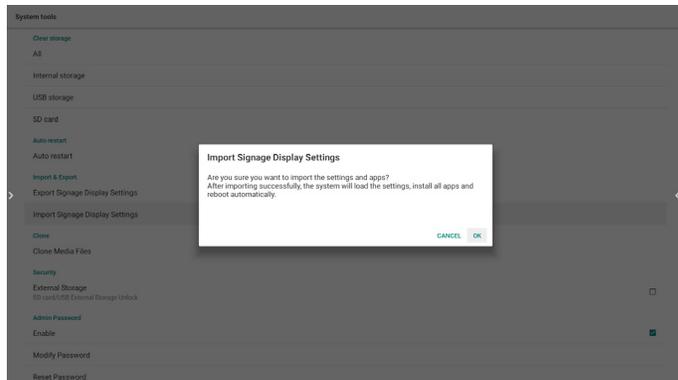
選択したストレージ (USB ストレージまたは SD カード) の「Philips」フォルダからデータをインポートすることができます。

- (1) 設定とアプリのインポート
- (2) Philips/app/ からサードパーティ APK を自動的にインストール

利用可能なすべてのストレージ (内部ストレージ /SD カード / USB) のリスト:



設定とアプリをインポートする前に、確認ダイアログボックスが表示されます。



5.3.5.4. Clone (クローン)

この機能を使用すると、ソースストレージ (内部、SD カード、USB) の「Philips」フォルダからメディアファイルをコピーすることができます。

1. 次のフォルダがコピーされます (Philips フォルダの下)

- (1) philips/photo
- (2) philips/music
- (3) philips/video
- (4) philips/cms
- (5) philips/browser

2. 複製されたファイルのファイル拡張子は「.cms」です

Source storage (ソースストレージ)

(1) Internal storage (内部ストレージ)

- (a) FTP を確認
- (b) /Philips/ フォルダを確認

(2) SD/USB

ルート下にあるファイル

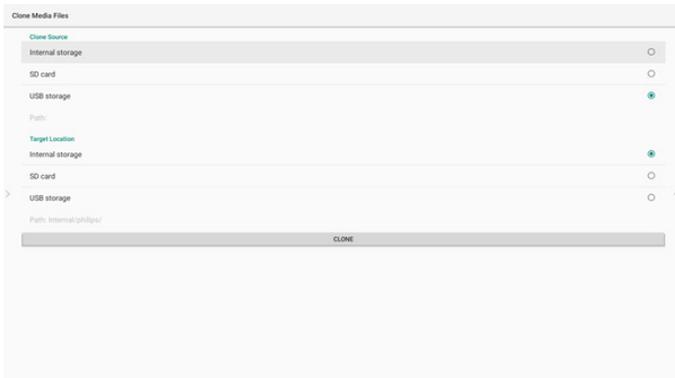
Target Location (ターゲットロケーション)

(1) Internal storage (内部ストレージ)

/Philips/ に保存

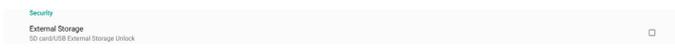
(2) SD/USB

ルートに保存



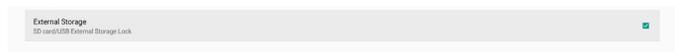
5.3.5.5. Security (セキュリティ)

Settings (設定) -> Signage Display (サイネージ表示) -> System Tools (システムツール) -> Security (セキュリティ)



External Storage (外部ストレージ)

チェックボックスをクリックして、外部ストレージ (SD カードおよび USB ストレージ) をロックまたはロック解除します。デフォルトはロック解除です。



未クリック(無効):SD カード /USB 外部ストレージ ロック解除。

クリック済(有効):SD カード /USB 外部ストレージ ロック。

注記:

有効状態の外部ストレージロックを無効にするときは、外部ストレージ (SD カードおよび USB ストレージの場合) を取り外して、もう一度取り付けてください。その後、システムが外部ストレージをもう一度検出できるようになります。

5.3.5.6. Admin Password (管理者パスワード)

管理者パスワードを変更または有効化 / 無効化します。

5.3.5.7. Touch lock password (タッチロックパスワード)

デフォルトパスワードは 666 です。このオプションで、タッチパスワードを変更することもできます。

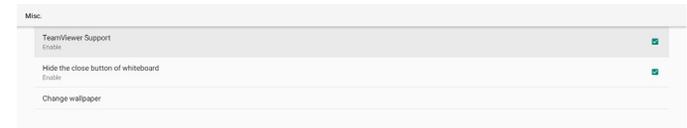
5.3.5.8. Swipe up (スワイプアップ)

上スライドを有効化 / 無効化して、ソースメニューをオンにします。

5.3.6. Misc. (その他)

5.3.6.1. TeamViewer Support (TeamViewer のサポート)

チェックボックスをクリックして、TeamViewer Support (TeamViewer への対応) を有効または無効にします。TeamViewer は、管理モードを開くための仮想ホームキーを送信します。デフォルトは有効です。



TeamViewerHost および TeamViewerQSAddOn APK がシステムに自動的にインストールされます。そうでない場合、「TeamViewer Support (TeamViewer への対応)」を無効化すると、システムはそれらを削除します。

「TeamViewer Support (TeamViewer のサポート)」が有効になっている場合、次の 2 つの APK が Settings (設定) -> Apps (アプリ) に表示されます。



5.3.6.2. Hide the close button of whiteboard (ホワイトボードの閉じるボタンを非表示にする)

有効:「Exit (終了)」アイコンは、ホワイトボードの左下隅に表示されません。

Disable (無効):「Exit (終了)」アイコンは、ホワイトボードの左下隅に表示されます。

5.3.6.3. Change wallpaper (壁紙の変更)

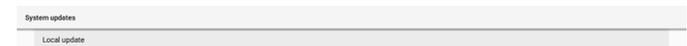
ホームランチャーの背景画像を変更します。

5.3.7. System updates (システムアップデート)

1. Local update (ローカルアップデート)

Settings (設定) -> Signage Display (サイネージ表示) -> System updates (システムアップデート) -> Local update (ローカルアップデート)

システムは、USB ディスクおよび SD カードのルートフォルダの「update.zip」を自動的に検索します。システムが外部ストレージの「update.zip」を検索した場合、更新するファイルを選択するための、選択可能リストをポップアップ表示します。



リストからファイルを選択すると、システムは再起動し、アップグレードを実行します。

以下に注意してください。

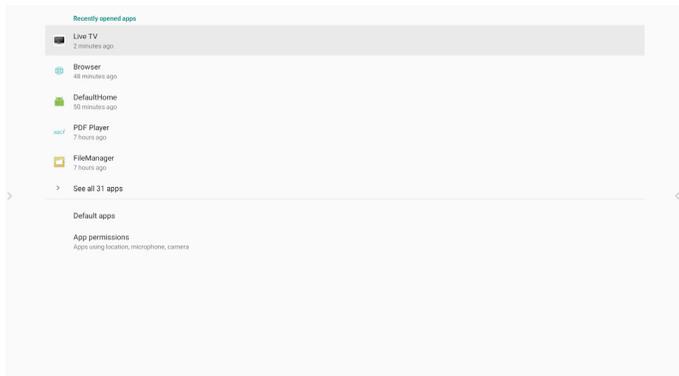
- (1). システムアップデート中は、電源をオンの状態に維持し、電源アダプターを取り外さないでください。
- (2). 現在のシステムは、Android のフルアップデートのみをサポートします。
- (3). アップデートファイルは、必ず「update.zip」にしてください。
- (4). 「update.zip」は、必ず、外部ストレージのルートフォルダに入れてください。

5.4. App & notifications (アプリと通知)

アプリケーション情報を表示します。

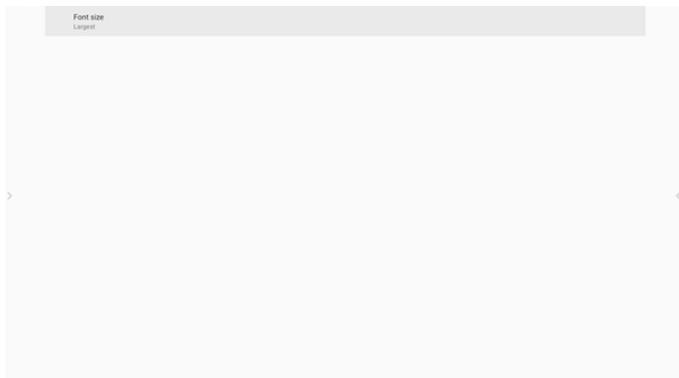
注記:

- (1) RCU にあるユーザーオプションキーは設定オプションを表示します。



5.5. Display (ディスプレイ)

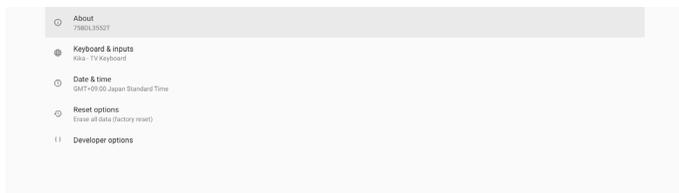
ディスプレイのフォントサイズを小 / ノーマル / 大 / 特大から設定します。



5.6. System (システム)

システムに関する次の情報を表示します:

- (1) About (バージョン情報)
- (2) Keyboard & inputs (キーボードと入力)
- (3) Date & Time (日付と時刻)
- (4) Reset options (リセットオプション)
- (5) Developer options (デベロッパーオプション)



5.7. Quick Info (クイック情報)

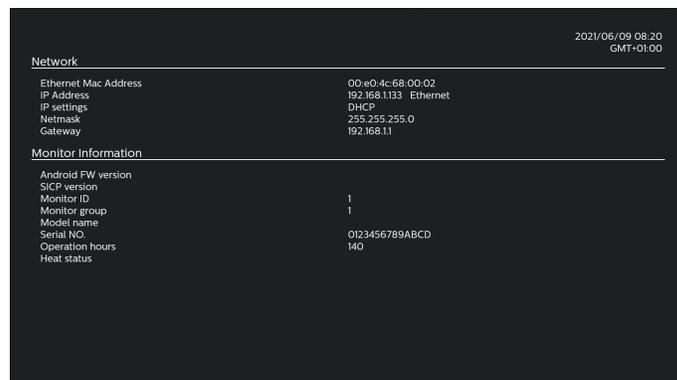
「Info + 77」を押すと、クイック情報が起動します。

クイック情報には、「Network (ネットワーク)」と「Monitor Information (モニター情報)」が表示されます。

注記:

Operation hours (動作時間): 毎分更新されます。

Heat status (温度ステータス): 5 秒毎に更新されます。



6. OSDメニュー

オンスクリーンディスプレイ (OSD) 構造の全体図を以下に示します。この全体図は、ディスプレイをさらに調整する場合の参照として使用できます。

6.1. OSDメニューをナビゲートする

6.1.1. リモコンを使用して OSDメニューをナビゲートする



1. リモコン上の [**HOME**] ボタンを押して、OSDメニューを表示します。
2. [**▲**] ボタンもしくは [**▼**] ボタンを押して、調整したい項目を選択します。
3. [**OK**] または [**▶**] ボタンを押して、サブメニューに入ります。
4. サブメニュー内では、[**▲**] ボタンまたは [**▼**] ボタンまたは項目を切り換えて、[**▶**] ボタンまたは [**▶**] ボタンを押して設定を調整します。サブメニューがある場合には、[**OK**] または [**▶**] ボタンを押してサブメニューに入ります。
5. [**◀**] ボタンを押して直前のメニューに戻るか、または [**HOME**] ボタンを押して OSDメニューを離れます。

メモ:

- ・ 画面に OSDメニューが表示されない場合は、[**▲**] を押して {スマートピクチャー} のメニューを表示します。
- ・ 画面に OSDメニューが表示されない場合は、[**▼**] を押して {オーディオソース} のメニューを表示します。

6.1.2. ディスプレイのコントロールボタンを使用して、OSDメニューをナビゲートする

1. [**メニュー**] ボタンを押して、OSDメニューを表示します。
2. [**+**] ボタンもしくは [**-**] ボタンを押して、調整したい項目を選択します。
3. [**+**] ボタンを押して、サブメニューに入ります。
4. サブメニュー内では、[**▲**] ボタンまたは [**▼**] ボタンまたは項目を切り換えて、[**+**] ボタンまたは [**-**] ボタンを押して設定を調整します。サブメニューがある場合には、[**+**] ボタンを押してサブメニューに入ります。
5. [**メニュー**] ボタンを押して直前のメニューに戻るか、または [**メニュー**] ボタンを押して OSDメニューを離れます。

6.2. OSDメニューの概要

6.2.1. 画像メニュー

画像メニュー	輝度(画像)	70
画面メニュー	コントラスト	50
オーディオメニュー	シャープネス	20
詳細設定	ブラックレベル	50
アドバンスドオプションメニュー	色合い(色調)	50
Android設定	色(彩度)	50
	ノイズ減少	中
	ガンマ選択	ネイティブ
	色温度	ネイティブ
	カラーコントロール	アクション
	オーバースキャン	オフ
	画像リセット	アクション

輝度(画像)

本ディスプレイのバックライトの明るさを調整します。

コントラスト

入力信号に対する画像のコントラスト比を調整します。

シャープネス

シャープネスを調整して、画像のディテールを改善します。

ブラックレベル

ビデオのブラックレベルは、ビジュアル画像のもっとも暗い(黒い)部分のブライトネスレベルとして定義されます。このディスプレイのブラックレベルを調整します。

色合い(色調)

画像の色合いを調整します。

[**▶**] ボタンを押すと、緑がかった色になります。[**▶**] ボタンを押すと、紫がかった色になります。

注記: この項目は動画モード(YUV色空間)に対してのみ適用されます。

色(彩度)

画像の色の濃さを調整します。

注記: この項目は動画モード(YUV色空間)に対してのみ適用されます。

ノイズ減少

映像ノイズを低減します。適切なノイズ除去レベルを選択できます。オプションは次の通りです: {**オフ**} / {**低**} / {**中**} / {**高**}。

注記: この項目は動画モード(YUV色空間)に対してのみ適用されます。

ガンマ選択

ガンマは画像の全体的なブライトネスを制御するものです。正しく補正されない画像は、白すぎまたは黒すぎとなります。したがって、ガンマを適切に制御することで、ディスプレイ全体の映像品質に大きな影響を与えることができます。

オプションは次の通りです: {**ネイティブ**} / {**2.2**} / {**2.4**} / {**S gamma**} / {**D-image**}。

色温度

画像の色温度を選択します。低い色温度は赤みを、高い色温度は青みを持ちます。

オプションは次の通りです: {**3000K**} / {**4000K**} / {**5000K**} / {**6500K**} / {**7500K**} / {**9300K**} / {**10000K**} / {**ネイティブ**} / {**ユーザー 1**} / {**ユーザー 2**}。

カラーコントロール

R (赤)、G (緑)、B (青) 設定を個別に変更することで、画像の色調を正確に調整することができます。

{ 画像メニュー } - { 色温度 } - { ユーザー } 設定が [ユーザー 1] または、100K ごとの色調を 2000K ~ 10000K に調整することができます。

{ 画像メニュー } - { 色温度 } - { ユーザー } 設定が [ユーザー 2]

オーバースキャン

画像の表示エリアを変更します。

- { オン } - 画像を元の約 95% の大きさで表示します。画像を囲む残りの領域はカットされます。
- { オフ } - 元のサイズで画像を表示します。

画像リセット

画像メニューですべての設定をリセットします。

6.2.2. 画面メニュー

画像メニュー	水平位置	50
画面メニュー	垂直位置	50
オーディオメニュー	クロック	0
詳細設定	クロック位相	14
アドバンスドオプションメニュー	ズームモード	フル
Android設定	CUSTOM ZOOM	アクション
	オートアジャスト	アクション
	画面リセット	アクション

水平位置

画像を右に移動するには [▶] ボタンを、左に移動するには [◀] ボタンを押します。

メモ:

- 水平位置調整は VGA 入力のみ適用されます。
- { ピクセルシフト } がアクティブになっているとき、水平位置は調整できません。

垂直位置

画像を上を移動するには [▶] ボタンを、下に移動するには [◀] ボタンを押します。

メモ:

- 垂直位置調整は VGA 入力のみ適用されます。
- { ピクセルシフト } がアクティブになっているとき、垂直位置は調整できません。

クロック

画像の幅を調整します。

注記: この項目は VGA 入力にのみ適用されます。

クロック位相

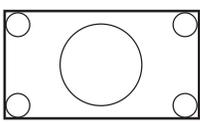
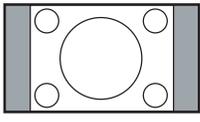
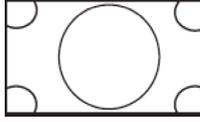
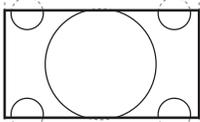
焦点、画像の明瞭さ、および安定度を改善するよう調整します。

注記: この項目は VGA 入力にのみ適用されます。

ズームモード

受信する映像は、16:9 フォーマット (ワイド画面) または 4:3 フォーマット (従来の画面) で送信されます。16: 画像では、画面の上下に黒い部分が現れることがあります (レターボックス形式)。{ ピクセルシフト } がアクティブまたはオンになっている時、また { Tiling } (タイル) が有効になっている時は、ズームモードは非アクティブになります。

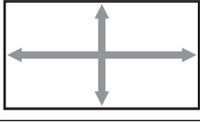
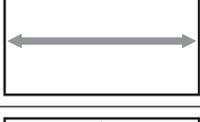
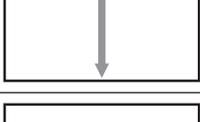
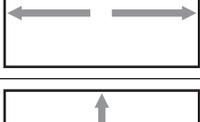
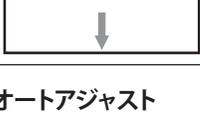
こちらより選択します { フル } / { ノーマル } / { リアル } / { 21:9 } / { カスタム }。

	フル このモードでは、全画面表示を使用して、16:9 で送信された映像を正しい映像比に戻します。
	ノーマル この映像は 4:3 フォーマットで再現され、映像の両側には黒い部分が表示されます。
	リアル このモードでは、オリジナルの画像サイズを変えることなく、画面に画素ごとの画像を表示します。
	21:9 映像は 21:9 形式に拡大されます。上部と下部に黒い部分がある映像が表示される場合には、このモードを推奨します (レターボックス形式)。
	カスタム [Custom Zoom] サブメニューでカスタムズーム設定を適用します。

CUSTOM ZOOM

この機能は、表示したい画像に合わせるため、ズームをカスタマイズします。

注記: この項目は { ズームモード } が { カスタム } に設定されている時のみ機能します。

	ズーム 画像の縦と横のサイズを同時に拡大します。
	水平ズーム 像の水平サイズのみを拡大します。
	垂直ズーム 画像の垂直サイズのみを拡大します。
	水平位置 画像の水平位置を左右に移動します。
	垂直位置 画像の垂直位置を上下に移動します。

オートアジャスト

「設定」を押して、水平位置、垂直位置、クロック、位相を自動的に調整します。

注記: この項目は VGA 入力にのみ適用されます。

画面リセット

画面メニューのすべての設定を工場出荷時の値にリセットします。

6.2.3. オーディオメニュー

画像メニュー	バランス	50
画面メニュー	高音	50
オーディオメニュー	低音	50
詳細設定	音量	20
アドバンスドオプションメニュー	音声出力(ラインアウト)	20
Android設定	最大音量	100
	最小音量	0
	ミュート	オフ
	オーディオソース	デジタル
	オーディオリセット	アクション
	オーディオ出力同期	オフ
	スピーカー設定	オン

バランス

左右の音声出力のバランスの強弱を調整します。

高音

高音の増減を調整します。

低音

低音の増減を調整します。

音量

音量を調節します。

音声出力(ラインアウト)

ライン出力レベルを上げたり下げたりします。

最大音量

最大音量を設定します。これにより、設定した音量で音量が止まります。

最小音量

最小音量を設定します。

ミュート

ミュート機能のオン/オフを切り替えます。

オーディオソース

オーディオ入力ソースを選択します。動画信号がない場合、オーディオ出力はサポートされません。

- ・ **{アナログ}**:オーディオ入力からの音声。(OPS がソースとして選択されている場合の OPS オーディオ入力からのオーディオ)
- ・ **{デジタル}** - 動画入力ソースからのオーディオ。(VGA および DVI はサポートされません)

オーディオリセット

現在のソースのオーディオメニューのすべての設定を工場出荷時の値にリセットします。

オーディオ出力同期

音量と音量同期を同期します。

- ・ **{オン}** - 機能を有効化します。
- ・ **{オフ}** - 機能を無効化すると、オーディオ出力音量がグレー表示されます。

スピーカー設定

スピーカーを有効化 / 無効化します。

注記: この機能は、「オーディオ出力同期」がオンの場合にのみ使用できます。

6.2.4. 詳細設定

画像メニュー	スイッチオン状態	Force on
画面メニュー	Panel saving	アクション
オーディオメニュー	RS232ルーティング	RS232
詳細設定	ソース起動	アクション
アドバンスドオプションメニュー	ロゴ	オン
Android設定	WOL	オフ
	光センサー	オフ
	人センサー	オフ
	DisplayPort/バージョン	1.1
	HDMIバージョン	1.4
	System rotation	0°
	インフォメーション OSD	10
	モニターID	アクション

スイッチオン状態

次回電源コードを接続するときに適用されるディスプレイの状態を選択します。

- ・ **{電源オフ}** - 電源コードが壁コンセントに接続されているとき、ディスプレイはオフのままになります。
- ・ **{強制オン}** - 電源コードが壁コンセントに接続されているとき、ディスプレイはオンのままになります。
- ・ **{最終ステータス}** - 電源コードを外して再び取り付けると、ディスプレイは前の電源状態(オン/オフモード/スタンバイモード)に戻ります。

Panel saving (パネル節約)

パネルの焼き付きやゴーストの発生を抑えるために、Panel saving を有効にしてください。

- ・ **{輝度(画像)}** - {オン} を選択すると、画像の明るさが 30% に低下します。
- ・ **{ピクセルシフト}** - 画像のサイズを変更したり、上下左右に画像をずらすための時間間隔を設定します。{自動} / {10 ~ 900} 秒ピクセルシフトをアクティブにすると、画面メニューの水平位置、垂直位置、ズームモードが無効になります。

メモ:

- ・ 自動は 60 秒です。
- ・ 外部入力ソース (HDMI、VGA、DP、OPS、DVI) のみをサポートします。

RS232 ルーティング

ネットワーク制御ポートを選択します。

こちらより選択します: **{RS232}** / **{LAN->RS232}** / **{OPRS232}**

ソース起動

起動時のソース選択を選択します。

最後の入力: 起動時に最後の入力を保持します。

入力: 起動時に入力ソースを選択します (S12 入力ソースに従います)。

再生一覧: メディアプレーヤー、ブラウザーに対する再生一覧のインデックスを選択します。

0: 再生一覧はありません。OSD からの切り替えソースと同じ。

1 ~ 7: 再生一覧の番号。

8: メディアプレーヤーの自動再生。

フェイルオーバー機能はありません。ソースが信号入力されていなくても、システムはソースを保持します。

ロゴ

ディスプレイをオンに切り替えるときのロゴの画像の有効または無効を選択します。

- ・ {オフ} – 静的な Philips ロゴと Android ブートアニメーションの両方が表示されません。
- ・ {オン} – デフォルト値。Philips ロゴと Android ブートアニメーションの両方が表示されます。
- ・ {ユーザー} – 静的な Philips ロゴは表示されません。Android の設定では、ユーザーが選択した起動アニメーションのみが表示されます。

注記: 回転設定してもロゴは回転しません。

WoL

ウェイクオン LAN 機能のオンまたはオフへの切り替えを選択します。

こちらより選択します: {オフ} / {オン}。

光センサー

CRD41 のライトセンサー機能のオンまたはオフを選択します。

人センサー

CRD41 の人感センサー機能のオンまたはオフを選択します。

DisplayPort バージョン

DP バージョンを変更します。1.1 または 1.2。

HDMI バージョン

HDMI バージョンを変更します。1.4 または 2.0。

System rotation (システム回転)

OSD メニューを回転します。オプションは 0/90/180/270 度です。

注記: Android UI の回転のみをサポートします。(Android 以外のソースはサポートされていません。)

インフォメーション OSD

インフォメーション OSD が画面に表示される期間を設定します。オプションは: { オフ, 1 ~ 60 } 秒です。

モニター ID

RS232C 接続経由で本製品を制御するための ID 番号を設定します。

本製品を複数台接続する場合には、各ディスプレイに一意の ID を割り当てることが必要です。モニターの ID 番号範囲は 1 ~ 255 の間です。

オプションは次の通りです。{ モニターグループ }。

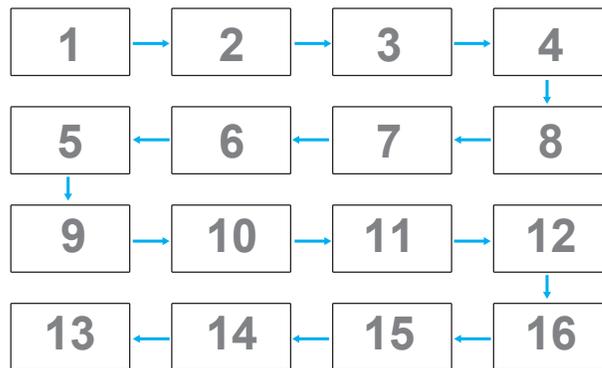
モニターID

モニターID	1
モニターグループ	1

- ・ {モニターグループ}

オプションは次の通りです。{ オフ } / { 1-254 }

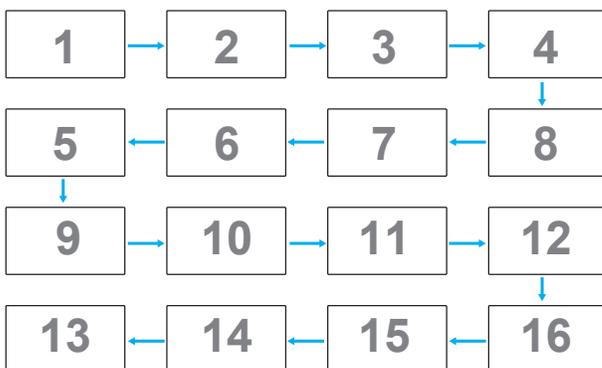
- ・ {オフ} – {モニターグループ} はサポートされません。
- ・ {1 ~ 254} – {モニターグループ} はサポートされます。デフォルト設定は 1 です。



温度ステータス

この機能を使用すると、ディスプレイの温度ステータスとファン速度を確認することができます。

	< 63° C	63° C	76° C	78° C
ファン	X	V	V	V
警告メッセージ	X	X	V	X
PD 電源オフ	X	X	X	V



詳細設定リセット

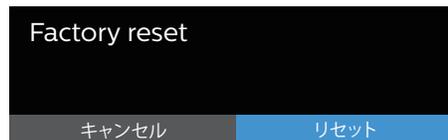
詳細設定のすべての設定を工場出荷時の値にリセットします。

Factory reset (オールリセット)

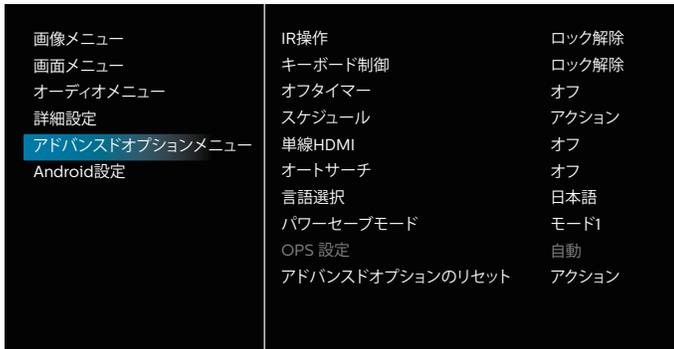
{ 画像メニュー }, { 画面メニュー }, { オーディオメニュー }, { 詳細設定 1 メニュー }, { 詳細設定 2 メニュー } および { アドバンスドオプションメニュー } のカスタマイズされたすべての設定を工場出荷時のデフォルト値にリセットします。

[←] または [→] ボタンを押して [リセット] を選択し、[RESET] を押してリセットします。

工場出荷時の状態にリセットすると、システムはメディアプレーヤーモードになります。



6.2.5. アドバンスドオプションメニュー



IR 操作

RS232C 接続によって複数のディスプレイが接続されている場合、リモート制御の操作モードを選択します。

- **{ ロック解除 }** - すべてのディスプレイを、リモコンで正常に動作させることができます。
- **{ プライマリ }** - このディスプレイを、リモコン操作用の1次ディスプレイとして指定します。リモコンでは、このディスプレイのみを操作できます。(Primary モードでは、常に、IR キーは、モニター ID/ グループ設定にかかわらず処理されます。)
- **{ セカンダリ }** - このディスプレイを2次ディスプレイとして指定します。このディスプレイはリモコンでは操作できず、RS232C 接続を通して1次ディスプレイからの制御信号のみを受信します。
- **{ すべてロック } / { 音量以外すべてロック } / { 電源以外すべてロック } / { 電源と音量以外を全ロック }** - このディスプレイのリモコン機能をロックします。ロック解除するには、リモコンの [情報] ボタンを6秒間以上長押しします。IR をロックすると、OSD メニューから自動的に終了します。

IR 操作がロックされている場合、警告メッセージは表示されません。

キーボード制御

このボタンを選択すると、キーボード (コントロールボタン) 機能が有効または無効になります。

- **{ ロック解除 }** - キーボード機能を有効にします。
- **{ すべてロック } / { 音量以外すべてロック } / { 電源以外すべてロック } / { 電源と音量以外を全ロック }** - 選択したオプションに応じて、キーボード機能を無効にします。

注記: 「キーボードコントロールロックモード」この機能は、すべてのキーボード制御機能へのアクセスを完全に無効にします。キーボードコントロールロックの有効 / 無効を切り替えるには、[VOL+] と [UP] ボタンを押してから、3秒以上押し続けます。

オフタイマー

自動電源オフ時間 (時間単位) で設定します。

スケジュール

1. デフォルトの開始時間と終了時間は 00:00 です。
2. 開始時間と終了時間は、スケジュールと同じ日付である必要があります。



- ライフサイクルを設定します。
- 戻る:
 - 変更を保存せずに終了します。
- 保存:
 - スケジュールデータを保存します。

単線 HDMI

CEC 制御。

- **{ オフ }** - CEC を無効にします。(デフォルト)
- **{ オン }** - CEC を有効にします。

次の機能がサポートされています。

- ワンタッチプレイを使用すると、デバイスはディスプレイを切り替えて、再生開始時にアクティブなソースとして使用できます。
- システムスタンバイを使用すると、ユーザーは1つのボタンを押すだけで複数のデバイスをスタンバイモードに切り替えることができます (1線式電源がオフの HDMI はオンです)。

オートサーチ

この機能により、システムは利用可能な信号源を自動的に検出して表示することができます。

オートサーチの条件:

1. サブモードは「オフ」です
2. ログを表示した後
3. 電源状態は電源オフではありません

オプションは次の通りです:

{ オフ } / { すべて } / { フェイルオーバー }

{ オフ }: 自動信号検出を無効化します

{ すべて }: OPS -> HDMI1 -> HDMI2 -> HDMI3 -> HDMI4 -> DisplayPort -> DVI-D -> USB-TypeC -> VGA -> メディアプレーヤー -> ブラウザー -> CMND&PLAY -> カスタム -> ホーム

{ フェイルオーバー }:

- フェイルオーバー 1: HOME (デフォルト)
- フェイルオーバー 2: HOME (デフォルト)
- フェイルオーバー 3: HOME (デフォルト)
- フェイルオーバー 4: HOME (デフォルト)
- フェイルオーバー 5: HOME (デフォルト)
- フェイルオーバー 6: HOME (デフォルト)
- フェイルオーバー 7: HOME (デフォルト)
- フェイルオーバー 8: HOME (デフォルト)

- フェイルオーバー9: HOME (デフォルト)
- フェイルオーバー10: HOME (デフォルト)
- フェイルオーバー11: HOME (デフォルト)
- フェイルオーバー12: HOME (デフォルト)

フェイルオーバーの動作では、信号が失われた場合、優先順位リストで定義されている次の使用可能なソースに順番に表示されます。以下ではフェイルオーバーが一時停止されます。信号が再び失われるとフェイルオーバーが再開されます。

- ソース起動: ディスプレイの電源がオンになると、この OSD オプションで定義されたソースに移動します。
- スケジューラー: スケジューラーによってディスプレイの電源がオンになると、現在の時刻に従って対応するソースに移動します。
- ユーザー操作: 現在のソースが何であっても、ユーザーが手動でソースを変更すると、フェイルオーバーは一時停止します。電源投入後に第1優先ソースからフェイルオーバーが開始されるようにするには、第1優先ソースもソース起動として設定してください。

言語選択

OSD メニューで使用する言語を選択します。

オプションは次の通りです: English/Deutsch/ 简体中文 / Français/Italiano/Español/Русский/PolSKI/Türkçe/ 繁體中文 / 日本語 / Português/ العربية / Danish/Swedish/Finnish/ Norwegian/Dutch.

パワーセーブモード

モード1 [TCP オフ、WOL オン、自動オフ]

モード2 [TCP オフ、WOL オン、自動オン / オフ]

モード3 [TCP オン、WOL オフ、自動オン / オフ]

モード4 [TCP オン、WOL オフ、自動オン / オフなし]

パワーセーブモード

モード1: DC オフ → 電源オフ、LED: 赤。

パワーセーブ → 電源オフ、LED: 赤

モード2: DC オフ → 電源オフ、LED: 赤。

パワーセーブ → パワーセービング。LED: オレンジ。ウェイクアップすることができます。

モード3: DC オフ → バックライトオフ、LED: 赤

パワーセーブ → バックライトオフ、LED: オレンジ。ウェイクアップすることができます。

モード4: DC オフ → バックライトオフ、LED: 赤

パワーセーブ → パワーセーブモードに入りません。「信号なし」のみが表示されます。

	RCU 電源ボタンオフ	信号なし	Android
モード1	DC オフ	DC オフ	ボード電源オフ
モード2	DC オフ	信号が戻ると、システムがウェイクアップします	ボード電源オフ
モード3	バックライトオフ	バックライトオフ	電源オン状態を維持します
モード4	バックライトオフ	バックライトオン、信号表示なし	電源オン状態を維持します

以下の表は、異なる電源モードでの Android ボードに対する動作です。

DC オフ / オン: RC により電源ボタンを押します

OSD の電力モード	モード 1/2	モード 3/4
DC オフ	シャットダウン	1. 現在のソース APK (メディアプレーヤー、ブラウザー、SmartCMS) は閉じられます。 2. Android システムは、デフォルトブランクランチャーに進みます。
DC オン	起動	1. Android システムの再起動

OPS 設定

各電源条件下で OPS 詳細設定を設定します。

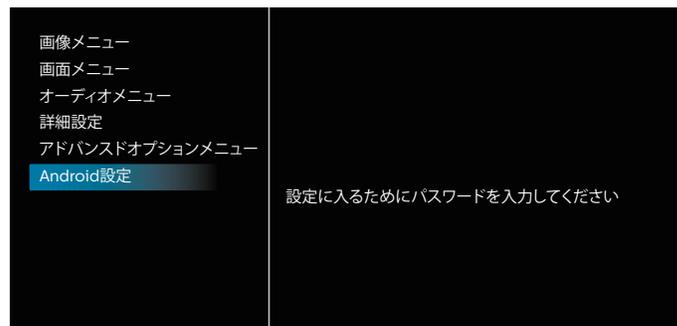
- {自動} - 動画ソース入力に {Card OPS} (カード OPS) を選択した後、ディスプレイの電源がオフに設定されている場合、OPS はオフに設定されます。その逆も同様です。その他の動画ソース入力に設定されている場合、OPS は常にオンに設定されます。
- {常にオフ} - OPS は常にオフに設定されます。
- {常にオン} - OPS は常にオンに設定されます。

アドバンスドオプションのリセット

アドバンスドオプションメニューのすべての設定を工場出荷時の値にリセットします。

1. [SET] または [] ボタンを押して、サブメニューに入ります。
2. [] または [] ボタンを押して {リセット} を選択し、次に [SET] ボタンを押して設定を工場出荷時の値に復元します。
3. [終了] ボタンを押すか {キャンセル} を選択し、次に [SET] ボタンを押してキャンセルして前のメニューに戻ります。

6.2.6. Android 設定



Pincode (Pin コード)

デフォルトのパスワードは 1234 です。

詳細については、5. Setting (設定) の手順を参照してください

7. 対応するメディア形式

USB マルチメディアコーデック形式

ビデオのデコード						
タイプ	ビデオコーデック	コンテナ	デコード	エンコード	チャンネル	注意
MPEG1/2	MPEG1/2	PEG プログラムストリーム (.DAT, .VOB, .MPG, .MPEG) MPEG トランスポートストリーム (.ts) MP4 (.mp4) AVI (.avi) MKV (.mkv)	V			最大解像度:1080P@60fps 最大ビットレート:40Mbps
MPEG-4	MPEG4	MP4 (.mp4) AVI (.avi) MKV (.mkv)	V			最大解像度:1080P@60fps 最大ビットレート:40Mbps
H.263	H.263	FLV (.flv) AVI (.avi)	V			最大解像度:1080P@60fps 最大ビットレート:40Mbps
H.264	H.264	FLV (.flv) MP4 (.mp4) MPEG トランスポートストリーム (.ts) ASF (.asf) WMV (.wmv) AVI (.avi) MKV (.mkv)	V			最大解像度:1080P@60fps 最大ビットレート:135Mbps 4K2K@30fps 8K@30HZ
H.265	H.265	MP4 (.mp4) MPEG トランスポートストリーム (.ts) MKV (.mkv)	V			最大解像度:4K2K@60fps 最大ビットレート:100Mbps 8K@30HZ
GOOGLE VP8	VP8	MKV (.mkv) WebM (.webm)	V			最大解像度:1080P@30fps 最大ビットレート:20Mbps
Motion JPEG	MJPEG	AVI (.avi) MP4 (.mp4)、MKV (.mkv)	V			最大解像度:1920*1080 @30fps 最大ビットレート:40Mbps

オーディオデコード

タイプ	オーディオコーデック	コンテナ	デコード	エンコード	チャンネル	注意
MPEG オーディオ	MPEG1/2/2.5 オーディオレイヤー 1/2/3	MP3	V		2	ビットレート:8kbps ~ 320Kbps サンプリングレート:16KHZ ~ 48KHZ
Windows メディア オーディオ	WMA バージョン 7, 8, 9, 10 pro M0, 10 Pro M1, M10 Pro M2	デコード: WMA	V		2	ビットレート:8kbps ~ 768Kbps サンプリングレート:8KHZ ~ 96(M10)KHZ 非対応 LBR
AAC オーディオ	MAIN, ADIF, ATDS ヘッダー AAC-LC および AAC-HE	ファイル形式: AAC, M4A	V		5.1	ビットレート:該当なし サンプリングレート:8KHZ ~ 48KHZ

画像デコード

タイプ	画像コーデック	写真	デコード	エンコード	チャンネル	注意
JPEG	JFIF ファイル形式 1.02	ファイル形式: JPG, JPEG	V			最大解像度:7000 x 7000 最大解像度の限度は DRAM によって異なります。
BMP	BMP	ファイル形式: BMP	V			最大解像度:15360 x 8640 最大解像度の限度は DRAM によって異なります。
PNG	PNG	ファイル形式: PNG	V			最大解像度:15360 x 8640 最大解像度の限度は DRAM によって異なります。

メモ：

- ・ コンテンツが上記のテーブルに記された対応フレーム / 秒以上の標準ビットレート / フレーム率である場合、音声や動画が作動しない可能性があります。
- ・ コンテンツが上記のテーブルに記述された比率以上のビットレートやフレーム率である場合、再生すると途切れがちな映像になる可能性があります。

8. 入力モード

VGA/DVI タイミングサポート:

項目	モード	解像度	水平周波数 (KHz)	垂直周波数 (Hz)
1	IBM VGA 10H	640x350	31.469	70.086
2	IBM VGA 12H	640x480	31.469	59.94
3	MACINTOSH	640x480	35	66.67
4	VESA	640x480	37.861	72.809
5	VESA	640x480	37.5	75
6	IBM VGA 3H	720x400	31.469	70.087
7	VESA	800x600	35.156	56.25
8	VESA	800x600	37.879	60.317
9	VESA	800x600	48.077	72.188
10	VESA	800x600	46.875	75.000
11	MACINTOSH	832x624	49.726	74.551
12	VESA Standard AddDMT	848x480	31	60.000
13	-	960x720	56.4	75.000
14	VESA	1024x768	48.363	60.004
15	VESA	1024x768	56.476	70.069
16		1152x864	53.986	59.985
17	VESA	1152x864	53.783	59.959
18		1152x864	63.851	70.012
19	VESA	1152x864	67.5	75.000
20	SUN WS	1152x900	61.846	66.004
21	-	1280x720	44.772	60.000
22	-	1280x720	52.5	70.000
23	CVT 2.3MA	1280 x768	47.776	59.870
24	CVT 2.3MA	1280 x768	60.289	74.893
25	CVT	1280x800	49.7	59.810
26	CVT	1280x800	62.8	74.930
27	VESA	1280x960	60	60.000
28	VESA	1280x1024	63.981	60.020
29	SUN WS	1280x1024	71.691	67.189
30	VESA	1280x1024	79.976	75.025
31	VESA Standard AddDMT	1360x768	47.712	60.015
32	VESA Standard AddDMT	1366x768	47.712	59.790
33	VESA- ブランキング低減モード	1440x900	55.469	59.901
34	VESA	1440x900	55.935	59.887
35	VESA	1440x900	70.635	74.984
36	CVT- ブランキング低減	1400x1050	64.744	59.948
37	CVT AddDMT	1440x1050	65.3	60.000
38	CVT	1400x1050	82.278	74.867
39	CVT Red. ブランキング	1600x900	55.54	60.000
40	VESA	1600x1200	75	60
41	CVT1.76MW	1680x1050	65.29	59.954
42	CVT1.76MW-R	1680x1050	64.674	59.883
43	CVT 2.3MA-R	1920x1080	66.587	59.934
44	VESA Standard VDMTREV	1920x1080	67.5	60.000
45	CVT1960H	1920x1080	67.1584	59.963
46	VSC1960H	1920x1080	67.08	60
47	CVT 2.3MA-R	1920x1200	74.038	59.950

4K2K

項目	解像度	水平周波数 (KHz)	垂直周波数 (Hz)
1	3840x2160	53.946	23.900
2	3840x2160	54	24.000
3	3840x2160	56.25	25.000
4	3840x2160	67.432	29.900
5	3840x2160	67.5	30.000
6	3840x2160	112.5	50.000
7	3840x2160	135	60.000

ビデオタイミングサポート (HDMI/DVD HD/DVI)

項目	モード	解像度	コメント
1	60Hz	480i	DVI を除く
2		480p	
3		720p	
4		1080i	
5		1080p	
6		4Kx2K	DVI を除く
7	50Hz	576i	DVI を除く
8		576p	
9		720p	
10		1080i	
11		1080p	
12		4Kx2K	DVI を除く

注記: OPS は 3840x2160@30Hz に対応。

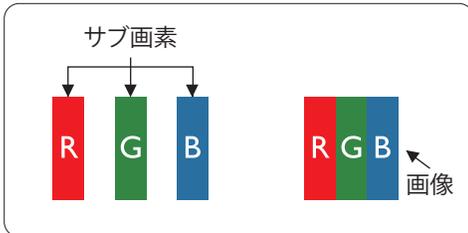
- PC のテキスト品質は、UHD1080 モード (3840 x 2160、60Hz) で最適です。
- お使いの PC ディスプレイ画面は、メーカー (および Windows の特定のバージョン) により異なって表示されることがあります。
- PC をディスプレイに接続する情報については、お使いの PC の取扱説明書を確認してください。
- 垂直と水平の周波数選択モードが存在する場合、60Hz (垂直) と 31.5KHz (水平) を選択します。場合によって、PC の電源が OFF の場合 (または PC が接続されていない場合) に異常な信号 (縞模様など) が画面に表示されることがあります。その場合はディスプレイ本体の「INPUT」ボタンもしくは、リモコンの「SOURCE」ボタンを押してビデオモードに入ります。また、PC が接続されていることを確認してください。
- 水平同期信号が RGB モードで不規則に見えるときは、PC の省電力モードまたはケーブル接続を確認してください。
- 本製品の設定表は IBM/VESA 規格に準拠しており、アナログ入力に基づいています。
- DVI サポートモードは PC サポートモードと同じと見なされます。
- 各モードの最適な垂直周波数は 60Hz です。
- 解像度が 3840x2160 50/60Hz の場合、HDMI 認定ケーブル (プレミアム高速 HDMI ケーブル) を装備する必要があります。

9. 画素欠陥ポリシー

当社は最高品質の製品をお届けすることを目指して、業界でもっとも進んだ製造プロセスと可能な限りもっとも厳しい品質管理を採用しています。しかしながら、プラズマおよび LCD ディスプレイで使用される PDP / TFT パネルの画素またはサブ画素に欠陥が生じるのはやむを得ない場合があります。すべてのパネルに画素欠陥がないことを保証できるメーカーはありませんが、Philips では保証期間中であれば、地域の保証条件と一致して、受け入れられない数の欠陥があるプラズマおよび LCD ディスプレイを修理または交換することを保証します。

この通知はさまざまな種類の画素欠陥を説明し、LCD 画面について受け入れられる欠陥レベルを定義するものです。保証に基づき修理の資格を得るには、欠陥画素の数が参照表で示した特定のレベルを超えている必要があります。LCD 画面が仕様の範囲内である場合、保証による交換 / 返金はお断りいたします。また、ある種類または組み合わせの画素欠陥が他のものより顕著であることもあるため、Philips ではこれらのものに対してより高い品質規格を設定しています。

9.1. 画素とサブ画素



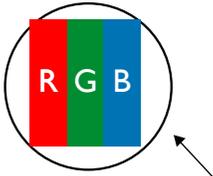
画素、または画像要素は赤、緑、青の原色の3つのサブ画素で構成されています。多くの画素が集まって画像を形成します。画素のすべてのサブ画素が明るいとき、3つの色の付いたサブ画素が1つの白い画素として一緒に表示されます。すべての画素が暗くなると、3つの色の付いたサブ画素は1つの黒い画素として集まって表示されます。点灯するサブ画素と暗いサブ画素のその他の組み合わせは、他の色の1つの画素として表示されます。

9.2. 画素欠陥の種類 + ドット定義

画素とサブ画素の欠陥は、さまざまな方法で画面に表示されます。画素欠陥には3つのカテゴリーがあり、各カテゴリーにはいくつかの種類の子画素欠陥があります。

ドット定義 = 欠陥のある「ドット」とは何か？

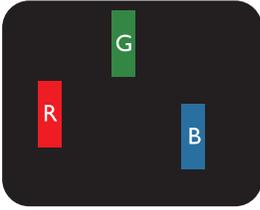
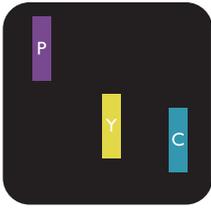
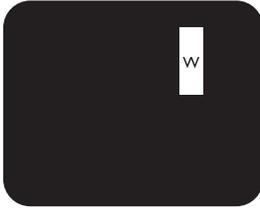
1つ以上の欠陥、隣接するサブ画素は1つの「ドット」として定義されます。欠陥のあるサブ画素の数は、欠陥ドットの定義に関連しません。つまり、欠陥ドットは1、2または3つの暗いまたは点灯する、欠陥サブ画素で構成されることがあります。



1つのドット = 赤、緑、青の3つのサブ画素で構成される1つの画素。

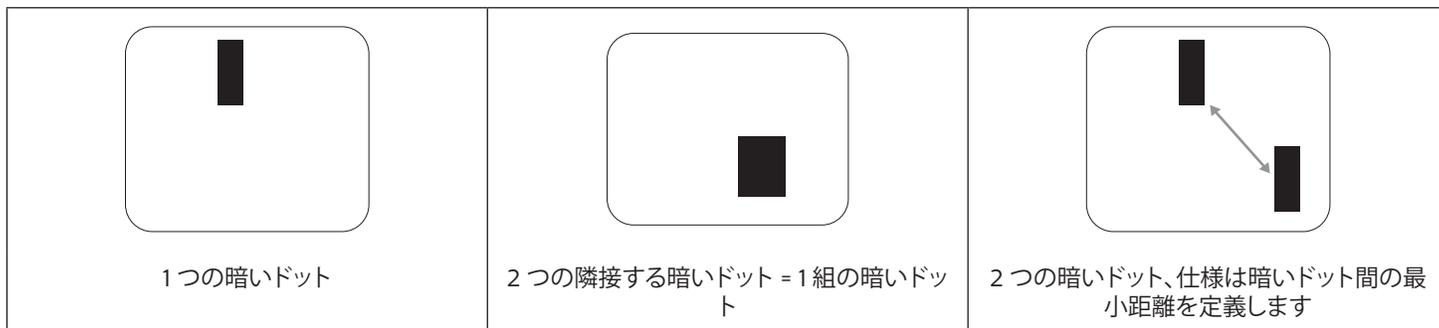
9.3. 明るいドット欠陥

明るいドット欠陥は、常時点灯または「オン」になっている画素またはサブ画素として表されます。以下に、明るいドット欠陥の例を紹介します。

 <p>1つの点灯する赤、緑または青いサブ画素。</p>	 <p>2つの隣接する点灯サブ画素： 赤 + 青 = 紫 赤 + 緑 = 黄 緑 + 青 = 青緑 (ライトブルー)</p>	 <p>3つの隣接する点灯サブ画素 (1つの白い画素)</p>
---	---	--

9.4. 暗いドット欠陥

暗いドット欠陥は、常に暗いかまたは「オフ」になっている画素またはサブ画素として表されます。以下に、暗いドット欠陥の例を紹介します：



9.5. 画素欠陥の近接

互いに近くにある同じ種類の画素とサブ画素欠陥はとも目立つため、Philips では画素欠陥の近接の許容範囲についても指定しています。以下の表で、その仕様をご確認ください：

- ・ 許容される量の隣接する暗いドット = (隣接する暗いドット = 1組の暗いドット)
- ・ 暗いドット間の最小距離
- ・ すべての欠陥ドットの総数

9.6. 画素欠陥の許容範囲

保証期間中に画素欠陥による修理または交換の資格を得るには、Philips プラズマ / LCD ディスプレイの PDP / TFT モニタパネルに、次の表に一覧された許容範囲を超えた画素またはサブ画素欠陥がある必要があります。

明るいドット欠陥	受け入れられるレベル
1つの明るいサブ画素	2
黒いドット欠陥	受け入れられるレベル
1つの暗いサブ画素	10
すべての種類の総ドット欠陥	12

注記： * 1つまたは2つの隣接するサブ画素欠陥 = 1つのドット欠陥

9.7. MURA

一部の LCD (液晶ディスプレイ) パネルには、暗い点またはパッチがときどき現れることがあります。この現象は、日本語の「ムラ」という用語である Mura として業界では知られています。これは、均一でない画面均一性が特定の条件下で現れる領域の様なパターンを説明するために使用されます。Mura は液晶配向層の劣化の結果で、高い周辺温度下での長期間の操作が原因でもっとも一般的に引き起こされます。これは業界全体の現象で、Mura は修理できません。これも、当社の保証条件の対象外です。

Mura は LCD 技術の導入から、画面が大きくなり1日 24 時間休みなしに稼働するようになり、多くのディスプレイが低い低光量の条件下で動作されるようになってからなくなることはない現象です。こういったことすべてが、ディスプレイに影響を与える Mura の可能性を高めています。

MURA を見分ける方法

Mura には多くの症状と、複数の原因があります。これらのいくつかを、以下に一覧します：

- ・ 結晶マトリックスの混入物または異物
- ・ 製造中の液晶マトリックスの不均等な分布
- ・ バックライトの付近位置な輝度分布
- ・ パネル部品誘発ストレス
- ・ LCD セル内部の傷
- ・ 熱誘発ストレス - 長期間にわたる高温での操作

MURA を避ける方法

毎回 Mura を完全に根絶する保証はできませんが、一般に Mura の出現は以下の方法により最小限に抑えることができます：

- ・ バックライトの明るさを下げる
- ・ スクリーンセーバーを使用する
- ・ 装置周囲の空気温度を下げる

10. 清掃とトラブルシューティング

10.1. 清掃

製品を使用する際の注意

- ・ 手や顔、物をディスプレイの通気口に近づけないで下さい。ディスプレイ上部は、通気口から放出される排気のため高温となっており、身体の一部を近づけ過ぎると火傷や怪我をすることがあります。ディスプレイの上部付近に物を置くと、当該物およびディスプレイ本体に、熱による破損が生じる可能性があります。
- ・ モニターを移動する際は、必ずすべてのケーブルを抜いて下さい。ケーブルが接続されたままモニターを移動させると、ケーブルの破損や火事、感電を引き起こす恐れがあります。
- ・ 清掃や保守作業を行う際には、必ず電源プラグをコンセントから抜いて下さい。

前面パネル清掃手順

- ・ ディスプレイの液晶パネル部は非常にデリケートです。表面はクリーニング用のクロスか、柔らかい糸くずの出ない布で優しく拭いて下さい。
- ・ 液晶パネル表面が汚れた場合には、中性洗剤の溶液に柔らかい糸くずの出ない布を浸し、固く絞って余分な水分を取り除いた上で、液晶パネル表面を拭き埃を除いて下さい。その後、同じ種類の乾いた布で拭いて下さい。
- ・ 液晶パネル表面を爪で引っ掻いたり、硬い物をぶつけたりしないで下さい。
- ・ 殺虫剤、溶剤、シンナーのような揮発性物質を使用しないで下さい。

キャビネット清掃手順

- ・ キャビネットが汚れたら、柔らかい乾いた布で拭いて下さい。
- ・ キャビネットの汚れがひどい場合は、中性洗剤の溶液に柔らかい糸くずの出ない布を浸し、固く絞って水分を取り除いた上で、キャビネット表面を拭きます。その後、別の乾いた布で拭いて表面を乾かして下さい。
- ・ プラスチック部品の洗浄に油を含む溶液を使用しないでください。こういった溶液はプラスチック部品を損傷し、保証を無効にします。
- ・ 液晶パネル表面は、水や洗剤にさらさないようにして下さい。水分がディスプレイ内部に入り込むと、動作不良や故障、感電事故が起こる恐れがあります。
- ・ キャビネットを爪で引っ掻いたり、硬い物をぶつけたりしないで下さい。
- ・ キャビネットには殺虫剤、溶剤、シンナーのような揮発性物質を使用しないで下さい。
- ・ ゴム製品またはポリ塩化ビニール製品を長期間キャビネット付近に置かないで下さい。

10.2. トラブルシューティング

症状	想定される原因	対処
映像が表示されない	<ol style="list-style-type: none"> 1. 電源プラグが抜けている。 2. ディスプレイの背面にある主電源スイッチがオンになっていない。 3. 選択された入力ソースが接続されていない。 4. ディスプレイがスタンバイモードになっている。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 電源コードをコンセントに差し込みます。 2. 電源スイッチが ON であることを確認します。 3. ディスプレイに入力ソースを接続します。
本製品で表示される画像が乱れる、または音声にノイズが聞こえる	周囲に電子機器や蛍光灯がある。	干渉が少ない場所にディスプレイを移動させます。
色がおかしい	信号ケーブルが正しく接続されていない。	本製品の背面に信号ケーブルが確実に接続されていることを確認します。
映像が異常なパターンで歪んでいる	<ol style="list-style-type: none"> 1. 信号ケーブルが正しく接続されていない。 2. 入力ソースがディスプレイのスペックに合っていない。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 信号ケーブルが確実に接続されていることを確認します。 2. 本製品の範囲を超えていないか、ビデオ信号ソースを確認します。本製品の仕様のセクションで、仕様を確認してください。
表示画像が画面サイズいっぱいに表示されない	<ol style="list-style-type: none"> 1. ズームモードが正しく設定されていない。 2. スキャンモードが誤ってアンダースキャンに設定されている。 3. 画面メニューのズームモードまたは CUSTOM ZOOM メニューで、画像の配置を調整します。 	画像が画面サイズを超える場合、スキャンモードをアンダースキャンに設定する必要があります。
音声は聞こえるが、映像が表示されない	ソース信号ケーブルが正しく接続されていません。	ビデオ入力と音声入力の両方が正しく接続されていることを確認します。
映像は表示されるが、音が聞こえない	<ol style="list-style-type: none"> 1. ソース信号ケーブルが正しく接続されていません。 2. 音量が一番低く設定されている。 3. {ミュート} がオンになっている。 4. 外部スピーカーが接続されていない。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. ビデオ入力と音声入力の両方が正しく接続されていることを確認します。 2. [+] または [-] ボタンを押して音声が聞こえるか確認します。 3. [] ボタンを使ってミュートをオフにします。 4. 外部スピーカーを接続し、適切なレベルに音量を調節します。
一部の画素が光らない	ディスプレイの一部のピクセルがオフになっています。	ディスプレイは精密な技術で製造されていますが、液晶パネルに画素欠陥が存在する場合があります。これは故障ではありません。
電源をオフにした後も残像が表示されています。(例: ロゴ、ビデオゲーム、コンピューター画像、4:3 の通常モードで表示された画像を含む静止画像)	静止画像を長時間表示した。	静止画像を長時間表示しないで下さい。ディスプレイ上に残像が表示される原因となります。

<p>すべてのモニターを RC から同時におよび個別に操作するために、メニューの設定をセットアップする方法は？</p>	<p>RS232 でデイジーチェーン接続し、IR ケーブルを使用しない</p>	<p>1. 最初のディスプレイを OSD で「Primary (プライマリ)」に設定し (ADVANCED OPTION(アドバンスドオプション)/リモコンモード項目)、他のディスプレイは「Secondary (セカンダリ)」に設定します。</p> <p>2. セットアップ OSD がディスプレイの左上に表示されます (表示が消える場合はメニューを切り替えると再び表示されます)。</p> <p>3. デフォルト設定: ID 番号: 0、GP 番号: 0、この設定で IR からすべてのディスプレイを操作できます。</p> <p>「+」、「-」を「ID 番号」に変更すれば、「モニター ID」で信号ディスプレイを操作できます。</p> <p>「UP(上)」、「DOWN(下)」を「GP 番号」に変更すれば、「モニター ID」でマルチディスプレイを操作できます。</p> <p>* 最初のディスプレイは常に IR で操作します。</p>
<p>RC の仕組みとは？</p>	<p>デイジーチェーン: RS232 を接続せずに、IR ケーブルを使用</p>	<p>設定は不要です。IR ケーブルで接続すれば IR で操作されます。</p> <p>* これにより、非同期現象が発生する可能性があります。RS-232 ケーブルで上記の設定を使用することをお勧めします。</p>

11. 技術仕様

ディスプレイ:

項目	仕様		
	65BDL3552T	75BDL3552T	86BDL3552T
画面サイズ (アクティブ領域)	163.9 cm/64.5 インチ	189.3 cm/74.5 インチ	217.4 cm/85.6 インチ
縦横比	16:9	16:9	16:9
画素数	3840 (水平) x 2160 (垂直)	3840 (水平) x 2160 (垂直)	3840 (水平) x 2160 (垂直)
画素ピッチ	0.372 (横) x 0.372 (縦) [mm]	0.4296 (横) x 0.4296 (縦) [mm]	0.4935 (横) x 0.4935 (縦) [mm]
表示可能色	10 億 7 千万色	10 億 7 千万色	10 億 7 千万色
輝度 (標準)	420 cd/m ²	420 cd/m ²	420 cd/m ²
コントラスト比 (標準)	1300:1	1200:1	1200:1
表示角度	178 度	178 度	178 度

入 / 出力端子:

項目		仕様
スピーカー出力	内部スピーカー	20W (左) + 20W (右) [RMS]/8 Ω 82 dB/W/M/160 Hz - 13 KHz
音声出力	3.5mm フォンジャック x 1	0.5V [rms] (標準) / 2 チャンネル (左 + 右)
音声入力	3.5mm フォンジャック x 1	0.5V [rms] (標準) / 2 チャンネル (左 + 右)
RS232	3.5mm フォンジャック x 2	RS232 入力 / RS232 出力
RJ-45	RJ-45 ジャック x 1 (8 ピン)	100 baseT
HDMI 入力	HDMI ジャック x 4 (タイプ A) (19 ピン)	デジタル RGB: TMDS (ビデオ + 音声) 最大: 動画 - 720p, 1080p, 3840 x 2160/60 Hz 音声 - 48 KHz/2 チャンネル (左 + 右) LPCM のみサポート
ディスプレイポート イン / アウト	ディスプレイポート ジャック x 2 (20 ピン) (入力 x1/ 出力 x1)	デジタル RGB: TMDS (ビデオ + 音声) 最大: 動画 - 720p, 1080p, 3840 x 2160/60 Hz 音声 - 48 KHz/2 チャンネル (左 + 右) LPCM のみサポート
DVI-D 出力	DVI-D ジャック	デジタル RGB: TMDS (ビデオ)
DVI-I 入力	DVI-I ジャック	デジタル RGB: TMDS (ビデオ) + アナログ RGB
SD カード	マイクロ SD カード	128GB まで対応
USB-B	USB-B x 2	
USB 入力	USB2.0 タイプ A x 2 USB3.0 タイプ A x 2	USB2.0 USB3.0

一般:

項目	仕様		
	65BDL3552T	75BDL3552T	86BDL3552T
電源入力	100 ~ 240V~, 50/60Hz	100 ~ 240V~, 50/60Hz	100 ~ 240V~, 50/60Hz
消費電力(最大)	350 W	380 W	650 W
消費電力(標準)	175 W	190 W	390 W
消費電力(スタンバイモード & オフモード)	<0.5 W	<0.5 W	<0.5 W
寸法(スタンドなし)[幅 x 高さ x 奥行き]	1494.3 x 869.4 x 106.8 mm	1715.5 x 993.7 x 108.7 mm	1961.0 x 1132.3 x 108.4 mm
重量(スタンドなし)	43.6 Kg	53.0 Kg	74.3 Kg
総重量(スタンドなし)	48.7 Kg	78.1 Kg	100.6 Kg
エネルギー効率クラス	B	B	B
可視画面サイズ	163.9 cm/64.5 インチ	189.3 cm/74.5 インチ	217.4 cm/85.6 インチ
オンモード消費電力(W)	175 W	256 W	373 W
年間消費電力(kWh)	256 kWh	374 kWh	545 kWh
スタンバイモード消費電力(W)	0.50 W	0.50 W	0.50 W
オフモード消費電力(W)	0.30 W	0.30 W	0.30 W
ディスプレイ解像度(ピクセル)	3840 x 2160	3840 x 2160	3840 x 2160
ネットワークスタンバイモード(W)	2 W	2 W	2 W

環境条件:

項目		仕様
温度	操作時	0 ~ 40° C
	ストレージ	-20 ~ 60° C
湿度	操作時	20 ~ 80% RH (結露なし)
	ストレージ	5 ~ 95% RH (結露なし)
高度	操作時	0 ~ 3,000 m
	保管時 / 輸送中	0 ~ 9,000 m



2021 © TOP Victory Investments Ltd. 無断複製および転載を
禁じます。

本製品は、Top Victory Investments Ltd.,によって製造され、
その責任の下で販売されており、Top Victory InvestmentsLtd.,
が本製品に関する保証人です。PhilipsおよびPhilipsShield
Emblemは、Koninklijke Philips N.V.の登録商標であり、
ライセンスに基づいて使用されています。

仕様は、事前の通知なしに変更することがあります。

バージョン: V1.03 2021-07-26